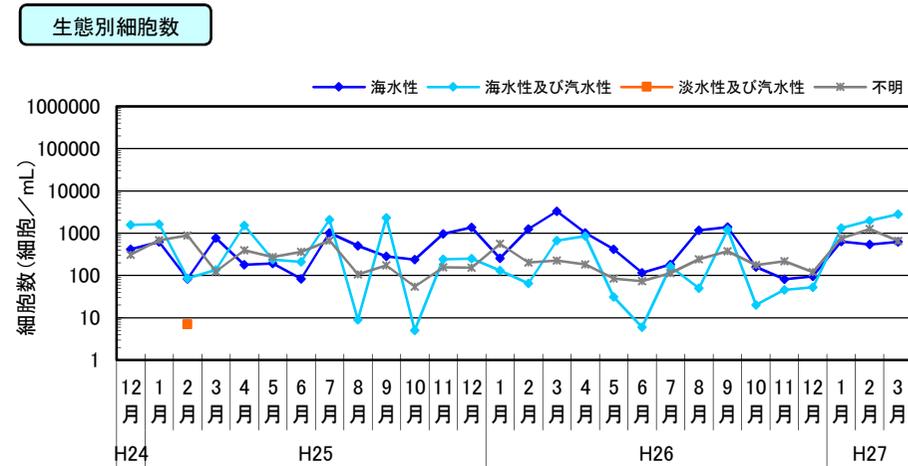
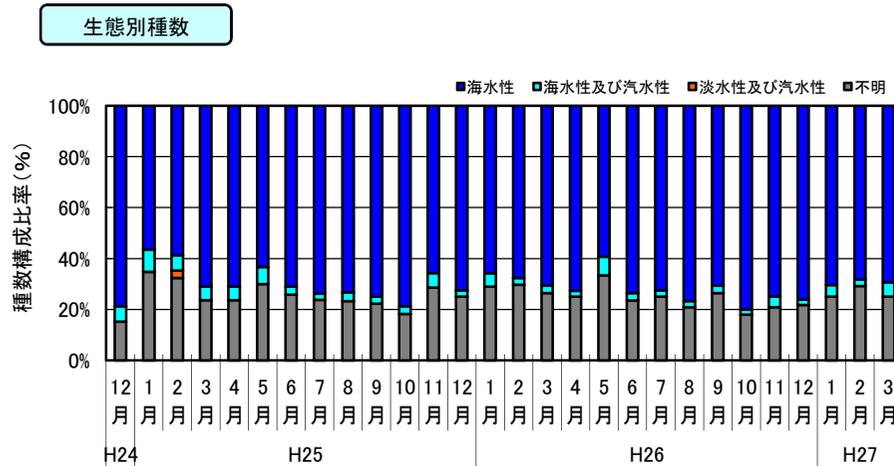
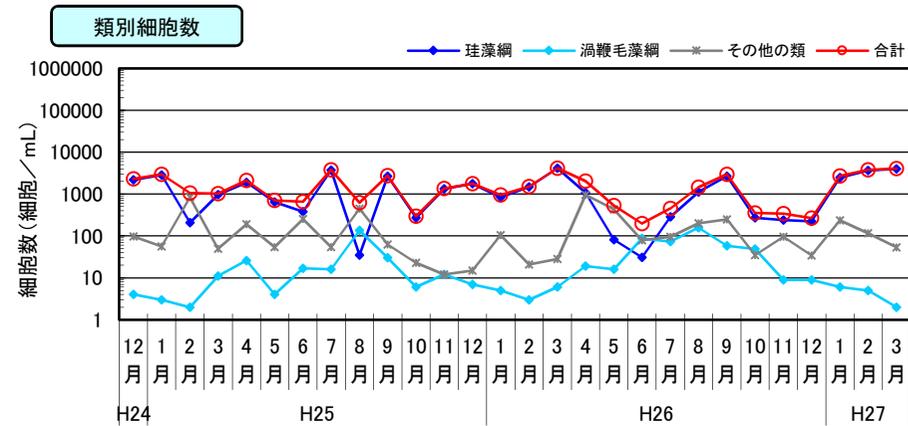
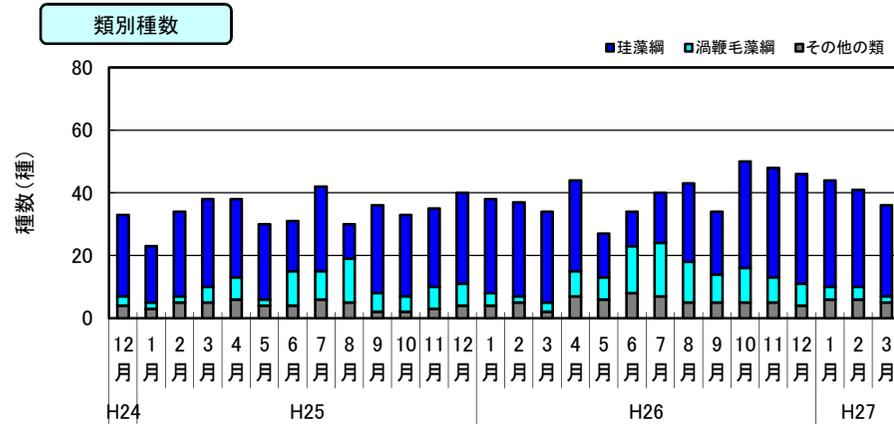
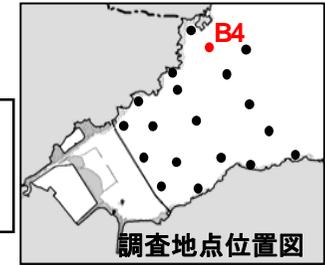


諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン

⑥諫早湾(B4)

- 種数は23～50種で珪藻綱、渦鞭毛藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
- 細胞数は196～4,162細胞/mLで珪藻綱、その他の類、渦鞭毛藻綱が多く、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。

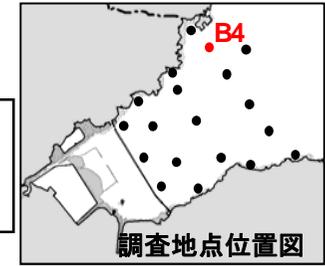


注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン
⑥諫早湾(B4)

○主な種は *Skeletonema* spp.(連結棘伸長型)、*Thalassiosira* spp.、*Eucampia zodiacus*、クリプト藻綱、*Prorocentrum minimum*、*Chattonella* spp.、*Heterosigma akashiwo*、*Lauderia annulata*、*Chaetoceros debilis*、*Chaetoceros didymus*、*Chaetoceros socialis*、*Asterionellopsis glacialis* などであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成24年												平成25年														
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
主な出現種 (%)	クリプト藻綱	不	クリプト藻綱																									
		海	<i>Prorocentrum minimum</i>	3.0	○	78.7	○	5.5	4.7	29.3	○	7.9	1.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		海	<i>Akashio sanguinea</i>			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ラフィド藻綱	不	<i>Ceratium furca</i>	○																								
		海	<i>Ceratium fuscus</i>	○																								
		海	<i>Chattonella</i> spp.																									
	珪藻綱	海	<i>Heterosigma akashiwo</i>																									
		海	<i>Lauderia annulata</i>																									
		海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	68.2	55.2	8.1	13.0	72.6	33.3	32.4	55.5	○	83.4	○	17.6	14.1												
		海	<i>Thalassiosira rotula</i>	○	3.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		不	<i>Thalassiosira</i> spp.	9.3	21.1	2.1	○	8.9	30.6	9.5	10.0	○	2.8	9.7	○	5.2												
		海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	○	2.1	60.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Bacteriastrium varians</i>																									
		海	<i>Bacteriastrium</i> spp.																									
		海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○				6.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海		<i>Chaetoceros danicus</i>	○				3.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Chaetoceros debilis</i>	6.0	5.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	26.7	41.0												
海		<i>Chaetoceros didymus</i>																										
海		<i>Chaetoceros lorentianus</i>																										
海		<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>																										
海		<i>Chaetoceros radicans</i>																										
海		<i>Chaetoceros socialis</i>	○	○	1.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Chaetoceros van heurckii</i>																										
不		<i>Chaetoceros</i> spp.					5.7	1.9		6.0	5.5	○			6.2													
海		<i>Diatum brightwellii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Asterionellopsis glacialis</i>	6.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Asteroplanus karianus</i>	○	11.4	○	○	○	○	13.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海	<i>Thalassionema nitescoides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他	不	不明(微細棘毛藻類)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			



項目	調査年月	平成26年												平成27年														
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月												
主な出現種 (%)	クリプト藻綱	不	クリプト藻綱																									
		海	<i>Prorocentrum minimum</i>	8.3	○	○	3.8	8.7	12.8	○	○	6.4	○	12.8	4.9	6.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		海	<i>Akashio sanguinea</i>	○																								
	ラフィド藻綱	不	<i>Ceratium furca</i>	○																								
		海	<i>Ceratium fuscus</i>	○																								
		海	<i>Chattonella</i> spp.																									
	珪藻綱	海	<i>Heterosigma akashiwo</i>																									
		海	<i>Lauderia annulata</i>																									
		海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	13.6	○	16.0	41.5	5.7	○	35.3	○	40.6	5.7	13.1	19.9	48.7	52.5	68.5										
		海	<i>Thalassiosira rotula</i>	14.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		不	<i>Thalassiosira</i> spp.	46.5	○	○	1.9	3.0	○	6.8	○	2.5	33.1	34.0	33.0	18.2	26.8	8.8										
		海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	12.4	47.9	○	○	○	○	○	12.7	19.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Bacteriastrium varians</i>																									
		海	<i>Bacteriastrium</i> spp.																									
		海	<i>Chaetoceros compressus</i>	2.5	○	17.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海		<i>Chaetoceros danicus</i>	○																									
海		<i>Chaetoceros debilis</i>	○	8.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.0	5.5	3.1											
海		<i>Chaetoceros didymus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Chaetoceros lorentianus</i>																										
海		<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>																										
海		<i>Chaetoceros radicans</i>																										
海		<i>Chaetoceros socialis</i>	2.5	38.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Chaetoceros van heurckii</i>																										
不		<i>Chaetoceros</i> spp.	○	6.3	2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Diatum brightwellii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Asterionellopsis glacialis</i>	○	5.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海		<i>Asteroplanus karianus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海	<i>Thalassionema nitescoides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他	不	不明(微細棘毛藻類)	2.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			

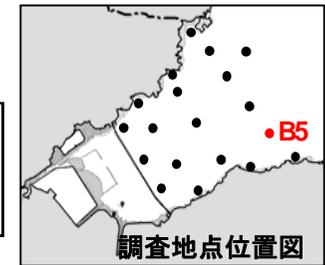
注1) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の細胞数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注2) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

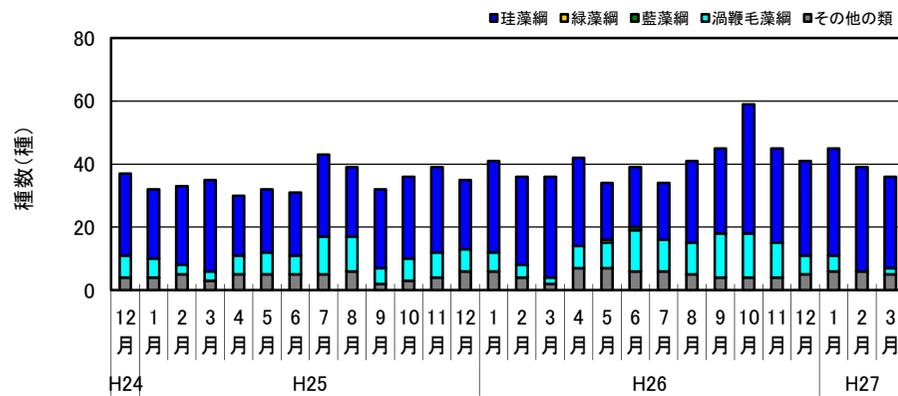
(7)水生生物 1)植物プランクトン

⑦諫早湾(B5)

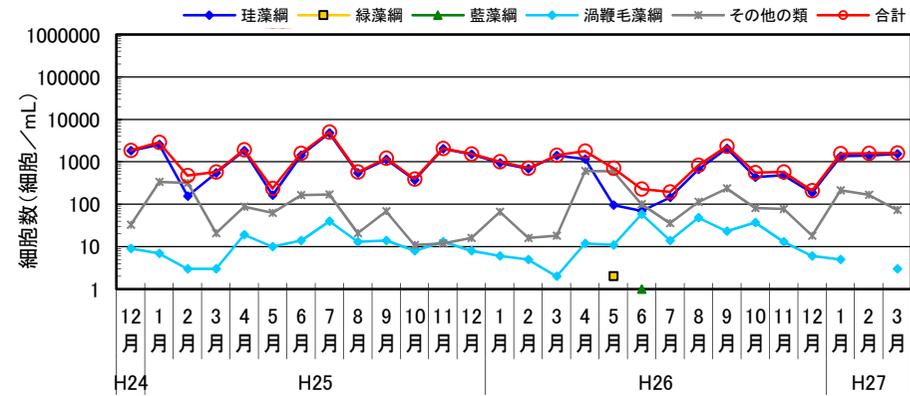
- 種数は30～59種で珪藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
- 細胞数は195～5,019細胞/mLで珪藻綱、その他の類が多く、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。



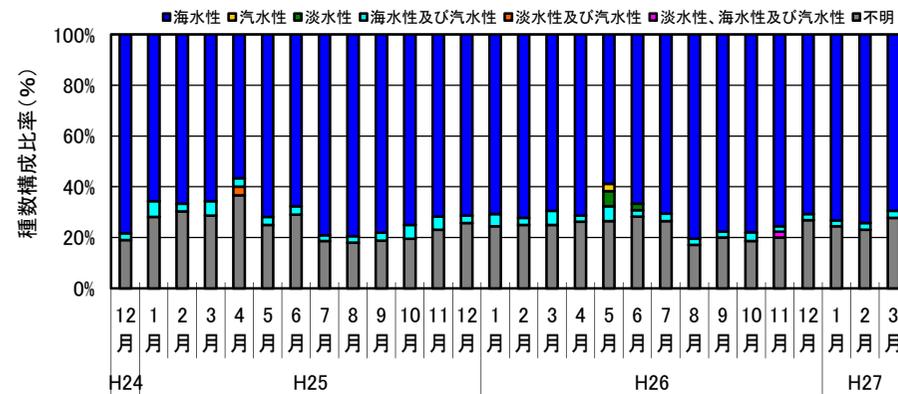
類別種数



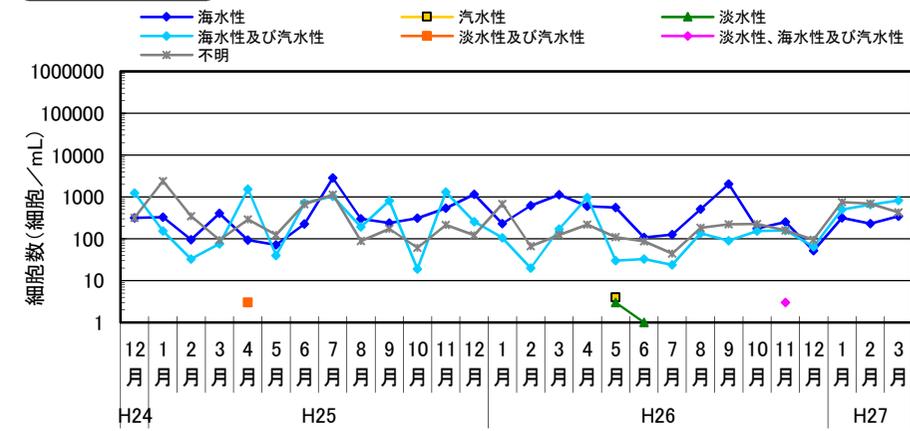
類別細胞数



生態別種数



生態別細胞数

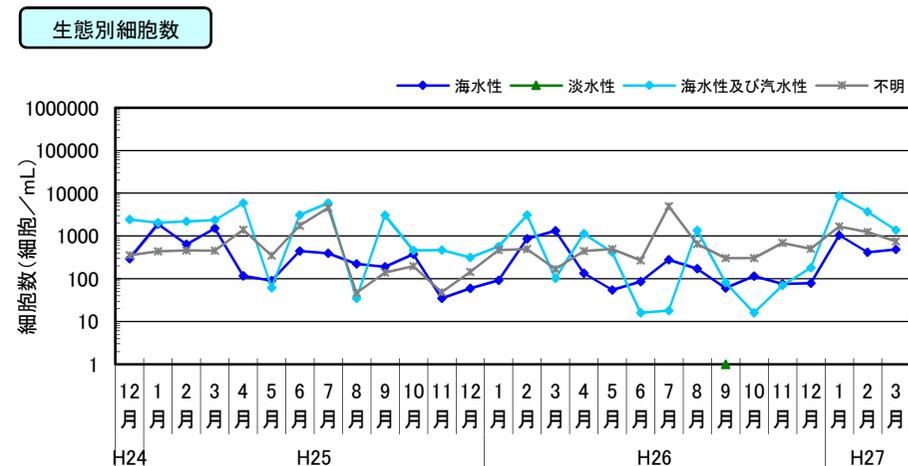
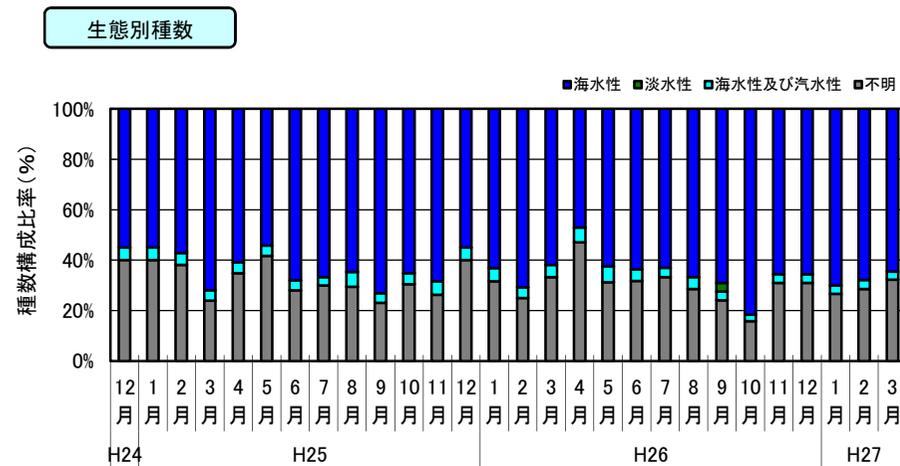
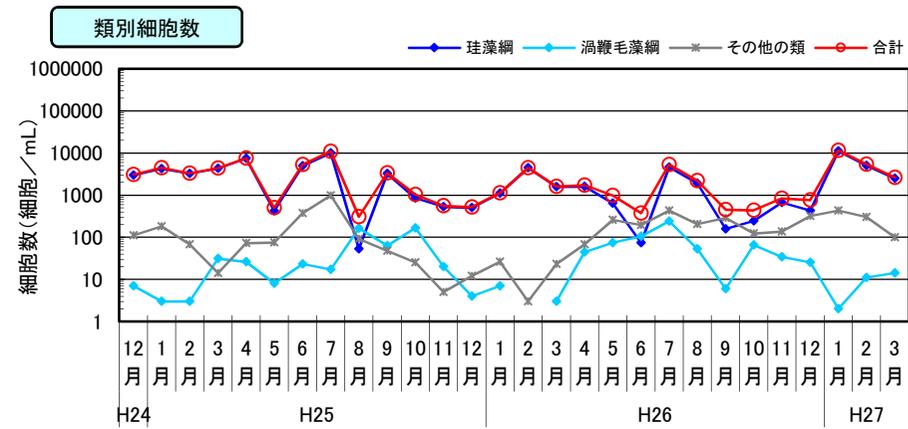
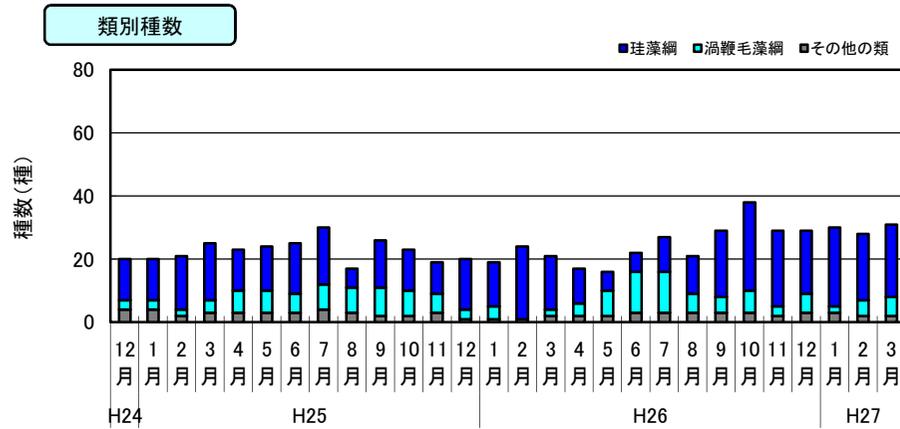


注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

(7)水生生物 1)植物プランクトン
⑧有明海(Stn4)



○種数は16～38種で珪藻綱、渦鞭毛藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
○細胞数は305～11,371細胞/mLで珪藻綱、その他の類、渦鞭毛藻綱が多く、生態別には主に海水性及び汽水性、海水性で構成されていた。

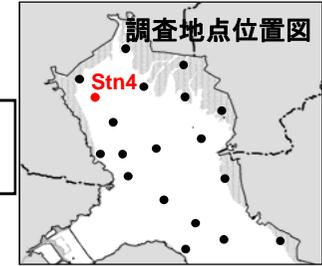


注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン
⑧有明海(Stn4)

○主な種は *Skeletonema* spp.(連結棘伸長型)、クリプト藻綱、*Thalassiosira* spp.、*Ceratium furca*、タラシオシラ科、*Eucampia zodiacus* などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年													
	平成24年	平成25年	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
主な出現種 (%)	クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	2.7	3.8	○	○	0.7	6.0	5.3	6.7	8.5	○	○	○	
		海	<i>Prorocentrum minimum</i>					○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.0	○	2.0	
		不	ギムノディニウム目													
	渦鞭毛藻綱	海	<i>Ceratium furca</i>									36.1	○	10.8	○	
		海	<i>Ceratium fusus</i>									8.5				
	ラフィド藻綱	海	<i>Chatonella</i> spp.									19.3				
		海	<i>Heterosigma akashiwo</i>													
	珪藻綱	海	<i>Lauderia annulata</i>													
		海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	78.9	46.5	66.5	54.3	79.6	12.4	58.5	54.4	11.5	90.3	44.6	85.0	61.1
		不	<i>Thalassiosira</i> spp.	6.3	4.6	9.4	○	17.5	58.9	21.9	24.1	○	1.7	10.4	4.3	18.1
		不	タラシオシラ科													
		海	<i>Eucampia zodiacus</i>			○	25.4							17.8		
		海	<i>Chaetoceros compressus</i>													
		海	<i>Chaetoceros debilis</i>	○		○	○	○		○						4.2
		海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>											1.3	○	
		海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○		○	○				4.7					○
		不	<i>Chaetoceros</i> spp.				5.8	○			3.6	○	○	0.9	4.8	
		海	<i>Asteroplanus karianus</i>	4.9	42.7	10.3	2.9	0.8	○	○						○
		海	<i>Thalassionema nitzschioides</i>													○
不		<i>Navicula</i> spp.		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海		<i>Cylindrotheca closterium</i>	2.9		6.5			5.0	○	○	○	○	○	0.9	2.7	
不		<i>Nitzschia</i> spp.	○	0.7	2.4	2.5	0.3	○	○	6.5				3.4	5.6	
ハプト藻綱		海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>				○	○	7.4							
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○							2.3	○	0.9	○		



項目	調査年月		平成26年												平成27年			
	平成26年	平成27年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	2.3	○	○	3.1	15.9	33.7	5.1	8.2	49.4	19.9	16.0	37.5	3.5	5.4	○
		海	<i>Prorocentrum minimum</i>						10.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○		○	○	○						10.0	○	○	○	○
		不	ギムノディニウム目						7.3	○	○	○	○		2.3			
	渦鞭毛藻綱	海	<i>Ceratium furca</i>															
		海	<i>Ceratium fusus</i>															
	ラフィド藻綱	海	<i>Chatonella</i> spp.															
		海	<i>Heterosigma akashiwo</i>							0.6								
	珪藻綱	海	<i>Lauderia annulata</i>												2.5			
		海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	49.9	69.5	6.4	66.1	43.3	○	○	61.9	18.3	3.7	8.4	23.7	76.3	68.8	53.0
		不	<i>Thalassiosira</i> spp.	38.6	10.1	2.0	13.6	11.4	5.9	○	16.4	○	38.4	60.5	12.1	9.5	15.7	22.2
		不	タラシオシラ科															
		海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	2.0	76.7							4.5	○			○	9.0
		海	<i>Chaetoceros compressus</i>			4.4												
		海	<i>Chaetoceros debilis</i>		○	○										2.9	○	3.1
		海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>										3.4					
		海	<i>Chaetoceros socialis</i>	1.4	9.5							○						
		不	<i>Chaetoceros</i> spp.			5.2												
		海	<i>Asteroplanus karianus</i>	4.3	4.6		3.9	○									1.4	○
		海	<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○												
不		<i>Navicula</i> spp.		○	○	○	○							4.6	○	○	○	
海		<i>Cylindrotheca closterium</i>								4.9	○	○	○	○	2.2	4.0	○	
不		<i>Nitzschia</i> spp.	○			8.1	8.5	○	○	○	○	○	○	6.6	○	○	○	
ハプト藻綱		海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>						10.8	17.8	2.4	○	13.9	8.1	○	○	○	
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)																

注1) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の細胞数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注2) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

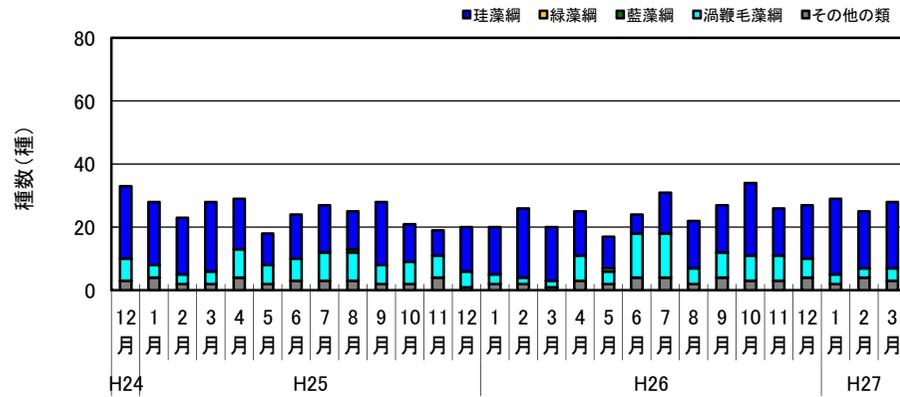
(7)水生生物 1)植物プランクトン

⑨有明海(Stn5)

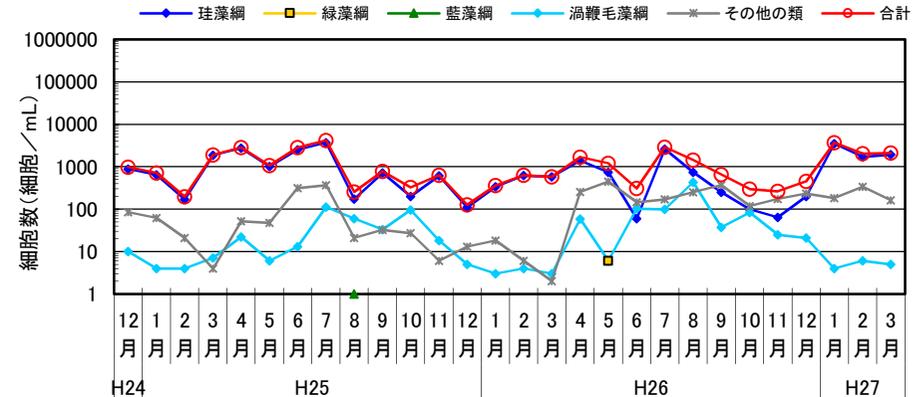
○種数は17～34種で珪藻綱、渦鞭毛藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○細胞数は127～4,134細胞/mLで珪藻綱、その他の類が多く、生態別には主に海水性及び汽水性、海水性で構成されていた。



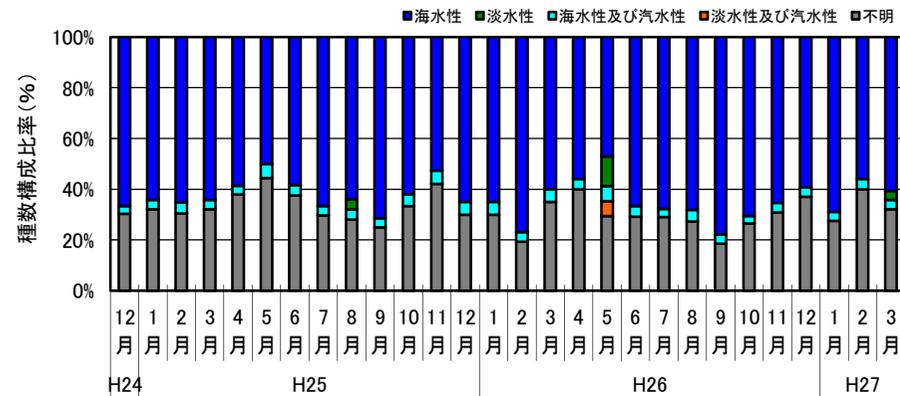
類別種数



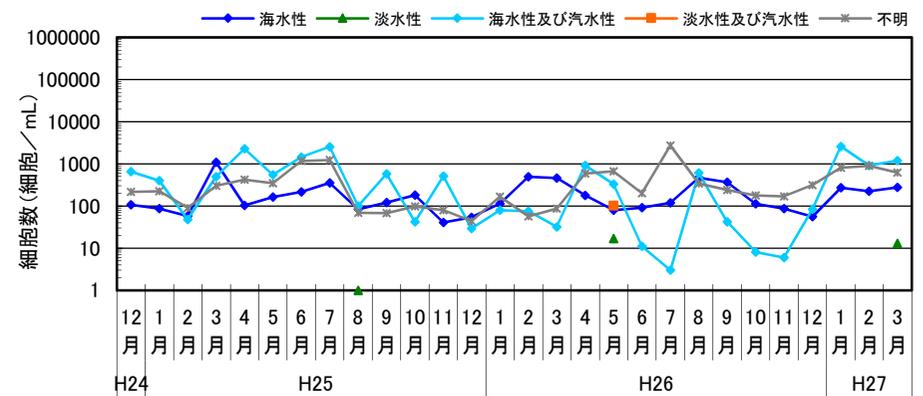
類別細胞数



生態別種数



生態別細胞数

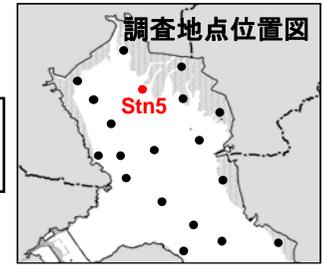


注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン
⑨有明海(Stn5)

○主な種は *Skeletonema* spp.(連結棘伸長型)、クリプト藻綱、*Eucampia zodiacus*、*Ceratium furca*、*Thalassiosira* spp.、タラシオンラ科、*Chaetoceros socialis* などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年													
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
主な出現種 (%)	クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	7.4	7.7	9.7	○	1.3	3.9	8.5	6.0	○	3.1	5.9	○	10.2
	渦鞭毛藻綱	海	<i>Prorocentrum minimum</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.9	○	1.4	○
		海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		不	ギムノディニウム目	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		海	<i>Ceratium furca</i>	○	○	○	○	○	○	○	15.0	○	20.8	○	○	○
		海	<i>Gonyaulax</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ディクテオカ藻綱	海	<i>Dicryocha fibula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ラフィド藻綱	海	<i>Heterosigma akashiwo</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	珪藻綱	淡・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	66.8	56.1	24.5	26.4	81.3	51.6	51.2	61.3	39.1	75.5	13.0	81.1	22.8
		海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		海	<i>Thalassiosira rotula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		不	<i>Thalassiosira</i> spp.	10.3	20.3	22.4	○	12.8	24.4	26.1	6.4	10.7	3.5	19.9	7.1	9.4
		不	タラシオンラ科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	○	○	46.8	○	○	○	○	○	○	5.9	○	○
		海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		海	<i>Chaetoceros debilis</i>	2.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21.3
		海	<i>Chaetoceros pseudocurviretus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	5.1	3.1	18.0	○	○
		海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	○	8.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	○	7.4	○	○	3.8	5.0	7.5	○	○	○	○
		海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海		<i>Asteroplanus karianus</i>	2.8	6.9	○	3.2	1.8	11.4	○	○	○	○	○	○	○	
海		<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	1.7	○	○	0.5	3.4	○	○	○	○	○	2.7	○		
不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	8.7	5.8	○	○	○	9.7	○	○	○	4.1	11.0		
海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	○	2.9	○	○	○	○	○	○		
ハプト藻綱	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		



項目	調査年月		平成26年												平成27年				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
主な出現種 (%)	クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	4.5	○	○	13.3	28.6	25.2	3.5	16.2	26.6	32.1	40.6	45.8	4.7	15.8	6.7	
	渦鞭毛藻綱	海	<i>Prorocentrum minimum</i>	○	○	○	○	○	17.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17.7	○	○	○	○	○	
		不	ギムノディニウム目	○	○	○	○	4.6	○	○	○	○	○	5.0	○	○	○	○	
		海	<i>Ceratium furca</i>	○	○	○	○	○	2.0	5.6	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Gonyaulax</i> spp.	○	○	○	○	○	○	22.7	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ディクテオカ藻綱	海	<i>Dicryocha fibula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	23.8	○	○	○	○	○	○	
	ラフィド藻綱	海	<i>Heterosigma akashiwo</i>	○	○	○	○	○	○	0.5	○	○	○	○	○	○	○	○	
	珪藻綱	淡・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	○	○	○	8.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	22.3	12.0	5.5	54.3	27.5	○	○	43.2	6.5	2.7	○	18.3	70.7	45.2	56.5	
		海	<i>Thalassiosira rotula</i>	5.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		不	<i>Thalassiosira</i> spp.	39.4	7.5	3.3	12.9	11.4	11.8	○	5.3	○	16.1	12.3	4.8	15.2	24.7	19.2	
		不	タラシオンラ科	○	○	○	○	○	○	89.5	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	17.9	70.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.4	
		海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○	4.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Chaetoceros debilis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.0	○	○	
		海	<i>Chaetoceros pseudocurviretus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	22.5	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	36.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	7.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	○	4.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海		<i>Asteroplanus karianus</i>	15.1	○	○	5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.2	○		
海		<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.8		
海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.2	4.5	○	○			
不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	6.2	○	○	○	○	○	○	○	○	10.6	○	○	○			
海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
ハプト藻綱	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21.5	○	○	○			
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	○	8.5	20.9	1.9	○	5.4	6.4	3.8	4.8	○	○	○		

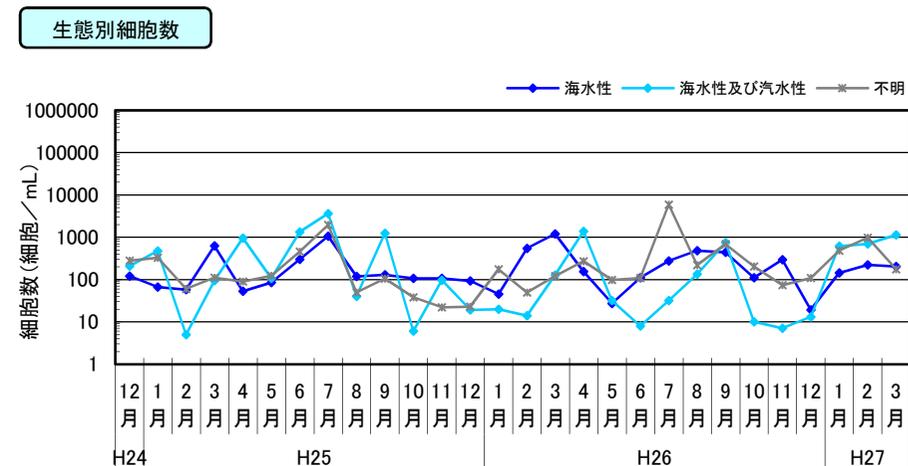
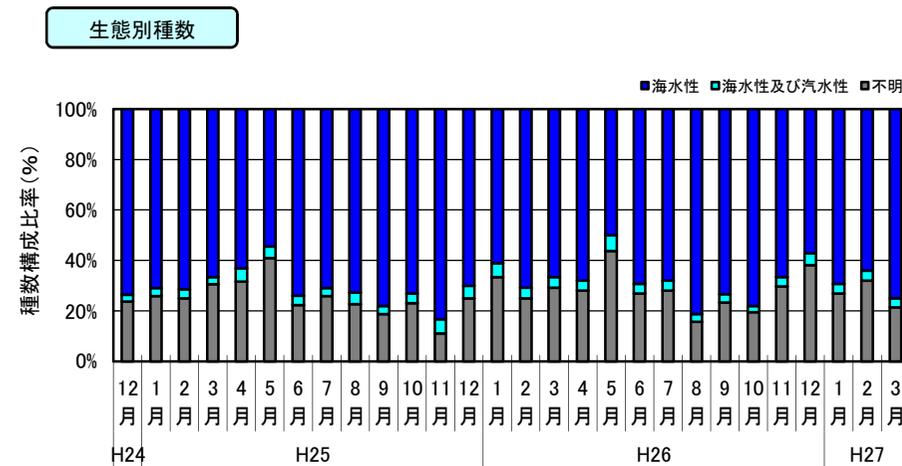
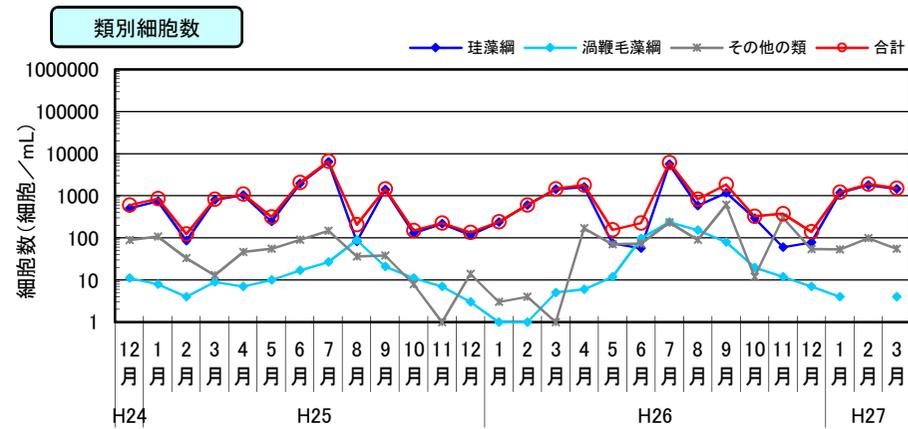
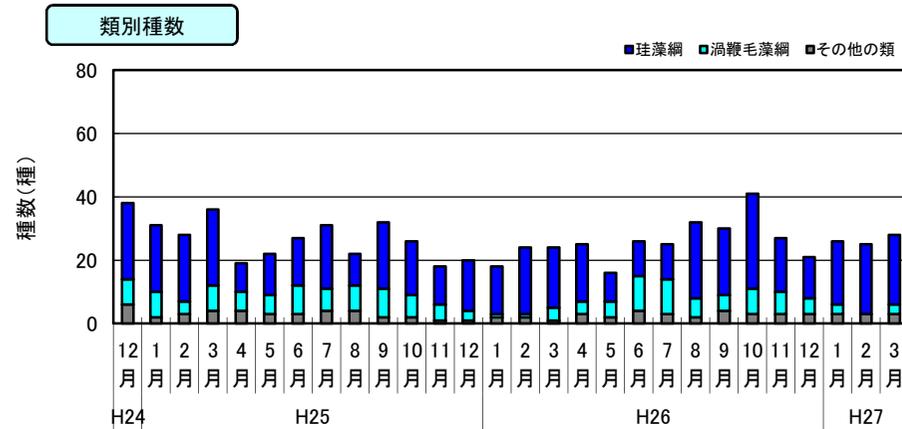
注1) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の細胞数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注2) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性・汽:汽水性・淡:淡水性・海・汽:海水性・汽水性・淡・汽:淡水性・汽水性・淡・海:淡水性・海水性・淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン

⑩有明海(Stn20)

○種数は16～41種で珪藻綱、渦鞭毛藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○細胞数は123～6,610細胞/mLで珪藻綱、渦鞭毛藻綱、その他の類が多く、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。



注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン
⑩有明海(Stn20)

○主な種は *Skeletonema* spp.(連結棘伸長型)、*Thalassiosira* spp.、クリプト藻綱、*Eucampia zodiacus*、*Prorocentrum minimum*、*Ceratium furca*、*Lauderia annulata*、タラシオシラ科、*Chaetoceros debilis*、*Chaetoceros socialis*、*Gephyrocapsa oceanica* などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年												
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	12.1	12.3	24.4	○	1.8	4.2	2.5	○	7.7	1.8	○	10.4	
	海	<i>Prorocentrum minimum</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Ceratium furca</i>	○	○	○	○	○	○	○	34.6	○	○	○	○	
	海	<i>Ceratium fusus</i>	○	○	○	○	○	○	○	5.3	○	○	○	○	
珪藻綱	海	<i>Gonyaulax</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	不	ペリディニウム目	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Lauderia annulata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25.3	○	○	
	海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	34.3	54.5	○	11.5	86.9	33.9	63.9	54.3	19.2	84.1	4.0	42.9	14.1
	海	<i>Thalassiosira rotula</i>	○	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Thalassiosira</i> spp.	29.3	23.3	16.3	1.4	5.3	29.7	14.0	10.8	5.3	3.4	14.7	9.4	○
	不	タラシオシラ科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.0	○	○
	海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	○	5.7	67.4	○	○	○	○	○	○	17.3	○	○
	海	<i>Bacteriastrium</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.0	○	○
	海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros debilis</i>	5.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20.1	37.8	○
	海	<i>Chaetoceros didymus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	○	18.7	○	○	○	2.5	○	○	○	○	9.6	○
	不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	6.5	○	○	○	3.4	7.4	○	○	4.0	○	○
	海	<i>Dietylum brighnellii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.3	○	○	○
	海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	3.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.7	5.2	○
	海	<i>Thalassionema nitzschoides</i>	○	○	○	○	1.1	○	○	○	○	1.4	4.0	○	○
	不	<i>Navicula</i> spp.	○	1.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	○	5.4	○	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	4.9	3.4	○	○	○	8.4	○	○	○	○	○
	海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	○	7.5	6.9	○	○	10.7	○	○
	ハプト藻綱	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	2.0	12.1	○	○	○	○	○	○	○
	その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

項目	調査年月		平成26年												平成27年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	○	○	○	5.0	32.5	16.8	2.7	○	27.6	○	3.7	27.1	2.8	○	
	海	<i>Prorocentrum minimum</i>	○	○	○	○	○	29.2	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Ceratium furca</i>	○	○	○	○	○	○	2.1	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Ceratium fusus</i>	○	○	○	○	○	○	0.9	○	○	○	○	○	○	○	
珪藻綱	海	<i>Gonyaulax</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	12.9	○	○	○	○	○	○	
	不	ペリディニウム目	○	○	○	○	○	3.5	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Lauderia annulata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	8.3	○	8.8	76.7	20.4	3.5	○	16.1	39.9	3.1	○	9.3	49.5	36.9	75.2
	海	<i>Thalassiosira rotula</i>	3.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Thalassiosira</i> spp.	69.6	4.9	1.9	○	8.3	10.2	○	14.4	○	55.2	6.4	34.3	30.2	40.1	5.3
	不	タラシオシラ科	○	○	○	○	○	○	90.9	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Eucampia zodiacus</i>	2.5	23.7	73.3	○	○	○	○	10.8	10.4	3.1	○	○	○	○	3.5
	海	<i>Bacteriastrium</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.7	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○	6.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros debilis</i>	○	11.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.0	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros didymus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	3.1	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>	○	○	○	○	○	○	9.9	4.9	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros socialis</i>	5.8	30.6	○	○	○	○	○	○	3.1	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	6.0	2.8	○	○	○	○	○	○	○	3.2	5.5	2.3	○
	海	<i>Dietylum brighnellii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	○	7.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Thalassionema nitzschoides</i>	○	○	○	2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.9
	不	<i>Navicula</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	8.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	3.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ハプト藻綱	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	70.2	○	2.8	3.1	○	○
	その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	4.3	12.1	11.9	1.0	○	4.6	○	6.9	4.3	○	○



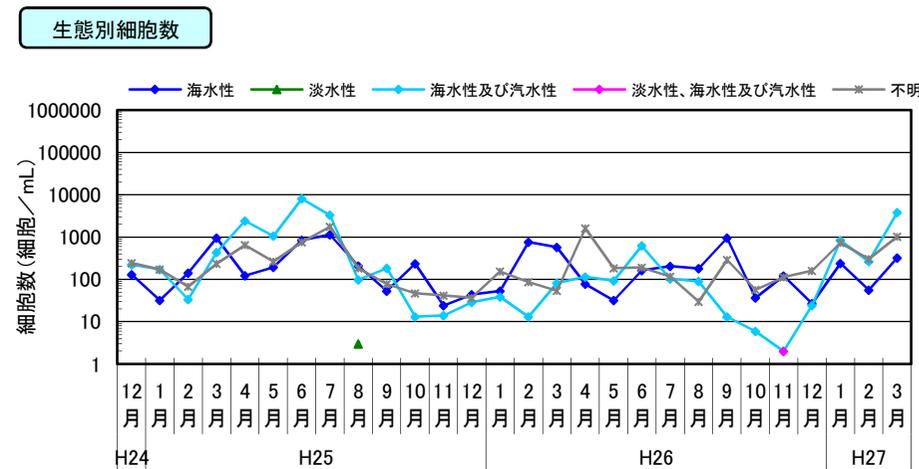
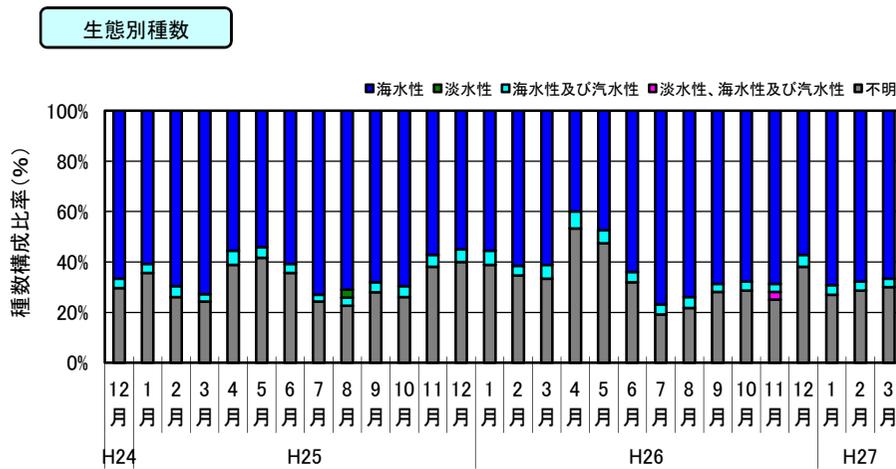
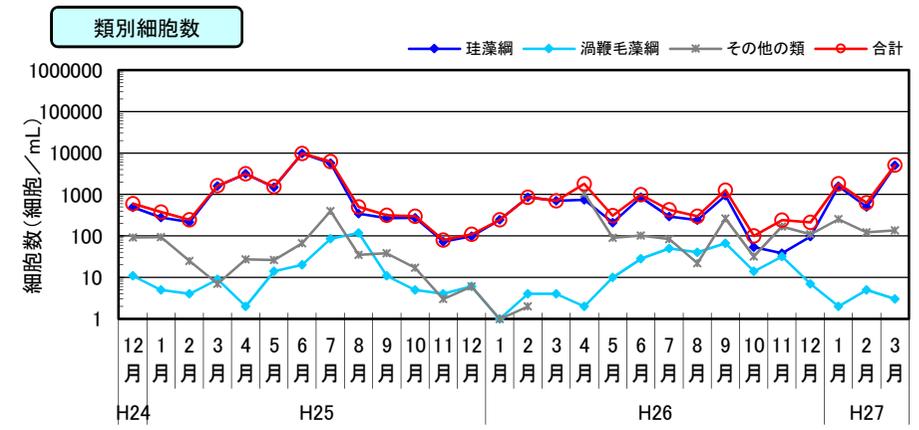
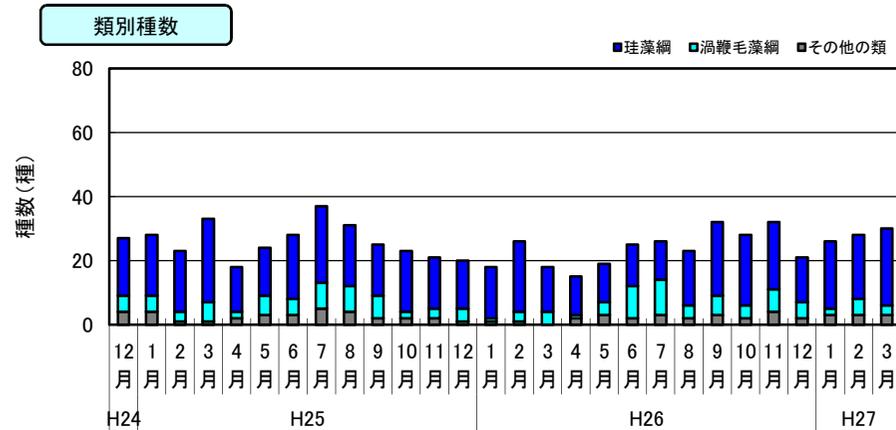
注1) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の細胞数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
注2) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。
注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 1)植物プランクトン

①有明海(Stn22)



○種数は15～37種で珪藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○細胞数は80～9,764細胞/mLで珪藻綱、その他の類が多く、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。



注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン
①有明海(Stn22)

○主な種は *Skeletonema* spp.(連結棘伸長型)、クリプト藻綱、*Thalassiosira* spp.、*Eucampia zodiacus*、*Chaetoceros socialis*、*Chaetoceros pseudocurvisetus*、*Thalassionema nitzschioides*、*Gephyrocapsa oceanica* などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成24年												
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	13.7	23.9	10.2	○	0.8	1.5	○	○	8.6	3.7	○	5.5	
	海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○	○	○	○					○	○	○		
渦鞭毛藻綱	不	ギムノディニウム目												○	
	海	<i>Ceratium furca</i>							10.1					○	
珪藻綱	海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	37.3	46.0	13.9	26.7	75.7	69.7	83.5	53.4	19.9	58.4	4.4	17.5	26.4
	海	<i>Thalassiosira rotula</i>	○	1.6	○										
不	海	<i>Thalassiosira</i> spp.	22.2	17.3	8.6	○	19.1	13.3	6.0	7.4	22.1	7.9	8.1	35.0	20.0
	海	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○										3.7		
海	海	<i>Cerataulina pelagica</i>											3.7		○
	海	<i>Eucampia zodiacus</i>			7.3	43.2	○	○					56.6		
海	海	<i>Bacteriastrium</i> spp.								7.4					
	海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○									○		
海	海	<i>Chaetoceros danicus</i>				3.1									○
	海	<i>Chaetoceros debilis</i>	4.8	○	○								3.8	5.5	
海	海	<i>Chaetoceros lorenzianus</i>							○	○			6.3		
	海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>									3.5	5.4			
海	海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	○	32.2	3.1	○		2.0	○	○				14.5
	不	<i>Chaetoceros</i> spp.				7.3			1.0	5.4	9.3	○			
海	海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	6.7	○	○	○								○	7.3
	海	<i>Asteroplanus karianus</i>	○	○	○	○	2.6	8.3	○						
海	海	<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		3.8	○
	不	<i>Navicula</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		6.3	○
海	海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	1.6	○	○	0.6	2.7	○						
	不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	○	5.0	○	○	8.9	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.					○		4.7	4.8					
	ハプト藻綱	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>													
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○			○	○	○	○	○	3.5	○		



項目	調査年月		平成26年										平成27年				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	○	○	○	53.0	14.9	5.5	15.5	8.7	17.3	19.0	24.7	42.9	12.2	17.5	1.9
	海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○	○	○						4.2	8.0	2.5	○	○	○	○
渦鞭毛藻綱	不	ギムノディニウム目															
	海	<i>Ceratium furca</i>						5.6	11.3	○	○	○					
珪藻綱	海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	15.8	○	11.7	6.4	30.1	64.0	24.4	29.9	○	6.0	○	11.3	45.9	42.2	73.9
	海	<i>Thalassiosira rotula</i>	6.9														
不	海	<i>Thalassiosira</i> spp.	58.3	7.0	2.1	24.2	19.7	○	6.3	○		13.0	2.5	18.9	22.2	24.9	14.5
	海	<i>Leptocylindrus danicus</i>												2.8			
海	海	<i>Cerataulina pelagica</i>															
	海	<i>Eucampia zodiacus</i>	5.7	24.1	68.5					8.0	10.9					○	3.3
海	海	<i>Bacteriastrium</i> spp.															
	海	<i>Chaetoceros compressus</i>			9.0												
海	海	<i>Chaetoceros danicus</i>	○	○													
	海	<i>Chaetoceros debilis</i>	○	2.6	○									5.4	○	○	
海	海	<i>Chaetoceros lorenzianus</i>															
	海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>															
海	海	<i>Chaetoceros socialis</i>	2.4	37.1						19.3	55.9						
	不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	4.2									2.5	○	1.8	
海	海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	2.4	14.5													
	海	<i>Asteroplanus karianus</i>															2.1
海	海	<i>Thalassionema nitzschioides</i>							32.6	○	○						
	不	<i>Navicula</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					2.1
海	海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○									6.0	○				
	不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	○	5.9	8.7	4.1						2.8	○	○	○
海	海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.															
	ハプト藻綱	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>															36.0
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)				5.6	13.9	4.9	○	○	3.0	13.0	9.2	8.5	○	○	○

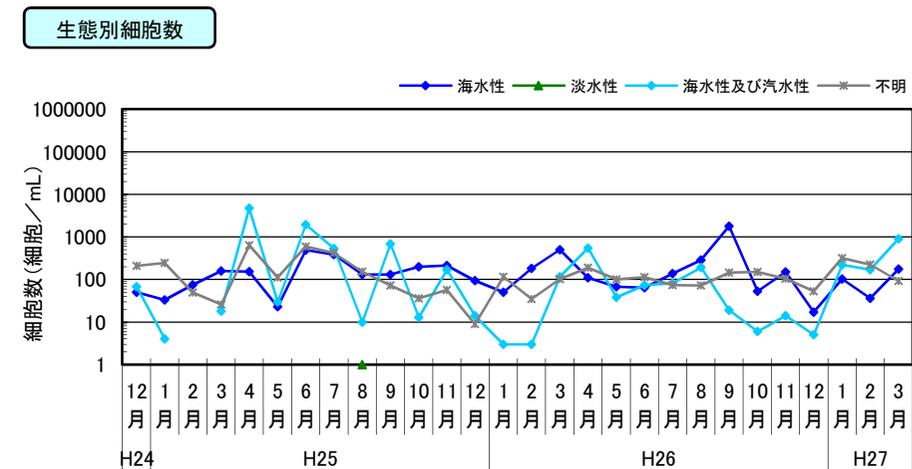
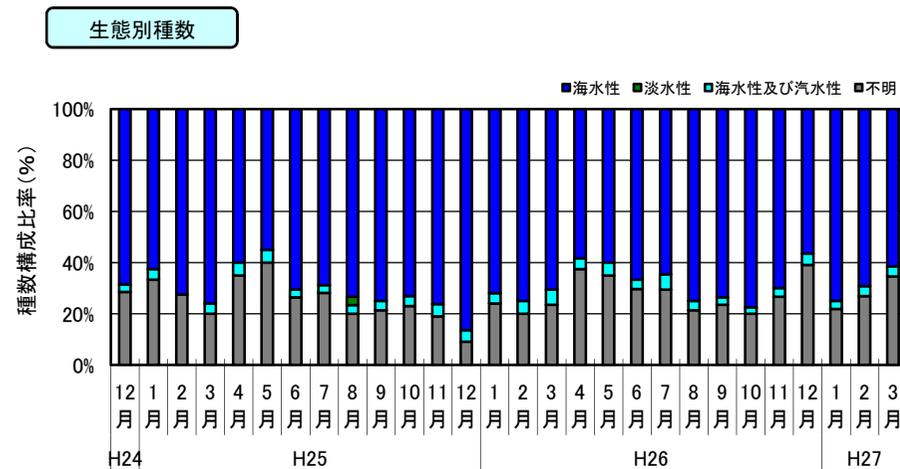
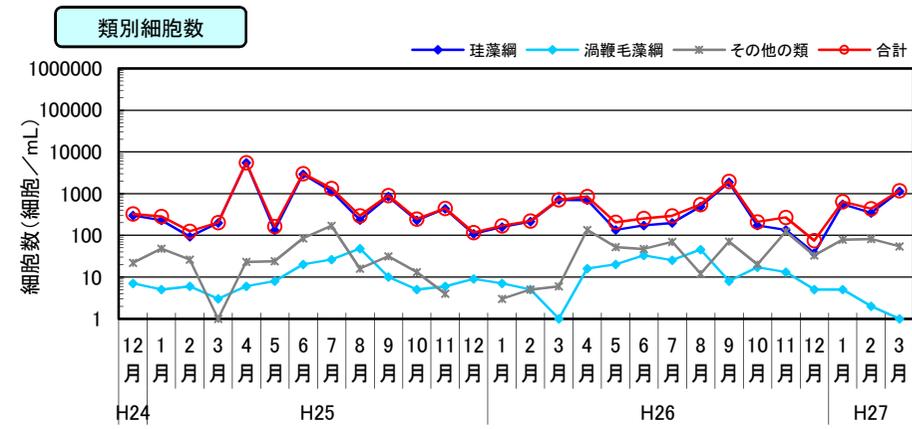
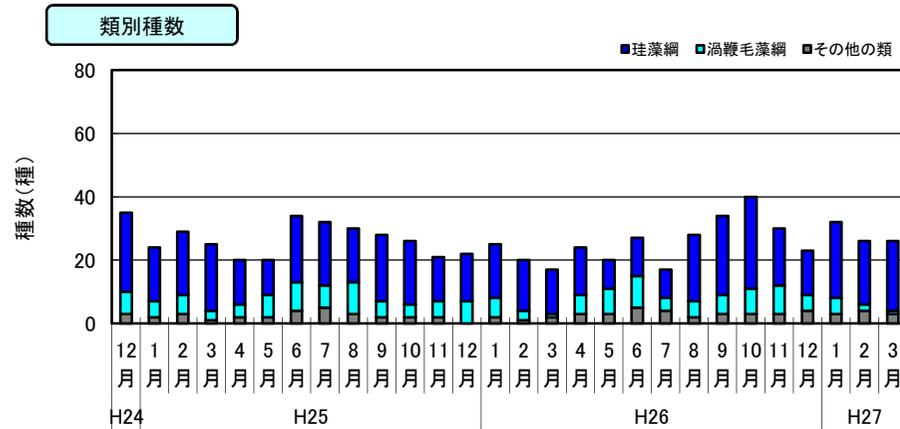
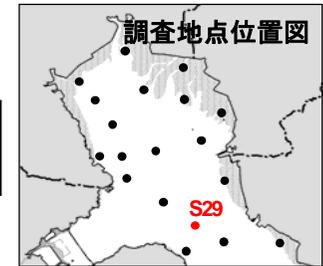
注1) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の細胞数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注2) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン

⑫有明海(S29)

○種数は17~40種で珪藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○細胞数は75~5,527細胞/mLで珪藻綱が多く、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。

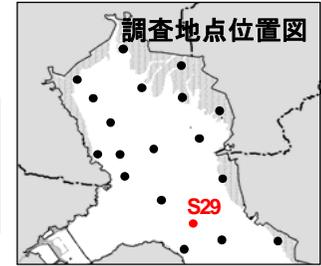


注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン
⑫有明海(S29)

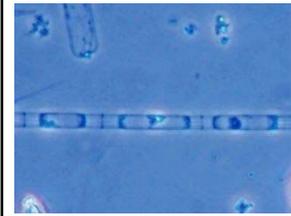
○主な種は *Skeletonema* spp.(連結棘伸長型)、*Thalassiosira* spp.、*Eucampia zodiacus*、*Chaetoceros socialis*、*Chaetoceros debilis*、*Chaetoceros pseudocurvisetus*、*Thalassionema nitzschioides*、*Gephyrocapsa oceanica* などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成24年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	5.8	16.7	15.3	○	0.4	11.0	○	○	○	3.2	○	
	海	<i>Prorocentrum minimum</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
渦鞭毛藻綱	海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Ceratium furca</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
珪藻綱	海・汽	<i>Lauderia annulata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	20.8	1.4	○	8.9	86.7	18.3	64.3	40.1	3.4	77.2	5.3	38.5
珪藻綱	海	<i>Thalassiosira rotula</i>	○	4.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	不	<i>Thalassiosira</i> spp.	53.8	66.7	13.7	2.5	11.0	48.8	10.4	8.7	45.1	2.4	7.7	10.9
珪藻綱	海	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Guillardia delicatula</i>	○	○	6.5	2.5	○	○	○	○	○	13.8	○	
珪藻綱	海	<i>Eucampia cornuta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.2	○	
	海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	○	○	65.0	○	○	○	○	○	46.2	○	
珪藻綱	海	<i>Bacteriastrium varians</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Bacteriastrium</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	6.4	○	○	○	
珪藻綱	海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Chaetoceros debilis</i>	5.8	○	8.1	○	○	○	○	○	○	17.9	22.2	
珪藻綱	海	<i>Chaetoceros diluvius</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Chaetoceros lorenzianus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
珪藻綱	海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	1.8	25.8	2.5	○	4.0	○	12.5	2.7	○	18.8	
珪藻綱	不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	○	6.9	○	6.2	○	○	○	○	6.8	
	海	<i>Dietylum brighwellii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	3.1	○	○	
珪藻綱	海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.8	16.2	
	海	<i>Asteroplanus karianus</i>	○	○	○	○	1.8	3.7	○	○	○	○	○	
珪藻綱	海	<i>Neodelephopsis pelagica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○	○	0.3	○	6.7	○	○	○	○	
珪藻綱	海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	2.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	1.4	○	2.5	○	○	9.1	○	○	○	○	
珪藻綱	海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	7.5	○	○	○	○	○	
	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	○	2.2	○	11.3	○	
その他	不	ハプト藻綱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	○	3.7	○	○	○	○	○	○	

主な種



Skeletonema spp.(連結棘伸長型)
(珪藻類・海水性及び汽水性)

項目	調査年月		平成26年												平成27年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	○	○	○	12.0	12.6	7.1	7.2	○	1.7	7.7	3.0	14.7	9.5	13.5	2.6
	海	<i>Prorocentrum minimum</i>	○	○	○	○	○	7.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
渦鞭毛藻綱	海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Ceratium furca</i>	○	○	○	○	○	○	6.1	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	海・汽	<i>Lauderia annulata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	○	○	16.1	64.6	18.4	29.4	28.0	35.0	○	2.9	5.2	6.7	34.2	39.8	77.1
珪藻綱	海	<i>Thalassiosira rotula</i>	3.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Thalassiosira</i> spp.	64.9	8.1	8.0	○	21.8	22.2	○	9.9	3.3	57.4	29.3	21.3	32.8	27.9	2.3
珪藻綱	海	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Guillardia delicatula</i>	○	8.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	海	<i>Eucampia cornuta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	16.7	62.7	○	○	○	○	7.8	24.1	○	○	○	○	○	3.9
珪藻綱	海	<i>Bacteriastrium varians</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Bacteriastrium</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	海	<i>Chaetoceros compressus</i>	3.6	○	2.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros debilis</i>	○	8.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.8	○	○
珪藻綱	海	<i>Chaetoceros diluvius</i>	3.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros lorenzianus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros socialis</i>	6.0	28.1	5.3	3.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.2	4.2	○
	海	<i>Dietylum brighwellii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Asteroplanus karianus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	海	<i>Neodelephopsis pelagica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.9
珪藻綱	海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	5.3	18.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40.4	○	○	○	○
その他	不	ハプト藻綱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	3.4	11.7	9.5	15.7	○	1.7	○	○	○	18.7	8.6	4.9

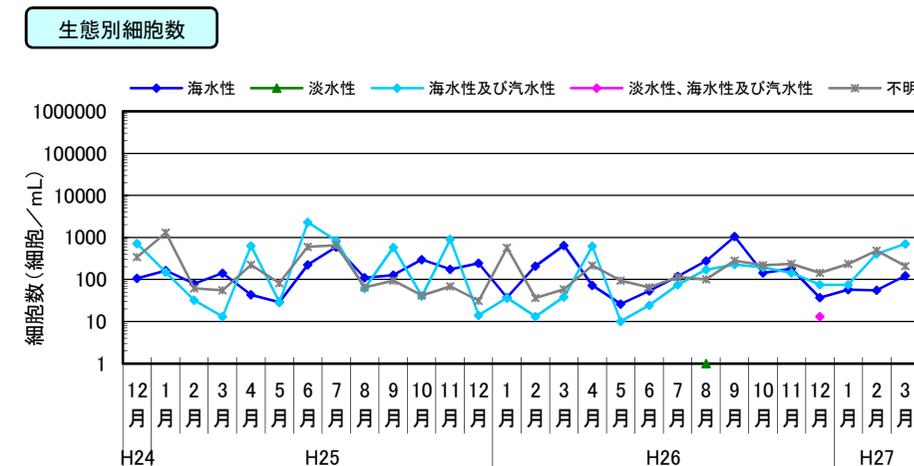
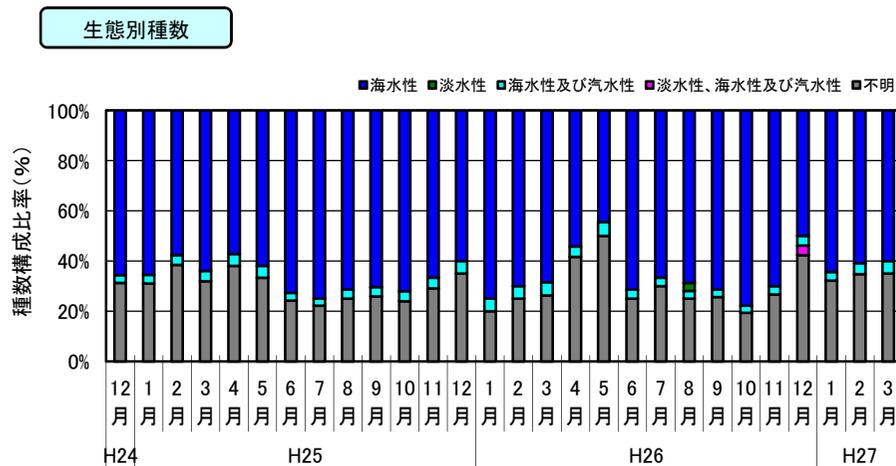
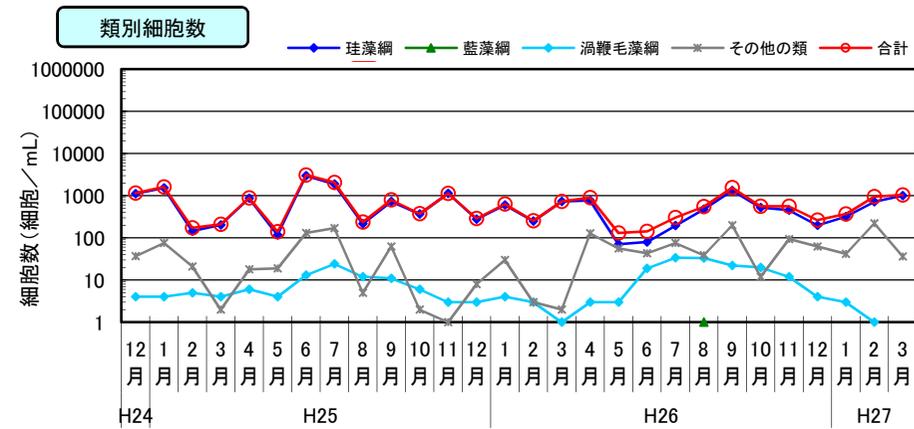
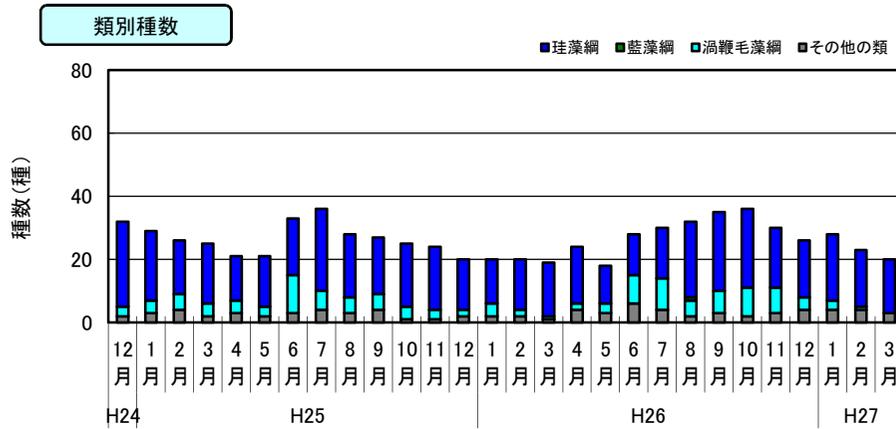
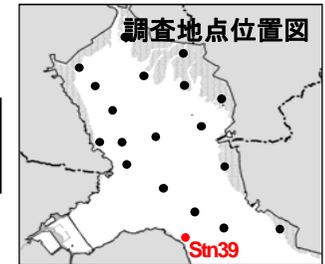
注1) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の細胞数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注2) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン

⑬有明海(Stn39)

○種数は18～36種で珪藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○細胞数は130～3,106細胞/mLで珪藻綱が多く、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。



注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン
⑬有明海(Stn39)

○主な種は *Skeletonema* spp.(連結棘伸長型)、*Thalassiosira* spp.、*Eucampia zodiacus*、*Chaetoceros pseudocurvisetus*、クリプト藻綱、*Chaetoceros socialis*、*Asterionellopsis glacialis* などであった。

主な出現種



項目	調査年月		平成25年													
	不	海	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
主な出現種 (%)	クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	2.7	4.6	10.5		1.6	8.6	3.3	○	○	5.7		○	
	渦鞭毛藻綱	海	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○	○	○						2.1	○			
		海	<i>Ceratium fuscus</i>									○				
	珪藻綱	海	<i>Lauderia annulata</i>	○								2.1	12.3			
		海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	61.6	9.3	18.6	6.2	70.4	20.7	73.6	40.2	25.8	72.5	10.7	78.8	4.8
		海	<i>Thalassiosira rotula</i>	○	7.0			○	○	○						
		不	<i>Thalassiosira</i> spp.	24.1	74.7	14.5	○	21.6	41.4	12.2	7.4	23.3	3.1	6.9	5.1	○
		海	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○										6.9		
		海	<i>Dactyliosolen fragilissimus</i>	○	○	○	○	○								
		海	<i>Guinardia delicatula</i>	○	○	5.8										
		海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	○	○	53.6				○		41.1			
		海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○		2.9									
		海	<i>Chaetoceros debilis</i>	2.6	1.2	○	○	○	○	○	○			6.1	30.3	
		海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>									28.4	○	6.9		
		海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	○	28.5									1.7	14.8
		不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○			16.7	○		2.7	○	○	○	○	○	4.5
		海	<i>Ditylum brighwellii</i>										3.1	○		
		海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	2.9	○				4.3						4.0	32.8
		海	<i>Asteroplanus karianus</i>	○	○			1.1	○	○						
		海	<i>Thalassionema nitzschoides</i>	○	○		○	1.5	○	○	6.9	4.7	○	○	○	
		不	<i>Navicula</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	淡・海・汽	海・汽	<i>Bacillaria paxillifer</i>													
		海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	4.8	○	○	○	○	9.9	○	○	○	○	
		海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.							4.6	8.1		2.9			
	ハプト藻綱	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>			○	○									
		不	ハプト藻綱													
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	○	○	5.0	○	○	○	○	○	○		



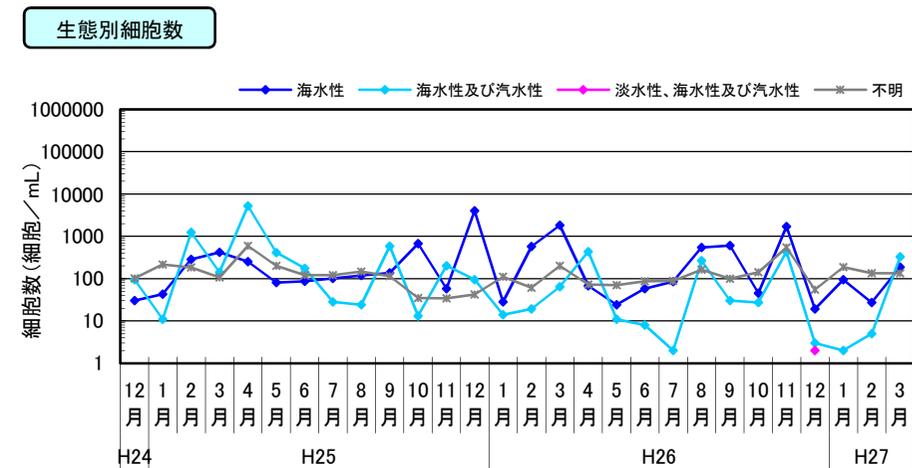
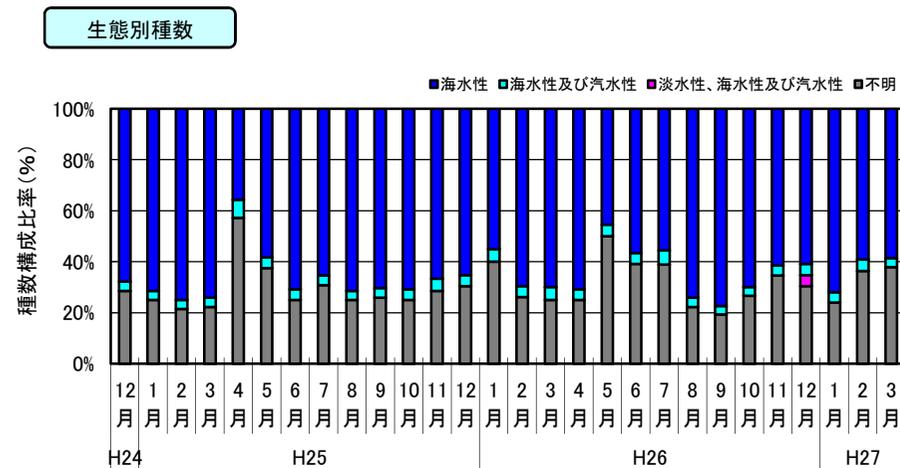
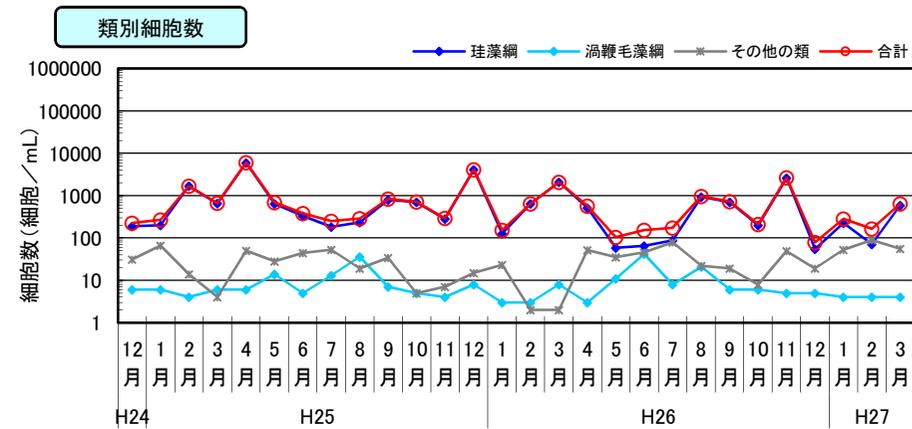
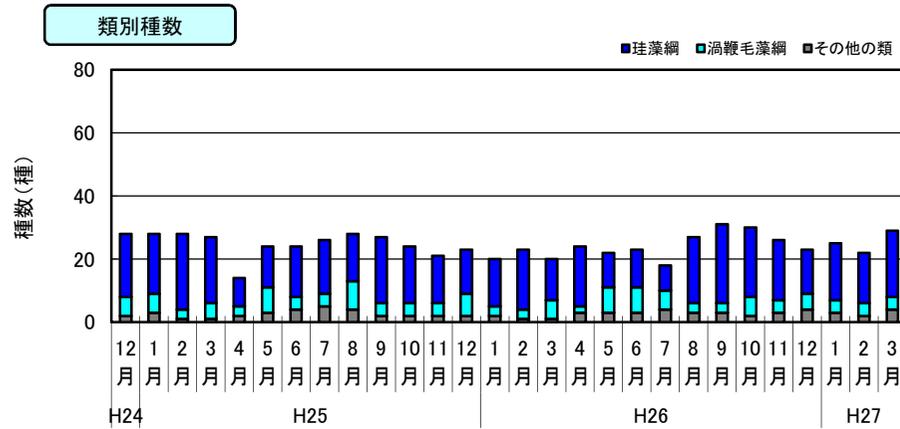
項目	調査年月		平成26年												平成27年			
	不	海	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	4.5	○	○	9.5	22.3	17.6	13.1	○	5.5	○	11.3	7.3	13.8	○	
	渦鞭毛藻綱	海	<i>Akashiwo sanguinea</i>		○								1.3	○				
		海	<i>Ceratium fuscus</i>										○					
	珪藻綱	海	<i>Lauderia annulata</i>								7.8	○	○	○				
		海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	5.6	5.1	5.2	68.2	7.7	16.9	24.5	31.2	14.5	34.9	25.8	27.8	20.4	43.0	68.1
		海	<i>Thalassiosira rotula</i>	1.2														
		不	<i>Thalassiosira</i> spp.	83.8	10.9	4.5	7.9	23.1	12.7	6.9	8.3	4.9	23.7	29.2	24.8	47.3	24.9	9.5
		海	<i>Leptocylindrus danicus</i>			○	○					○						
		海	<i>Dactyliosolen fragilissimus</i>	0.8	○	○	○											
		海	<i>Guinardia delicatula</i>		○	○	○								2.2	○	○	
		海	<i>Eucampia zodiacus</i>	0.8	26.1	80.0					15.6	11.5			2.2	○	3.3	
		海	<i>Chaetoceros compressus</i>		5.1	2.2												
		海	<i>Chaetoceros debilis</i>		5.1	○	○							7.2				
		海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>								6.9	44.3						
		海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	20.6								15.4	○				
		不	<i>Chaetoceros</i> spp.			2.6							12.0	○	○	2.2	1.9	6.0
		海	<i>Ditylum brighwellii</i>	○	○	○												
		海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>		5.4									8.1	4.9	○	○	
		海	<i>Asteroplanus karianus</i>				○											
		海	<i>Thalassionema nitzschoides</i>	○	○	○	○	○		22.5	○	○	○	○	○	○	3.6	
		不	<i>Navicula</i> spp.		○	○	○									2.7	○	
	淡・海・汽	海・汽	<i>Bacillaria paxillifer</i>												4.9			
		海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○			3.2											
		不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○		○											
		海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.				○	8.5	9.9									
	ハプト藻綱	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>										10.4					
		不	ハプト藻綱												6.8	○		
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)				4.2	20.0	9.9	9.5	○	○	○	○	4.9	2.2	9.1	○	

注1) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の細胞数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注2) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 1)植物プランクトン

⑭有明海(Stn13)

○種数は14～31種で珪藻綱が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○細胞数は79～6,038細胞/mLで珪藻綱、その他の類が多く、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。



注1) 細胞数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 1)植物プランクトン
⑭有明海(Stn13)

○主な種は *Skeletonema* spp.(連結棘伸長型)、*Thalassiosira* spp.、*Eucampia zodiacus*、*Chaetoceros debilis*、クリプト藻綱、*Prorocentrum minimum*、*Chaetoceros pseudocurvisetus*、*Thalassionema nitzschioides* などであった。

主な出現種

項目	調査年月		平成25年												
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	11.1	22.6	○	○	0.8	3.5	○	11.6	○	○	○	0.3	
	海	<i>Prorocentrum minimum</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
渦鞭毛藻綱	海	<i>Ceratium furca</i>	○	○	○	○	○	○	○	6.3	○	○	○	○	
	海	<i>Lauderia annulata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
珪藻綱	海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	41.8	4.1	72.6	21.0	86.0	59.4	45.4	11.2	8.3	69.7	○	68.7	2.3
	海	<i>Thalassiosira rotula</i>	○	4.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
不	海	<i>Thalassiosira</i> spp.	25.8	64.1	5.3	○	8.0	21.5	22.0	26.5	44.4	6.4	○	8.2	0.5
	不	タラシオシラ科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25.3	○	○	
	海	<i>Rhizosolenia setigera</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海	海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	○	○	49.6	○	○	○	○	○	35.2	○	○	
	海	<i>Bacteriastrium varians</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海	海	<i>Bacteriastrium</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	10.1	○	○	○	○	
	海	<i>Chaetoceros affinis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.0	○	
海	海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Chaetoceros danicus</i>	○	○	○	2.5	○	○	○	○	○	○	○	○	
海	海	<i>Chaetoceros debilis</i>	○	2.2	1.5	5.1	○	○	○	○	○	○	3.4	95.9	
	海	<i>Chaetoceros diadymus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海	海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>	○	○	○	○	○	○	○	4.9	2.3	13.1	○	○	
	海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	○	8.8	○	○	○	4.7	○	○	○	4.1	0.3	
不	不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	○	12.0	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Dietylum brighwellii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	2.6	○	○	○	
海	海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	5.4	○	○	○	
	海	<i>Asterionellus karianus</i>	○	○	○	○	3.4	○	○	○	○	○	○	○	
海	海	<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○	○	○	4.4	○	22.5	○	○	4.5	○	
	海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	4.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
不	不	<i>Nitzschia</i> spp.	3.1	○	4.5	○	0.8	○	○	○	○	○	○	○	
	海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	2.0	5.5	○	○	○	○	2.0	
ハプト藻綱	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	5.2	○	○	○	○	○	
	不	ハプト藻綱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	○	○	○	5.2	○	○	○	○	○	



項目	調査年月		平成26年												平成27年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
クリプト藻綱	不	クリプト藻綱	14.4	○	○	5.6	9.5	16.3	14.9	○	○	2.4	○	13.9	15.1	43.6	6.5
	海	<i>Prorocentrum minimum</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
渦鞭毛藻綱	海	<i>Ceratium furca</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Lauderia annulata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
珪藻綱	海・汽	<i>Skeletonema</i> spp.(連結棘伸長型)	9.2	○	3.1	75.4	10.5	○	○	27.3	4.1	12.7	15.8	3.8	○	3.0	50.3
	海	<i>Thalassiosira rotula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
不	海	<i>Thalassiosira</i> spp.	52.9	○	○	2.8	25.7	20.9	○	13.2	○	58.0	○	43.0	46.5	21.2	9.0
	不	タラシオシラ科	○	○	○	○	○	○	1.7	○	○	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Rhizosolenia setigera</i>	○	6.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Eucampia zodiacus</i>	○	25.5	60.3	○	○	○	○	3.9	○	○	○	○	○	○	11.9
	海	<i>Bacteriastrium varians</i>	○	○	○	○	○	○	○	9.6	9.1	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Bacteriastrium</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros affinis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Chaetoceros compressus</i>	○	○	23.2	○	○	○	○	○	○	2.4	○	○	3.9	○	○
	海	<i>Chaetoceros danicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Chaetoceros debilis</i>	3.9	5.8	2.5	○	○	○	○	○	○	○	55.9	○	15.1	6.1	8.6
	海	<i>Chaetoceros diadymus</i>	○	○	○	○	○	○	1.7	9.6	○	6.1	○	○	○	○	○
海	海	<i>Chaetoceros pseudocurvisetus</i>	○	○	○	○	○	○	19.9	59.2	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Chaetoceros socialis</i>	○	13.5	○	○	○	○	○	○	2.8	2.6	○	○	○	○	○
不	不	<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	8.4	○	○	○	1.7	○	9.4	○	14.0	○	○	○	○
	海	<i>Dietylum brighwellii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Asterionellopsis glacialis</i>	3.9	19.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Asterionellus karianus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海	海	<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○	2.8	○	○	41.1	○	○	○	○	6.3	2.8	○	○
	海	<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
不	不	<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.2	○	○	○	○
	海	<i>Pseudonitzschia</i> spp.	○	○	○	2.8	7.6	5.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハプト藻綱	海	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	ハプト藻綱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.8	○	○	○
その他	不	不明(微細鞭毛藻類)	○	○	○	3.2	22.9	12.4	28.6	○	○	○	○	3.8	2.8	10.9	○

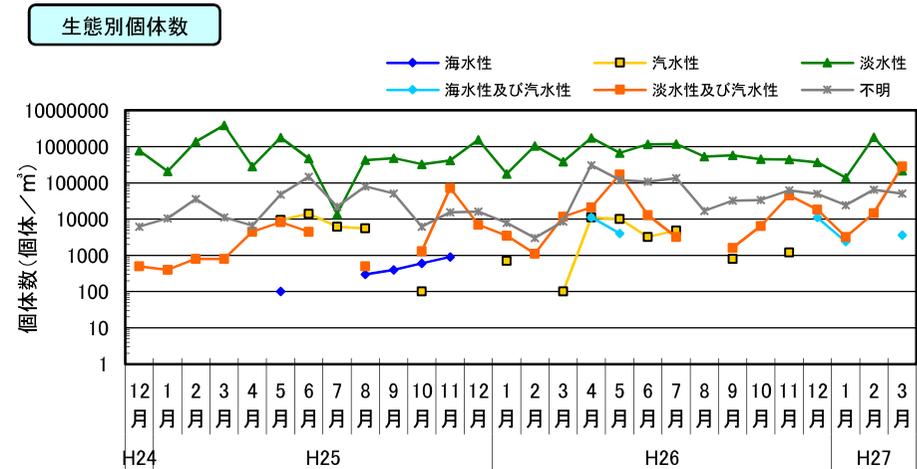
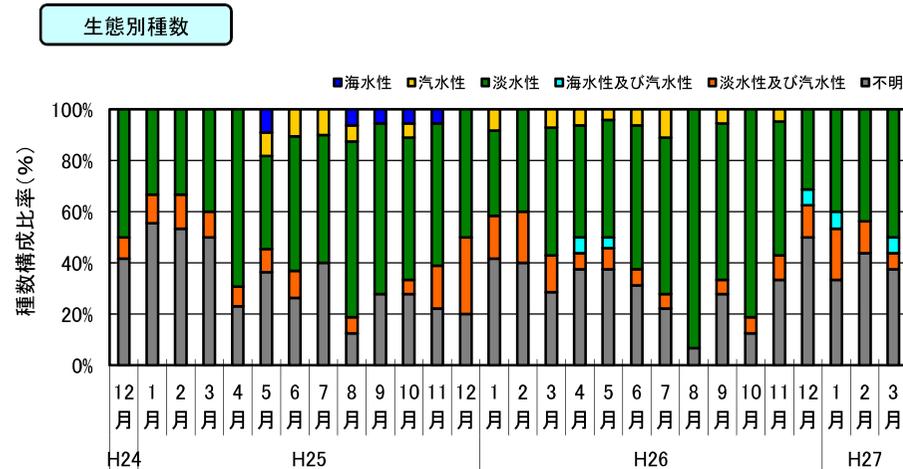
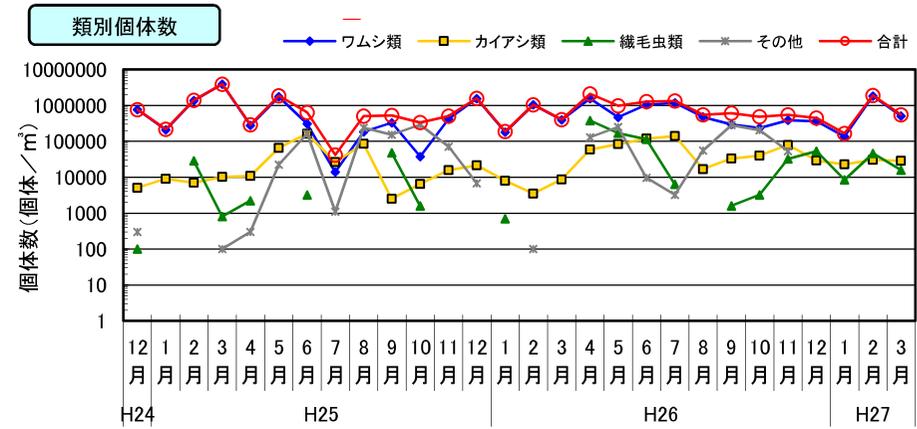
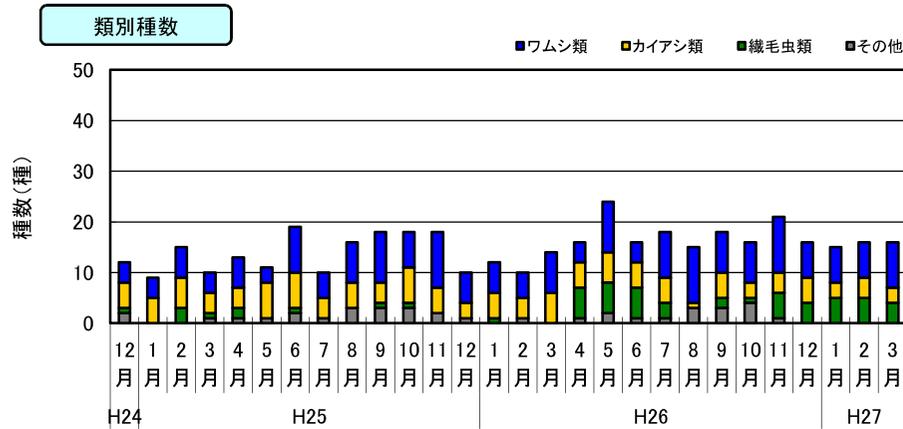
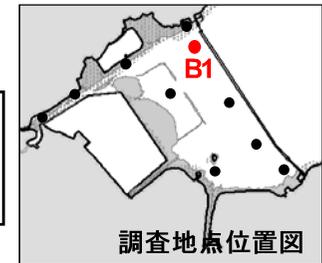
注1) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の細胞数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注2) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注3) 藍藻類は、群体・糸状体数を「細胞数」として取り扱った。
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン

①調整池(B1)

○種数は9～24種でワムシ類、カイアシ類、繊毛虫類が多く、生態別には主に淡水性で構成されていた。
 ○個体数は41,500～3,875,000個体/m³でワムシ類、その他、カイアシ類が多く、生態別には主に淡水性、淡水性及び汽水性で構成されていた。



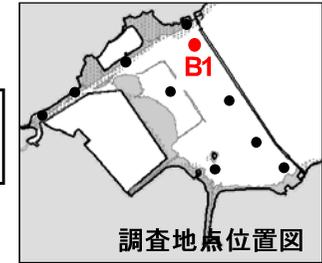
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン

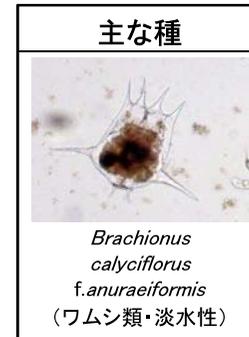
①調整池(B1)

○主な種は*Brachionus calyciflorus f.anuraeiformis*、コシボソカメノコウワムシ、ゾウミジンコ、コガタツボワムシ、フクロワムシ属、ハネウデワムシ属、ミジンコワムシ、*Pseudodiaptomus* spp.(コペポダイト)などであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成24年												
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主な出現種 (%)	繊毛虫類	淡	<i>Episalis</i> spp.											
		淡	<i>Varicella</i> spp.											
		淡	緑毛目											
	海・汽	海・汽	フデツツカラムシ属											
		不	スナカラムシ属											
	ワムシ類	不	繊毛虫門											
		淡・汽	コガタツボワムシ											
		淡	ツボワムシ											
		淡	<i>Brachionus calyciflorus f.anuraeiformis</i>											
		淡	<i>Brachionus caudatus</i>											
		淡	ウシロツノツボワムシ											
		淡	コシボソカメノコウワムシ											
		淡	フクロワムシ属											
		淡	ハネウデワムシ属											
		不	ドロワムシ属											
		不	ネズミワムシ属											
		淡	ナガミツツボワムシ											
		淡	テマリワムシモドキ属											
淡		ミジンコワムシ												
カイアシ類		淡・汽	<i>Smocalanus</i> spp.(コペポダイト)											
	汽	<i>Pseudodiaptomus mopinus</i>												
	不	<i>Pseudodiaptomus</i> spp.(コペポダイト)												
	不	ソコムジンコ目(コペポダイト)												
	不	ソコムジンコ目												
	不	キクロプス目(コペポダイト)												
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)												
節足動物門	淡	スカシタマミジンコ												
	淡	ゾウミジンコ												



項目	調査年月	平成26年												平成27年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な出現種 (%)	繊毛虫類	淡	<i>Episalis</i> spp.													
		淡	<i>Varicella</i> spp.													
		淡	緑毛目													
	海・汽	海・汽	フデツツカラムシ属													
		不	スナカラムシ属													
	ワムシ類	不	繊毛虫門													
		淡・汽	コガタツボワムシ													
		淡	ツボワムシ													
		淡	<i>Brachionus calyciflorus f.anuraeiformis</i>													
		淡	<i>Brachionus caudatus</i>													
		淡	ウシロツノツボワムシ													
		淡	コシボソカメノコウワムシ													
		淡	フクロワムシ属													
		淡	ハネウデワムシ属													
		不	ドロワムシ属													
		不	ネズミワムシ属													
		淡	ナガミツツボワムシ													
		淡	テマリワムシモドキ属													
淡		ミジンコワムシ														
カイアシ類		淡・汽	<i>Smocalanus</i> spp.(コペポダイト)													
	汽	<i>Pseudodiaptomus mopinus</i>														
	不	<i>Pseudodiaptomus</i> spp.(コペポダイト)														
	不	ソコムジンコ目(コペポダイト)														
	不	ソコムジンコ目														
	不	キクロプス目(コペポダイト)														
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)														
節足動物門	淡	スカシタマミジンコ														
	淡	ゾウミジンコ														

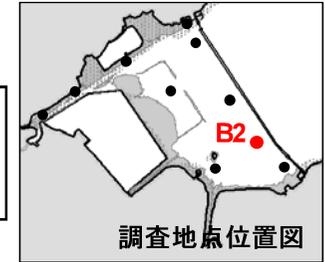
注1) 生息別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。なお、<0.1は0.1%未満であることを、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

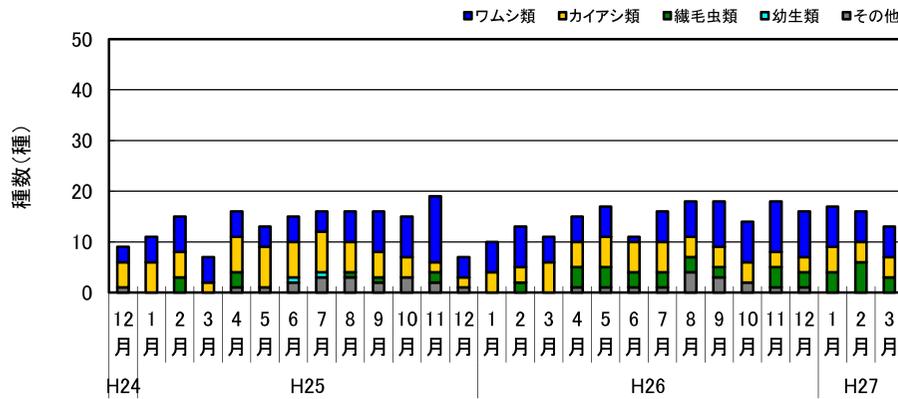
(7)水生生物 2)動物プランクトン

②調整池(B2)

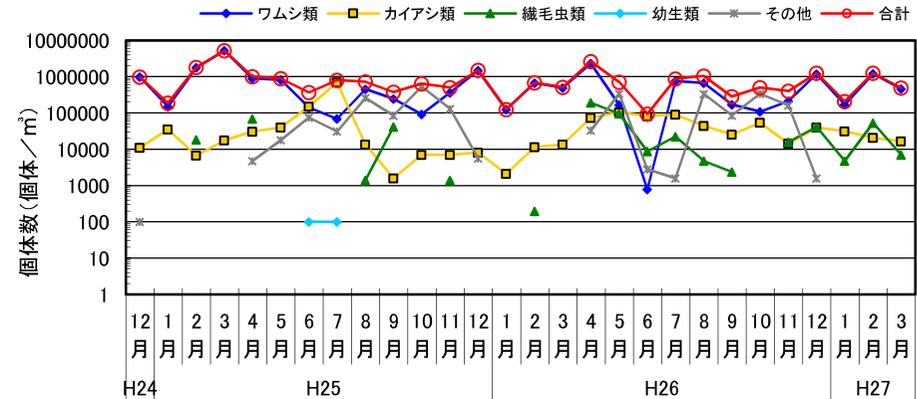
○種数は7～19種でワムシ類、カイアシ類、繊毛虫類が多く、生態別には主に淡水性で構成されていた。
 ○個体数は94,800～5,313,500個体/m³でワムシ類、カイアシ類、その他が多く、生態別には主に淡水性、淡水性及び汽水性で構成されていた。



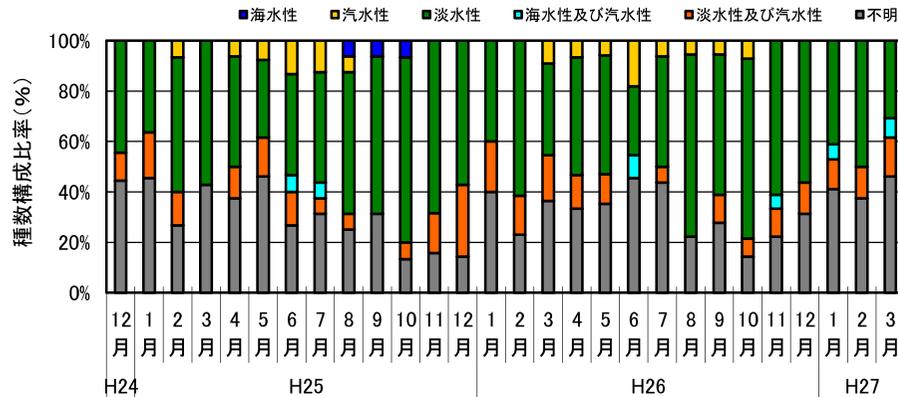
類別種数



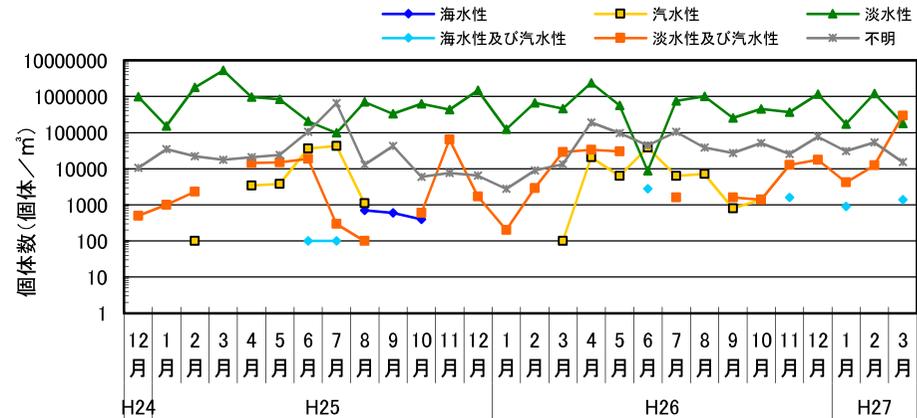
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



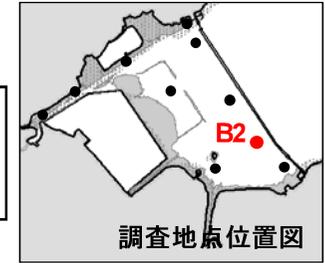
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン

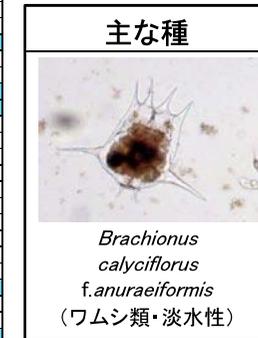
②調整池(B2)

○主な種は*Brachionus calyciflorus* f.*anuraeiformis*、コシボソカメノコウワムシ、ゾウミジンコ、ミジンコワムシ、コガタツボワムシ、ウシロヅノツボワムシ、ハネウデワムシ属、*Pseudodiaptomus* spp.(コペポダイト)、橈脚亜綱(ノープリウス)などであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成25年													
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
主な出現種 (%)	繊毛虫類	淡	<i>Episulus</i> spp.												
		淡	<i>Varicella</i> spp.												
		淡			○										○
		不					6.6								
	ワムシ類	不	スナカラムシ属												
		不	繊毛虫門												
		淡・汽		○	○		○				○		11.2		○
		淡												12.5	○
		淡	98.8	76.4	47.9	99.0	53.8				2.1	48.2	○	4.6	98.2
		淡	<i>Brachionus calyciflorus</i> f. <i>anuraeiformis</i>												
		淡	<i>Brachionus caudatus</i>												
		淡	ウシロヅノツボワムシ												
		淡		2.2	○	○	8.4	66.3	21.8	○	43.3		○	13.6	
		淡									6.9	5.6	4.8	33.7	0.6
		淡	0.1	○		0.4	10.3	9.7		○		5.1	1.8	4.6	0.3
		カイアシ類	淡	ハネウデワムシ属											
	淡			2.2	0.6	0.3	16.6	17.1	14.2		○	○	○	○	○
	淡		ナガミツウデワムシ												
	淡		テマリワムシモドキ属												
	淡		ミジンコワムシ												
汽	<i>Simocalanus tenellus</i>														
淡・汽	<i>Simocalanus</i> spp.(コペポダイト)														
汽	<i>Pseudodiaptomus mopius</i>														
不	<i>Pseudodiaptomus</i> spp.(コペポダイト)														
不	0.1		9.5		0.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
節足動物門	不	0.1	7.5	○	0.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)													
	淡	0.8	○	0.3					15.3	66.4	○	○	0.8	○	
	淡	ニセネコゼミジンコ													
淡	スカシタマミジンコ														
淡	ゾウミジンコ														



項目	調査年月	平成26年												平成27年			
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	繊毛虫類	淡	<i>Episulus</i> spp.														
		淡	<i>Varicella</i> spp.														
		淡		○		○	4.1			○				○	○	○	
		不				6.1	6.8		○	○	○				2.3		2.0
	ワムシ類	不	スナカラムシ属														
		不	繊毛虫門														
		淡・汽		○	5.7	○	○				○		○	○	○	○	58.1
		淡															3.8
		淡	45.8	78.6	43.5	○					24.2	○	26.0	72.7	74.5	69.3	8.0
		淡	<i>Brachionus calyciflorus</i> f. <i>anuraeiformis</i>														
		淡	<i>Brachionus caudatus</i>														
		淡	ウシロヅノツボワムシ														
		淡				86.7	15.8	○	48.3	○	○	○	○	16.7			2.0
		淡	3.5	1.6	15.3	○	○					3.0	8.7	1.1	○		21.1
		淡	7.2	17.3	○					○		○	○	○			10.4
		淡	41.1	0.5	32.7	1.0	○								5.5	8.0	5.7
	カイアシ類	淡	テマリワムシモドキ属														
		淡	ミジンコワムシ														
		汽	<i>Simocalanus tenellus</i>														
		淡・汽	<i>Simocalanus</i> spp.(コペポダイト)														
汽		<i>Pseudodiaptomus mopius</i>															
不		<i>Pseudodiaptomus</i> spp.(コペポダイト)															
不			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
不				1.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○			1.3	
不		橈脚亜綱(ノープリウス)															
淡		1.2	1.3	○	○	9.5	13.9	4.1	2.8	5.4	10.0	○	2.4	11.7	○	○	
節足動物門	淡	ニセネコゼミジンコ															
	淡	スカシタマミジンコ															
	淡								3.6	○	○						
	淡	ゾウミジンコ															

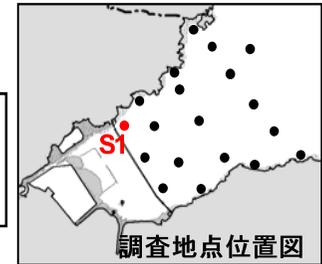
注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

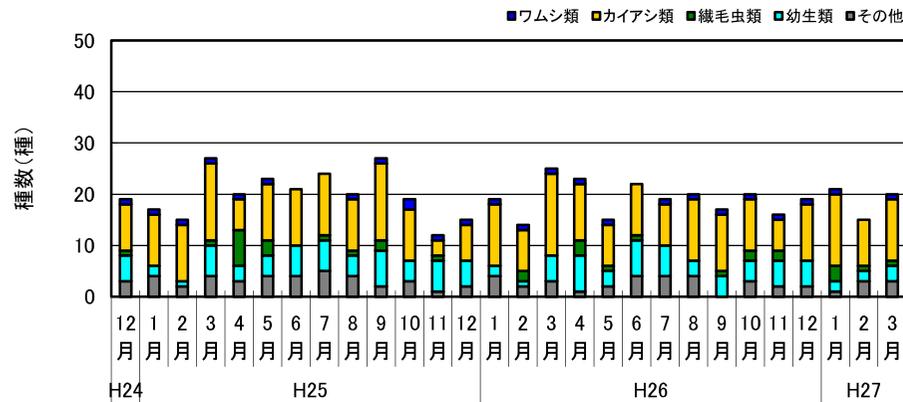
(7)水生生物 2)動物プランクトン

③諫早湾(S1)

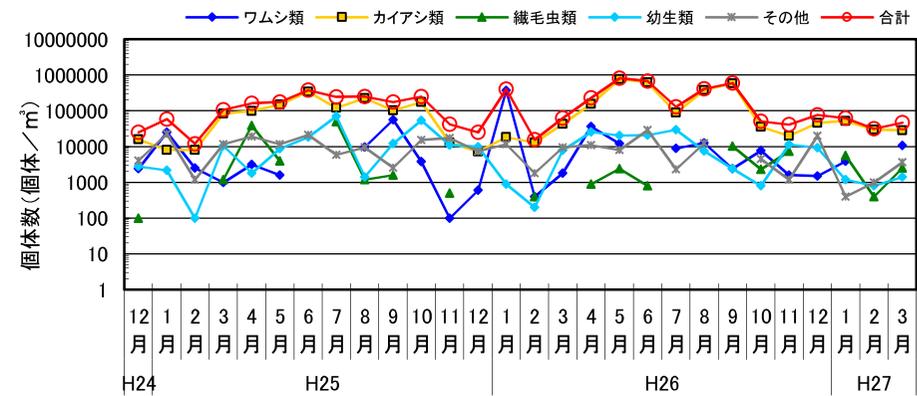
○種数は12～27種でカイアシ類、繊毛虫類、幼生類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は11,900～819,200個体/ m³でカイアシ類、ワムシ類、幼生類、その他が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



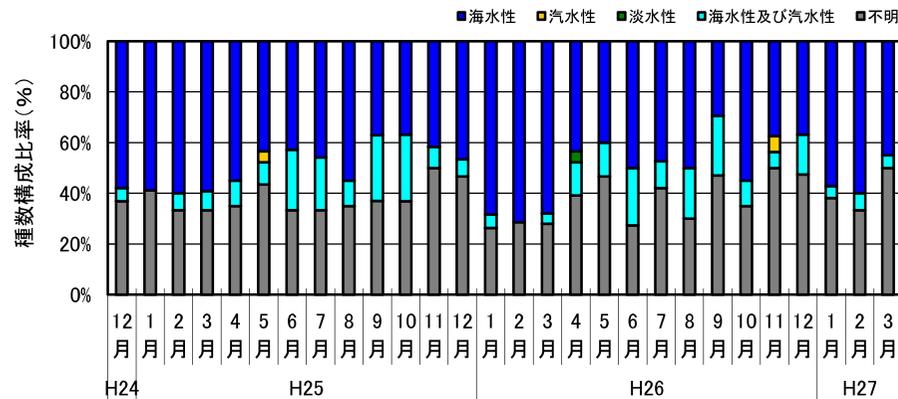
類別種数



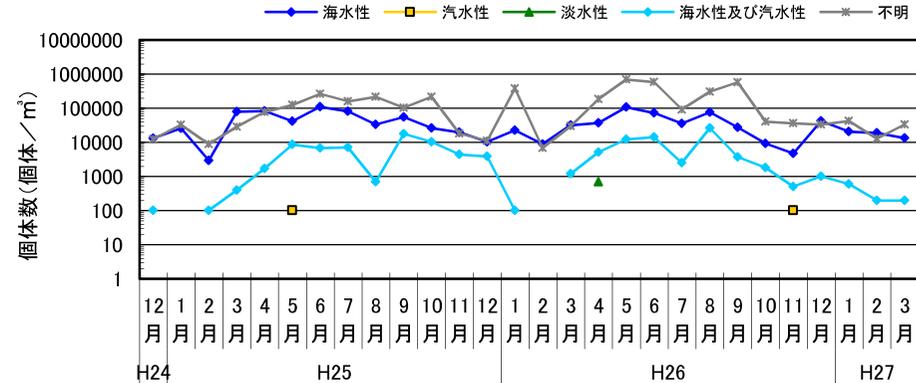
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



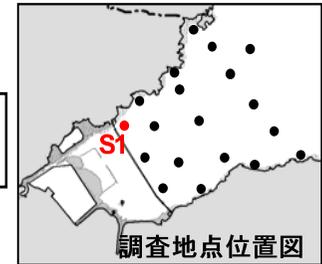
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン

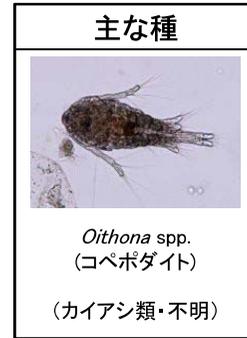
③諫早湾(S1)

○主な種は *Oithona* spp.(コペポダイト)、橈脚亜綱(ノープリウス)、ドロワムシ属、ワカレオタマボヤ、*Centropages* spp.(コペポダイト)、*Microsetella norvegica*などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年												
	海	汽	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門	海	スチコロコケ								3.5				
		不	ストロンビディウム属												
		海	ボソソナカラムシ					○							
		海	オオピンガタカラムシ								20.1				
	刺胞動物門	海	ビンガタカラムシ	○			○	15.3	○					○	
		海	花クラゲ目								○				
	ワムシ類	不	ドロワムシ属	9.4	43.4	21.0	○	○	○			3.9	32.2	○	○
		カイアシ類	不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	○	○	7.6	○		12.4	○	○		○	4.8
			海	<i>Centropages abdominalis</i>			○	○							
		海	<i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)			5.9								○	
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	8.3	○	○	○	○	8.0	3.7	3.4	5.4	6.1	○	6.0
		海・汽	<i>Paracalanus crassirostris</i>										5.6		
		不	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)									○	○		
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	15.4			55.4								○
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○							16.3	○	
		海	<i>Oithona daviseae</i>		1.9	○		16.3	7.1	19.3	6.0	○	○		
		不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	20.1	1.9	○	5.6	28.5	41.2	50.4	32.4	24.2	○	14.7	16.8
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	8.3	6.5	40.3	5.8	9.8	13.7	10.0	○	56.6	12.1	45.4	10.4
	原生動物門	海	ワカレオタマボヤ	14.2	37.7	9.2	6.7	11.3	○	4.9	○	○	4.8	41.4	
	幼生類	不	巻貝類(幼生)	○	1.9	○								○	○
不		二枚貝類(殻前期幼生)	○			5.8	○				23.9		16.8	6.4	
不		多毛類(幼生)	○	1.9									○	21.0	
海・汽		蔓脚類(ノープリウス幼生)	○										10.4	15.5	



項目	調査年月		平成26年												平成27年			
	海	汽	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門	海	スチコロコケ															
		不	ストロンビディウム属											15.9				
		海	ボソソナカラムシ					○										7.7
		海	オオピンガタカラムシ									1.7	3.7					
	刺胞動物門	海	ビンガタカラムシ	○											○			
		海	花クラゲ目		7.6	○				○								
	ワムシ類	不	ドロワムシ属	92.3	○	○	16.1	1.5		6.9	○	○	15.2	○	○	○	22.9	
		カイアシ類	不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)			○	○	2.1			○				12.8	○	9.3
			海	<i>Centropages abdominalis</i>	○	6.4	○										6.0	○
		海	<i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)	1.1	24.8	○										7.1	42.9	11.7
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	○		7.2	○	○					1.4	○		14.7	○	4.1
		海・汽	<i>Paracalanus crassirostris</i>									4.7						
		不	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)									18.0	13.2	15.2				
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	○	○	○	○									12.8	6.8	
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)	○														
		海	<i>Oithona daviseae</i>	○	○		7.4	10.9	4.9	22.3	13.7	1.4	○	○	○	○	○	○
		不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	0.6	6.4	9.4	34.2	77.1	79.8	30.7	49.5	62.2	3.7	23.8	○	○	4.7	7.4
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	1.3	33.1	21.3	18.1	2.7	5.1	11.6	3.8	18.1	43.3	15.9	24.5	40.3	31.7	27.2
	原生動物門	海	ワカレオタマボヤ	2.6	○	13.5	4.8	○	3.4	○			8.4	○	25.6	○	○	
	幼生類	不	巻貝類(幼生)	○	○	○									6.9	○	○	
不		二枚貝類(殻前期幼生)	○			8.1	4.8	○		17.6	○		13.9	○	○	○		
不		多毛類(幼生)	○										11.8	○	○	○		
海・汽		蔓脚類(ノープリウス幼生)					1.5	1.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

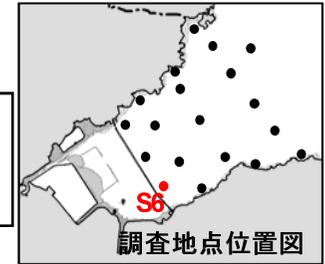
注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

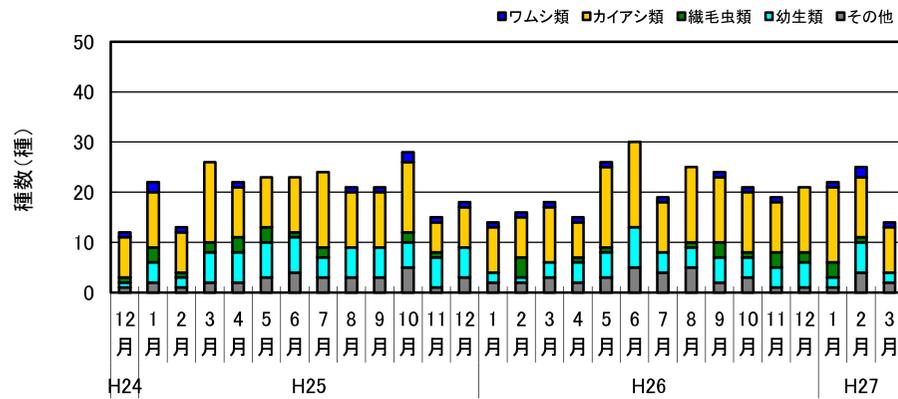
(7)水生生物 2)動物プランクトン

④諫早湾(S6)

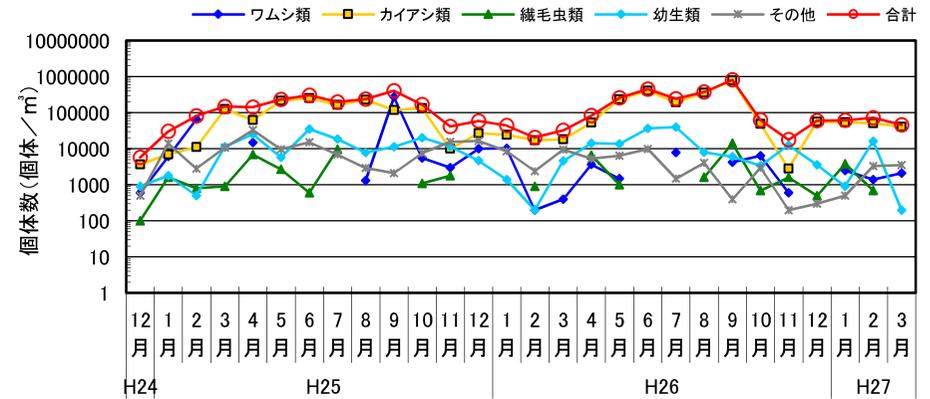
○種数は12～30種でカイアシ類、幼生類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は5,800～809,900個体/m³でカイアシ類、ワムシ類、その他、幼生類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



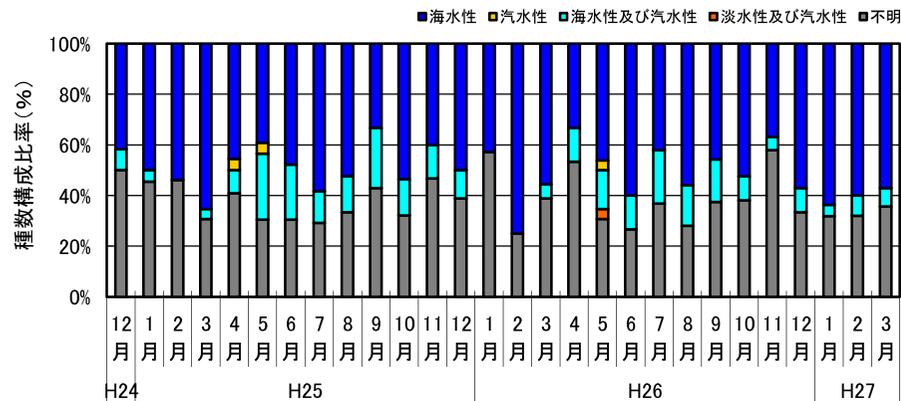
類別種数



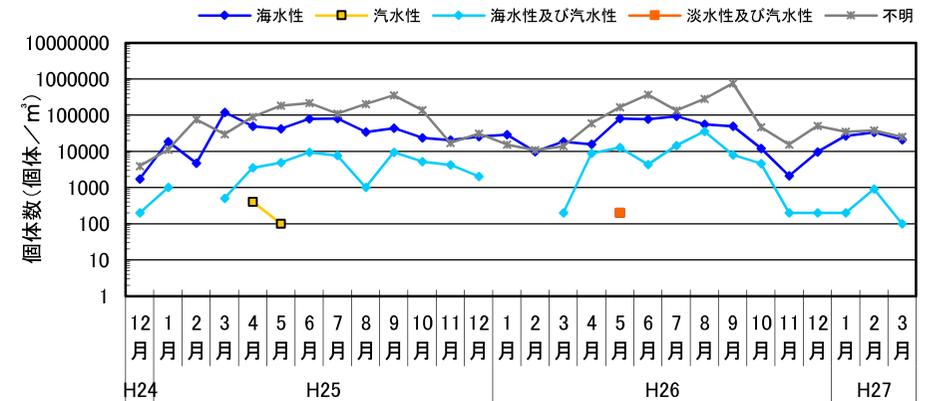
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



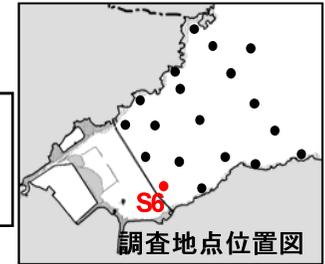
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン

④諫早湾(S6)

○主な種は *Oithona* spp.(コペポダイト)、橈脚亜綱(ノープリウス)、ワカレオタマボヤ、ドロワムシ属、*Centropages* spp.(コペポダイト)、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、*Parvocalanus* spp.(コペポダイト)、*Microsetella norvegica*、*Oithona davisae*、二枚貝類(殻頂期幼生)などであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成25年																			
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月							
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海 ツムガタウズムシ																			
		海 <i>Helicostomella subulata</i>		3.3																	
		海 オオピンガタカラムシ																			
		海 ピンガタカラムシ	○		1.0																
	刺胞動物門	海 花クラゲ目																			
		不 ドロワムシ属	10.3	16.7	81.3		10.3							67.7			7.2	17.3			
	カイアシ類	海・汽 ウミネコワムシ		3.3																	
		不 <i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	○	3.3				9.6								3.8					
		海 <i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)																			
		海 <i>Paracalanus parvus</i>																			
		海 <i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)		4.9		4.1		6.7		9.3	5.1	3.6				7.2					
		海・汽 <i>Parvocalanus crassirostris</i>																			
		不 <i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)																			
		海 <i>Microsetella norvegica</i>				60.1						2.0									
		海 <i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)									4.8	3.8	4.4								
		海 <i>Oithona davisae</i>	10.3					5.9	17.9	18.7									8.6		
	不 <i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	27.6		4.9	3.1	7.9	60.1	50.7	39.8			3.2	13.7					10.1			
	不 橈脚亜綱(ノープリウス)	10.3	8.5	6.9	7.7	24.6	8.2	9.2	6.2	79.9	12.4	52.7	15.6	20.1							
	毛類動物門	海 ヤムシ属																			
		海 ワカレオタマボヤ	○	45.6	3.4	5.4	23.1							3.8	36.9	27.3					
原生動物門	不 巻貝類(幼生)		3.3																		
	不 二枚貝類(殻頂期幼生)				3.1	10.3		4.6	6.2	2.0		7.7	12.7								
	不 多毛類(幼生)	15.5						3.4													
	海・汽 蔓脚類(ノープリウス幼生)													9.8							

主な種



Oithona spp.
(コペポダイト)
(カイアシ類・不明)

項目	調査年月	平成26年												平成27年							
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海 ツムガタウズムシ																			
		海 <i>Helicostomella subulata</i>																			
		海 オオピンガタカラムシ									1.3										
		海 ピンガタカラムシ	○			7.9															
	刺胞動物門	海 花クラゲ目		6.3																	
		不 ドロワムシ属	23.3										10.2	3.4							
	カイアシ類	海・汽 ウミネコワムシ																			
		不 <i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)					5.7								13.7	10.7		15.2			
		海 <i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)	36.3	16.4													18.0		29.7		
		海 <i>Paracalanus parvus</i>																	10.7		
		海 <i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	7.2	8.7			7.8	3.7				8.5		8.7	8.4	22.6					
		海・汽 <i>Parvocalanus crassirostris</i>							4.9	8.2											
		不 <i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)								41.3	13.2	9.6									
		海 <i>Microsetella norvegica</i>			9.5																
		海 <i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)																			
		海 <i>Oithona davisae</i>					20.0	8.9	35.5	6.9	3.9										
	不 <i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	5.9	20.3	12.3	38.1	45.0	46.8	25.7	22.3	52.6	11.8	3.4		7.0	4.3	7.4					
	不 橈脚亜綱(ノープリウス)	30.4	8.3	15.0	7.4	27.1	10.4	10.3	25.4	38.1	5.1	62.7	32.5	22.6	27.1						
	毛類動物門	海 ヤムシ属																			
		海 ワカレオタマボヤ	19.0		26.5	6.3															
原生動物門	不 巻貝類(幼生)																				
	不 二枚貝類(殻頂期幼生)			10.8	6.3		6.9	15.3													
	不 多毛類(幼生)																				
	海・汽 蔓脚類(ノープリウス幼生)				7.1																

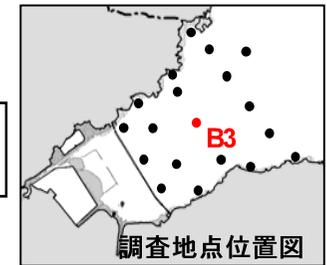
注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

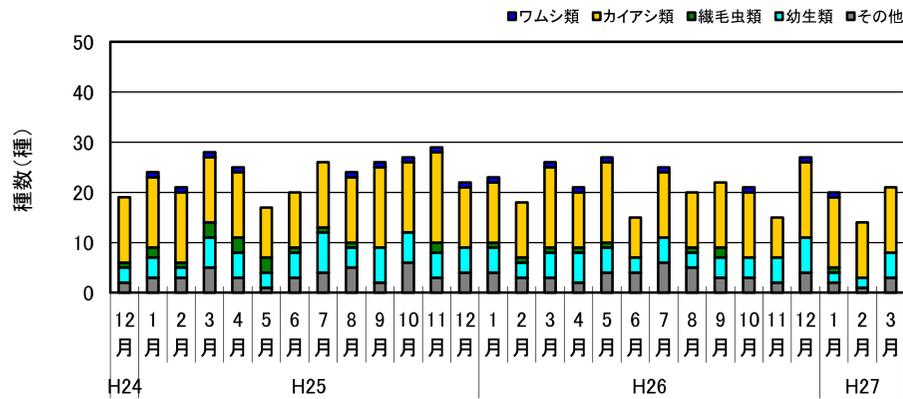
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑤諫早湾(B3)

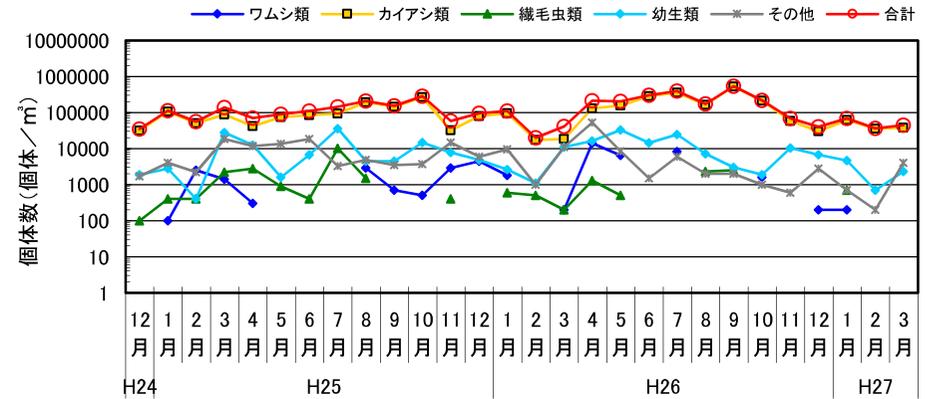
○種数は14～29種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は19,800～536,700個体/m³でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



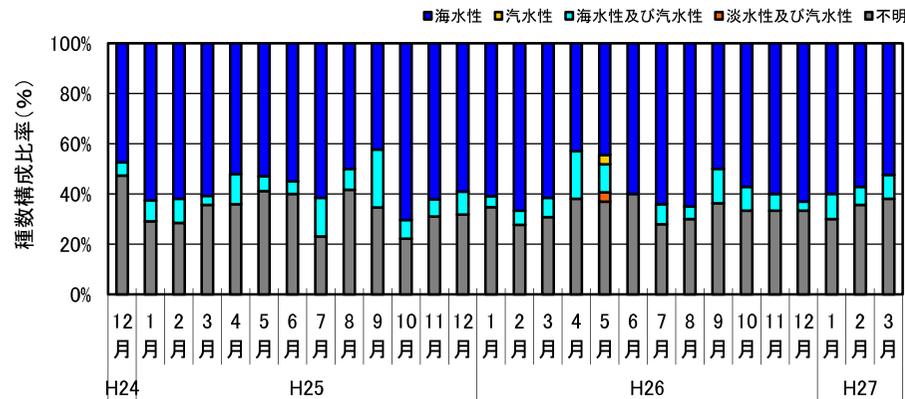
類別種数



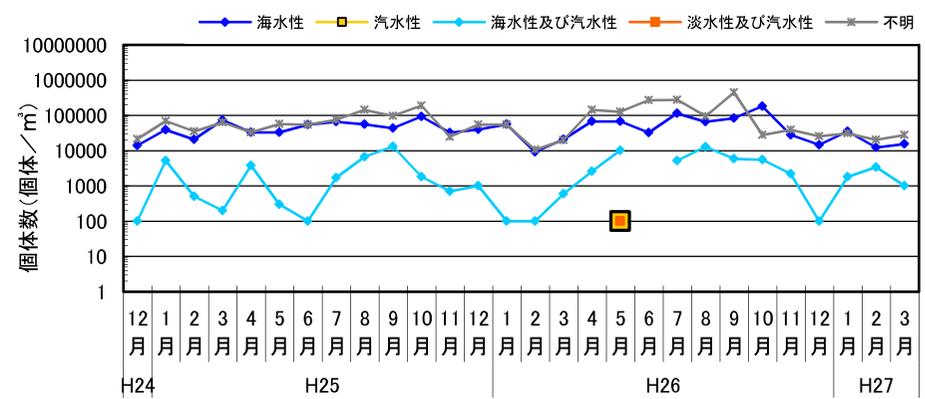
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



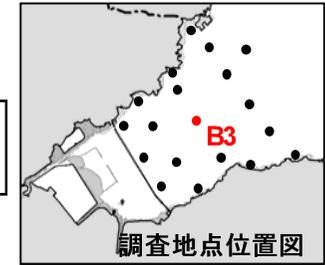
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が可能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑤諫早湾(B3)

○主な種は橈脚亜綱(ノープリウス)、*Oithona* spp.(コペポダイト)、*Microsetella norvegica*、ワカレオタマボヤ、*Acartia* spp.(コペポダイト)、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年													
	種	環境	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
主な出現種 (%)	ワムシ類	不	ドコワムシ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.0	○
		カイアシ類	海・汽	<i>Acartia omorii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不		<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	10.1	○	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	10.3	4.3	8.9	○	18.9	17.6	16.4	16.6	18.3	9.0	○	22.5	10.4	○
	海・汽	<i>Paracalanus crassirostris</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	3.2	7.3	○	○	○	○
	不	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	3.2	○	○	○	○	○
	海	<i>Microsetella norvegica</i>	○	8.0	7.3	20.4	○	○	○	○	○	○	○	15.5	○	17.3
	海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	3.2	10.7	14.4	○	○	○
	海	<i>Oithona clavisae</i>	20.3	14.9	11.7	○	○	○	15.4	8.0	○	○	○	○	○	5.8
	海・汽	<i>Oithona nana</i>	○	4.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	48.3	48.0	27.9	11.3	16.0	24.3	25.0	7.5	25.0	5.2	○	○	○	17.8
	海	<i>Carycaeus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	橈脚亜綱(ノープリウス)	不	橈脚亜綱(ノープリウス)	3.7	8.2	25.0	12.3	12.2	26.8	17.9	24.7	37.7	54.0	61.3	21.5	28.8
	毛顎動物門	海	ヤムシ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	4.6	○	○	11.8	16.7	14.9	16.4	○	○	○	○	○	25.3	5.8
幼生類	不	巻貝類(幼生)	○	○	○	10.8	○	○	○	○	○	○	○	○	6.1	○
	不	二枚貝類(殻頂期幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	12.3	○	○	2.9	5.0	○
	不	多毛類(幼生)	○	○	○	○	6.5	○	○	7.5	○	○	○	1.2	○	○
	海・汽	蔓脚類(ノープリウス幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

主な種

橈脚亜綱
(ノープリウス)
(カイアシ類・不明)

項目	調査年月		平成26年												平成27年			
	種	環境	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	ワムシ類	不	ドコワムシ属	○	○	○	6.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		カイアシ類	海・汽	<i>Acartia omorii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.4
	不		<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17.6	29.9
	海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	○	6.6	○	○	12.9	3.3	○	11.3	○	○	○	○	14.5	9.4	○	10.6
	海・汽	<i>Paracalanus crassirostris</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.5	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	9.6	6.5	1.4	○	○	○	○	○	○
	海	<i>Microsetella norvegica</i>	21.2	15.7	○	○	○	○	9.7	19.2	2.2	80.8	23.1	○	30.7	10.0	○	○
	海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.1	13.7	4.0	○	○	○	○
	海	<i>Oithona clavisae</i>	7.8	10.1	○	○	15.1	6.1	12.6	○	12.2	○	○	○	○	○	○	○
	海・汽	<i>Oithona nana</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	19.0	27.3	10.0	23.5	26.3	63.4	51.1	15.3	63.6	○	○	○	○	○	14.1	6.8
	海	<i>Carycaeus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.1	○	○	4.0	○	○	○
	橈脚亜綱(ノープリウス)	不	橈脚亜綱(ノープリウス)	24.5	18.7	9.0	27.7	9.7	20.4	9.3	25.8	12.0	9.4	44.1	46.6	16.9	10.8	39.6
	毛顎動物門	海	ヤムシ属	○	○	6.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.7
原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	8.4	○	20.5	24.7	○	○	○	○	○	○	○	6.0	○	○	○	
幼生類	不	巻貝類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不	二枚貝類(殻頂期幼生)	○	○	20.0	4.2	13.4	4.7	5.4	○	○	8.4	9.0	5.4	○	○	○	
	不	多毛類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	海・汽	蔓脚類(ノープリウス幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.2	○	○	○	○	○

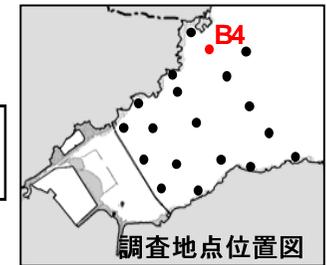
注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

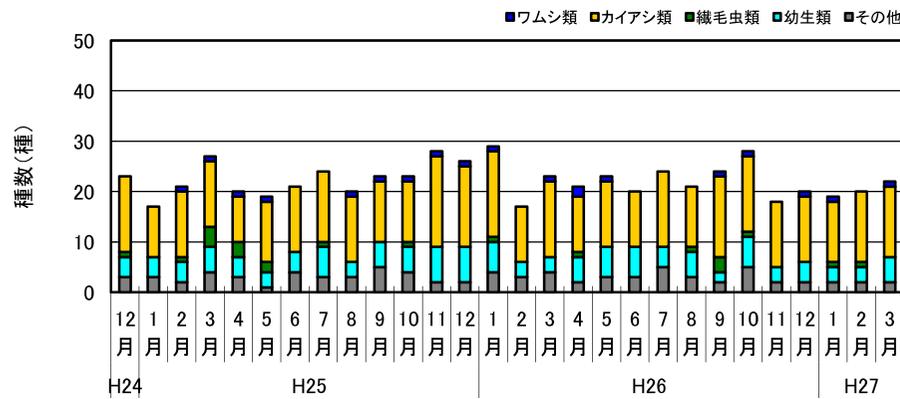
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑥諫早湾(B4)

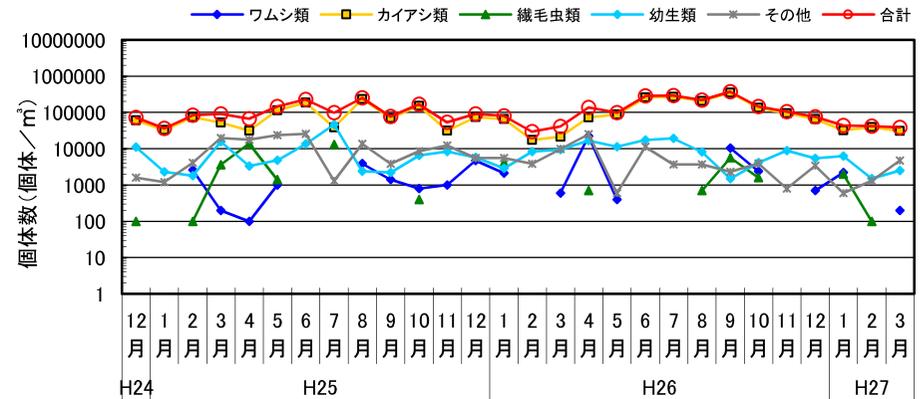
○種数は17～29種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は29,700～373,100個体/m³でカイアシ類、幼生類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



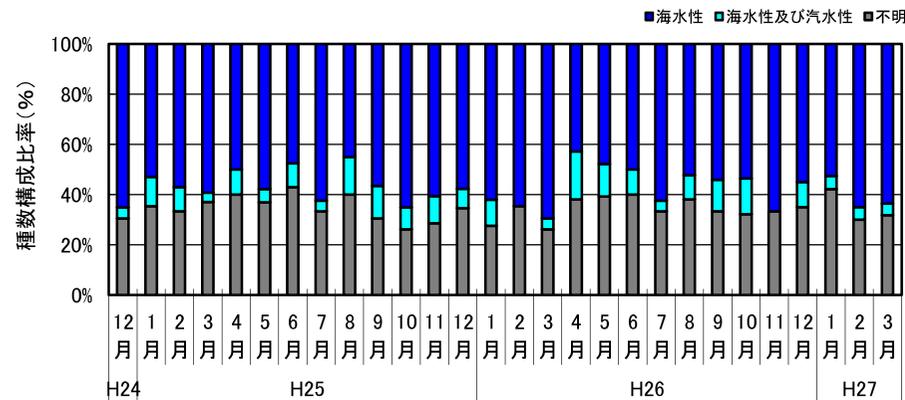
類別種数



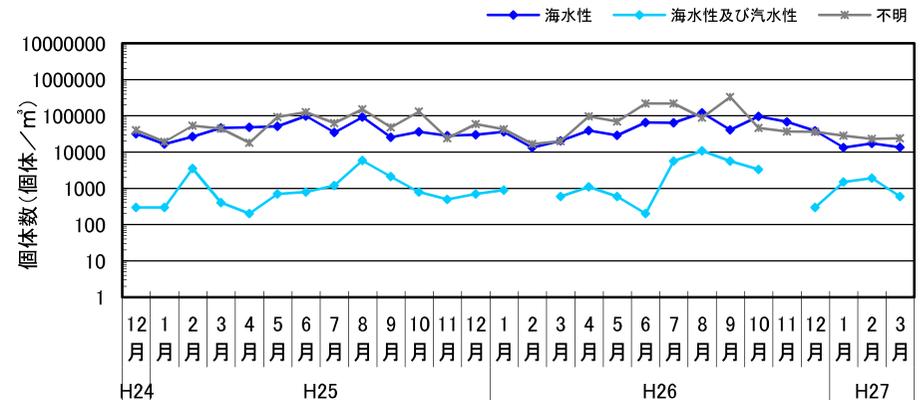
類別個体数



生態別種数



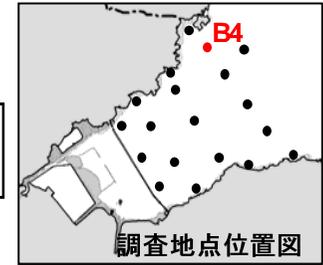
生態別個体数



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン
⑥諫早湾(B4)



○主な種は橈脚亜綱(ノープリウス)、Oithona spp.(コペポダイト)、Microsetella norvegica、二枚貝類(殻頂期幼生)、ワカレオタマボヤなどであった。

主な出現種

項目	調査年月		平成25年												
	海	汽	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門	海	スチコロロンケ									5.0			
		海	オオピンガタカラムシ								13.1				
		海	ピンガタカラムシ				○	19.8						○	
	細胞動物門	海	軟クラゲ目										2.6		
		不	ドロコムシ属			○	○		○			○		○	○
	カイアシ類	不	Acartia spp.(コペポダイト)	○	○	5.8	○	○	○	12.7	○		○	○	○
		海	Paracalanus spp.(コペポダイト)	11.0	9.4	○	○	6.5	14.8	12.9	9.4	17.7	4.7	○	20.3
		海・汽	Paracalanus crassirostris								○	○	○		○
		不	Paracalanus spp.(コペポダイト)								○	○	○		○
		海	Microsetella norvegica	15.2	12.7	5.8	○	11.1	○				11.2	6.9	○
		海	Microsetella spp.(コペポダイト)							○	○	○	11.7	4.3	○
		海	Oithona davisae	10.4	19.3	12.5	7.7	○		19.3		11.0			
		不	Oithona spp.(コペポダイト)	37.1	42.3	29.2	12.3	6.5	16.2	34.5	11.3	35.2			6.0
		海	Corycaeus spp.(コペポダイト)												
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	○	○	23.9	16.9	13.8	31.7	14.3	7.6	22.0	58.2	73.8	22.0
	毛類動物門	海	ヤムシ属								○	○	○	○	○
		海	ワカレオタマボヤ	○	○	○	13.8	26.3	16.2	10.3	○	○	○	3.1	22.7
	原生動物門	不	二枚貝類(殻頂期幼生)	6.7	5.2	○	11.6	○	○	○	37.1	○	○	2.7	8.3
		不	多毛類(幼生)	6.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海		クモヒトデ類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	



項目	調査年月		平成26年												平成27年		
	海	汽	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門	海	スチコロロンケ														
		海	オオピンガタカラムシ									○	○				
		海	ピンガタカラムシ	○			○										○
	細胞動物門	海	軟クラゲ目														
		不	ドロコムシ属	○		○	16.1	○					2.8	○		○	○
	カイアシ類	不	Acartia spp.(コペポダイト)		○	○	○	10.0	○	○	○	○	2.8	○	○	○	16.6
		海	Paracalanus spp.(コペポダイト)	12.3	○	○	○	16.0	3.4	○	○	○	○	○	20.2	○	17.1
		海・汽	Paracalanus crassirostris							1.9	4.9	○					9.4
		不	Paracalanus spp.(コペポダイト)								19.1	4.7	13.4				○
		海	Microsetella norvegica		○	11.2	○	○			80.6	○	56.1	51.0	11.5	15.9	13.5
		海	Microsetella spp.(コペポダイト)								○	○	○	6.6	○	○	○
		海	Oithona davisae	9.6	8.8	○		10.8	12.3	17.8		5.8	○	○	○	○	○
		不	Oithona spp.(コペポダイト)	17.4	10.1	10.2	16.1	22.9	55.7	56.7	9.4	63.2	4.5	○	○	8.5	9.5
		海	Corycaeus spp.(コペポダイト)										2.2	4.6	6.1	○	○
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	27.7	16.8	13.1	25.5	24.2	13.4	11.8	7.8	13.5	9.5	26.1	40.6	20.5	23.7
	毛類動物門	海	ヤムシ属								○	○	○	○	○	○	10.6
		海	ワカレオタマボヤ	6.4	9.4	15.3	18.1	○	○	○	○	○	○	○	3.6	○	○
	原生動物門	不	二枚貝類(殻頂期幼生)	○	25.6	20.9	9.8	○	5.3	5.6	○	○	3.9	○	9.4	○	○
		不	多毛類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.9	○	○	○
海		クモヒトデ類(幼生)	○											3.6			

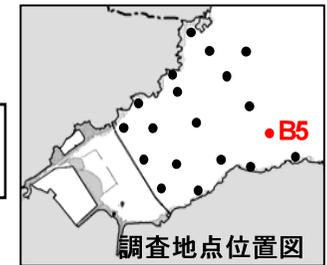
注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

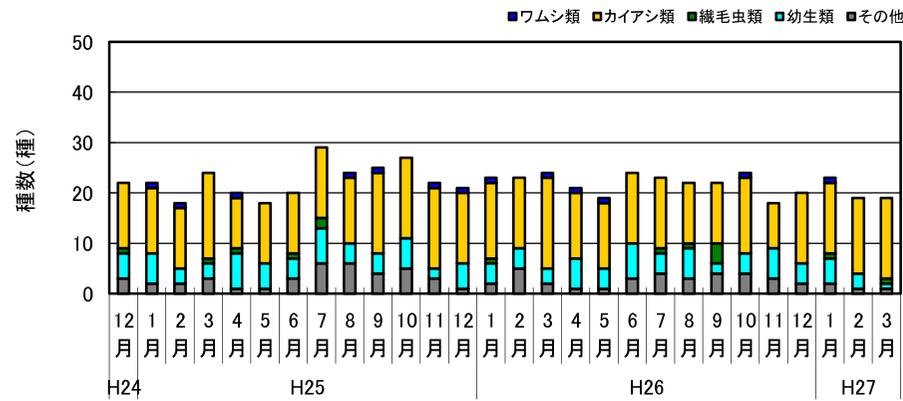
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑦諫早湾(B5)

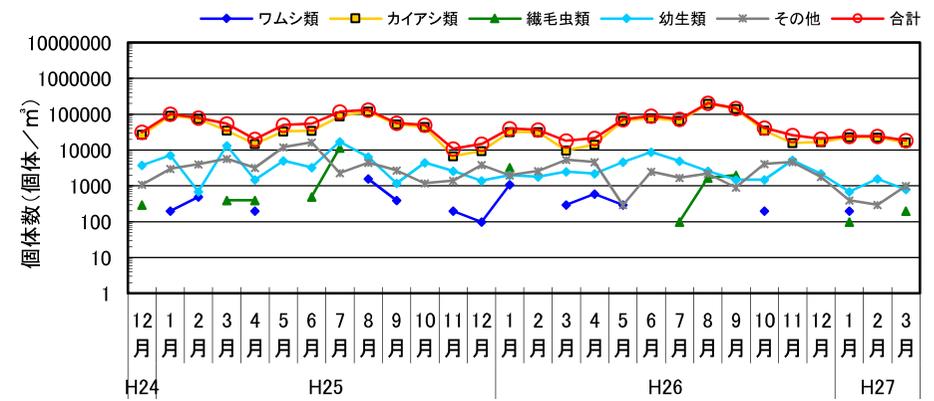
○種数は18~29種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は10,900~204,200個体/m³でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



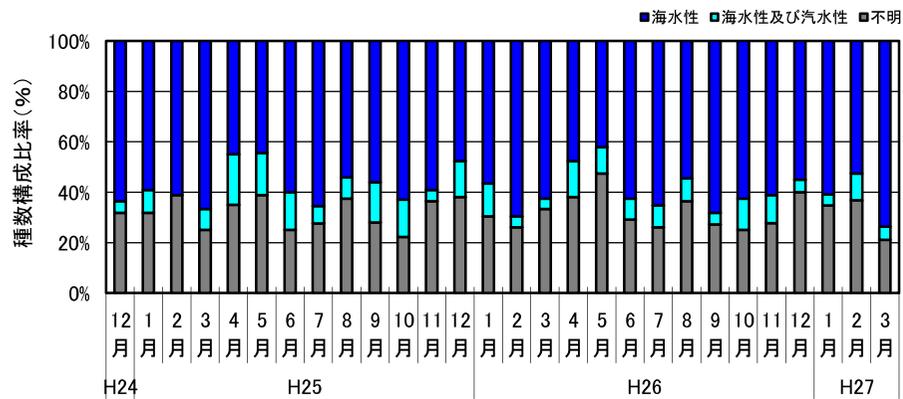
類別種数



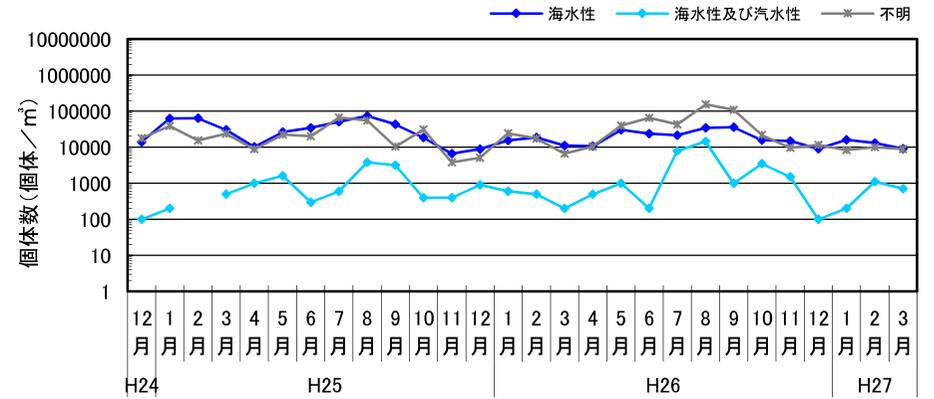
類別個体数



生態別種数



生態別個体数

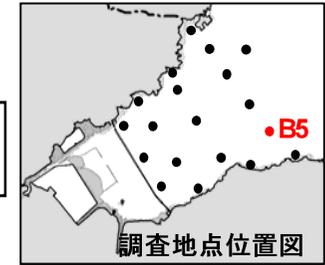


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン ⑦諫早湾(B5)

○主な種は橈脚亜綱(ノープリウス)、*Microsetella norvegica*、*Oithona* spp.(コペポダイト)、ワカレオタマボヤ、*Parvocalanus* spp.(コペポダイト)、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、二枚貝類(殻頂期幼生)などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年														
	海	汽	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門	海	スチコロシケ							○	○						
	繊毛虫類	海	オオピンガタカラムシ							9.3							
		海	ピンガタカラムシ				○	○									
	カイアシ類	不		<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	9.9	12.5			○	○		○	
		海		<i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)		○	○	○					○				
		海		<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)	7.5	14.8	○		5.9	19.6	13.8	14.2	28.3	5.1	○	9.2	14.2
		海・汽		<i>Parvocalanus crassirostris</i>										5.1			
		不		<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)							○	○	○		○		
		不		<i>Pseudodiaptomus</i> spp.(コペポダイト)						○	○	○	○			○	○
		海		<i>Microsetella norvegica</i>	6.6	27.7	60.8	29.6	5.9		○	○	15.9	53.9	14.0	14.7	○
		海		<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)		○	○	7.5					4.0	9.4	5.8		
		海		<i>Oithona daviseae</i>	17.2	13.8	○	○	12.9		10.4						
		不		<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	39.1	24.2	4.8	○		4.2	20.0	18.2	7.6	○	○	○	7.4
	海		<i>Corycaeus affinis</i>	○			○	○	○					4.6		○	
	海		<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)				○	○						4.6			
	海		ボエキロストム目(コペポダイト)	○											7.3	7.4	
	不		橈脚亜綱(ノープリウス)		5.8	12.3	13.1	25.7	17.4	10.4	24.8	25.5	10.3	52.5	○	18.9	
	毛類動物門	海	ヤムシ風														
	原索動物門	海	ワカレオタマボヤ		○	4.8	5.7	15.8	23.7	29.5	○	○	○		11.0	26.4	
	幼生類	不		巻貝類(幼生)	○	○	○	6.6	○	○					○	○	
不			二枚貝類(殻頂期幼生)	7.5	○	○	17.2	○	4.2	○	7.5	○	○	5.8	20.2	○	

主な種

橈脚亜綱
(ノープリウス)
(カイアシ類・不明)

項目	調査年月		平成26年												平成27年				
	海	汽	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門	海	スチコロシケ									○	16.6						
	繊毛虫類	海	オオピンガタカラムシ									○							
		海	ピンガタカラムシ	8.2															
	カイアシ類	不		<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○			○				○	11.0	12.8	9.7
		海		<i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)		○	○	○								○	○	○	5.4
		海		<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)	11.6	5.7	○		14.0	○	8.8					14.0	13.9	11.6	11.3
		海・汽		<i>Parvocalanus crassirostris</i>							10.5	6.9	○	8.0					
		不		<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)							14.9	35.4	12.7	17.2					
		不		<i>Pseudodiaptomus</i> spp.(コペポダイト)						4.9									
		海		<i>Microsetella norvegica</i>		21.6	12.7	11.6	18.4	11.7	○	○	14.4	17.2	20.1	6.8	40.0	29.3	12.9
		海		<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)		○	○												
		海		<i>Oithona daviseae</i>		○	○	7.4	8.7		9.6	6.0	7.4						
		不		<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	20.8	14.5	8.3	21.8	29.8	32.0	32.2	24.3	44.3	16.0	○	○	4.5	6.2	5.4
	海		<i>Corycaeus affinis</i>		○	○	○	○	○										
	海		<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)		○	○	○	○	○					6.9					
	海		ボエキロストム目(コペポダイト)		○	○	○	○	○										
	不		橈脚亜綱(ノープリウス)	30.7	27.3	11.0	16.2	14.9	27.0			15.2	16.5	17.2	23.2	43.0	15.5	14.9	28.5
	毛類動物門	海	ヤムシ風																5.4
	原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	4.5	5.7	22.7	21.8	○	○	○	○	○	○	○		7.7	○	○	
	幼生類	不		巻貝類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
不			二枚貝類(殻頂期幼生)			11.0	○	○		5.7	○	○	○	8.5	7.7	○	○	○	

注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

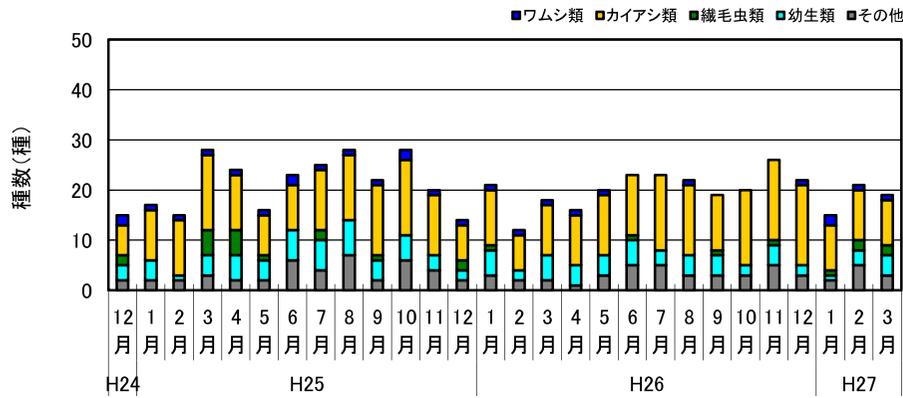
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑧有明海(Stn4)

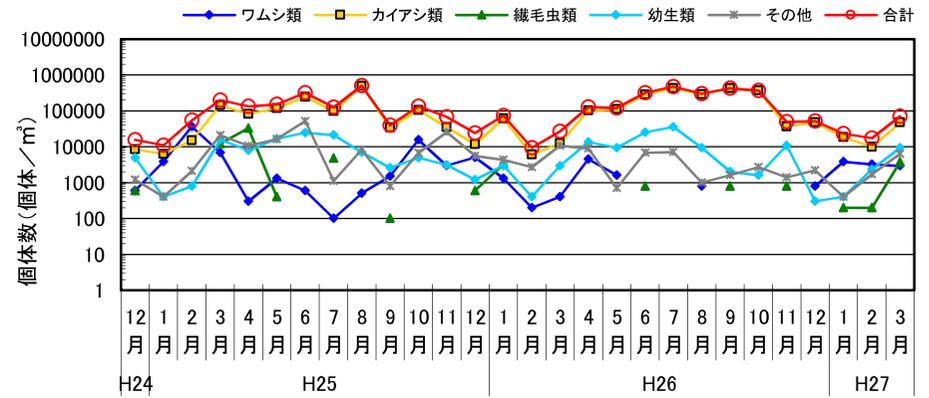
○種数は12~28種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は9,300~501,900個体/m³でカイアシ類、ワムシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



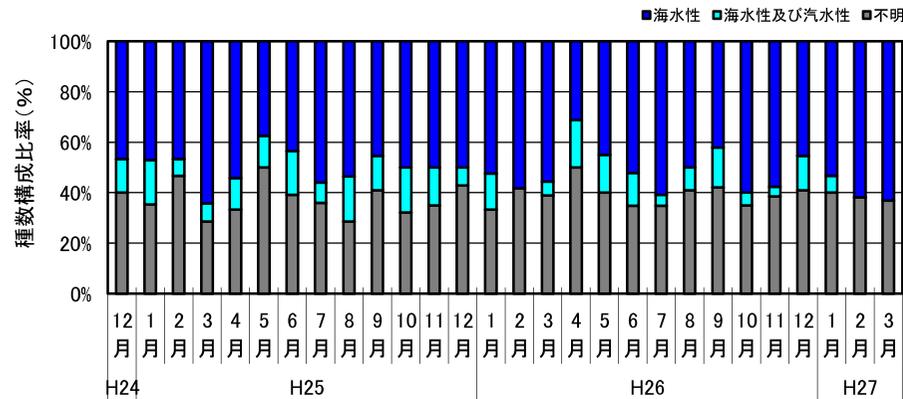
類別種数



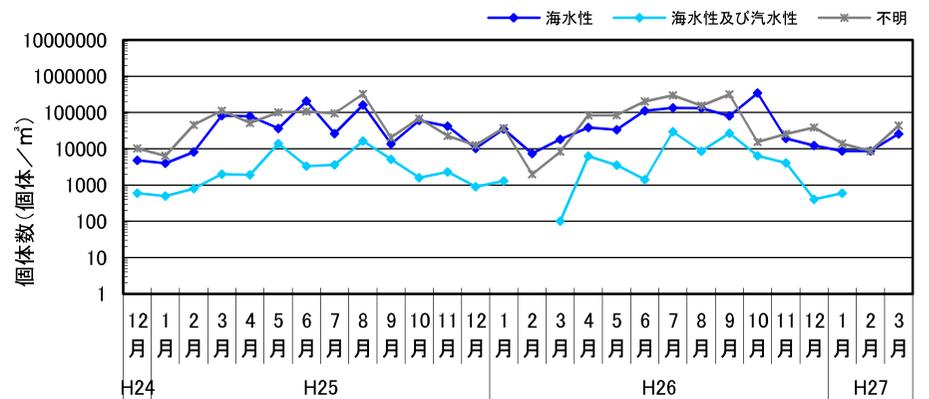
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑧有明海(Stn4)

○主な種は *Oithona* spp.(コペポダイト)、ワカレオタマボヤ、*Microsetella norvegica*、橈脚亜綱(ノープリウス)、ドロワムシ属、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、*Oithona davisae*、二枚貝類(殻頂期幼生)などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成26年													
	海	汽	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	オオビンガタカラムシ							3.6						
		海	ビンガタカラムシ	○				21.3	○							○
	ワムシ類	不	ドロワムシ属	○	34.9	66.9	○			○				11.7	4.5	21.0
		カイアシ類	不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)		○	○	○		11.8				6.4	○	○
	海		<i>Paracalanus parvus</i>		○	3.0				○				○	○	○
	海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	17.9	22.0	○			6.9	13.4	5.0	16.2	28.3	4.6	20.0	10.5	
	海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>											11.5	○	○	
	不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)									4.9	16.6				
	海	<i>Microsetella norvegica</i>			○	6.5	○							24.2		
	海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)												11.7		
	海	<i>Oithona davisae</i>	○	6.4	4.4	12.9	22.9	○	34.5	7.5	11.9				○	○
	不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	17.9	9.2	11.1	24.6	17.6	43.0	23.1	85.7	54.2	6.4	○	17.3	10.5	
	海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)														
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)	12.8	9.2	○	13.4	12.6	6.9	3.2	○	3.8	11.5	35.0	6.3	16.0	
	毛類動物門	海	ヤムシ属													
	原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	7.1	○	3.7	8.6	7.8	10.6	15.5			4.6	37.2	22.3	
		不	二枚貝類(殻頂期幼生)	28.8								13.6				
幼生類	海・汽	橈脚類(ノープリウス幼生)		○				6.9	○							

主な種



Oithona spp.
(コペポダイト)

(カイアシ類・不明)

項目	調査年月		平成26年												平成27年			
	海	汽	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	オオビンガタカラムシ															
		海	ビンガタカラムシ	○														○
	ワムシ類	不	ドロワムシ属	○	○	○	○	○			○				○	13.9	18.8	○
		カイアシ類	不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.7	○	○
	海		<i>Paracalanus parvus</i>	○	12.9											○	○	○
	海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	9.8	17.2	○	6.2	8.7	3.7	10.2					3.3	19.6	20.8	8.8	
	海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>							6.4	○	6.2	1.7						
	不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)								20.1	7.1	0.9						
	海	<i>Microsetella norvegica</i>	24.0	○	14.0		○	○		34.8	4.1	91.8	20.1		9.6	11.0	6.2	
	海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)																
	海	<i>Oithona davisae</i>	○	15.1	7.6	16.7	17.3	25.7	15.3	6.3	14.1			5.7	○	○	○	
	不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	14.3	10.8	11.7	37.6	46.1	45.4	50.2	22.7	63.2		11.8	40.6	20.9	○	○	
	海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)			○		○											
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)	27.6	○	7.6	12.5	8.0	8.8	○	5.7	○	2.4	16.9	24.9	17.0	9.8	34.8	
	毛類動物門	海	ヤムシ属			7.6												7.2
	原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	5.4	24.7	33.0	6.9											○
		不	二枚貝類(殻頂期幼生)	○	○	○	○	○	6.7	6.9	7.3	○	○	○	8.3	○	○	○
幼生類	海・汽	橈脚類(ノープリウス幼生)	○										8.3					

注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○×性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

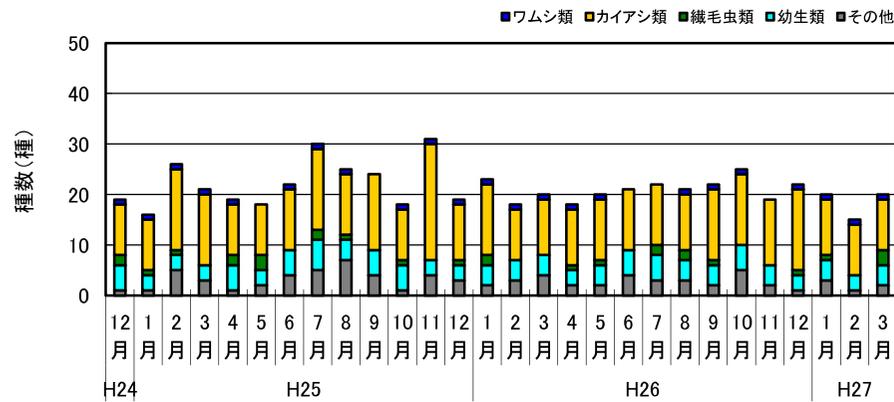
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑨有明海(Stn5)

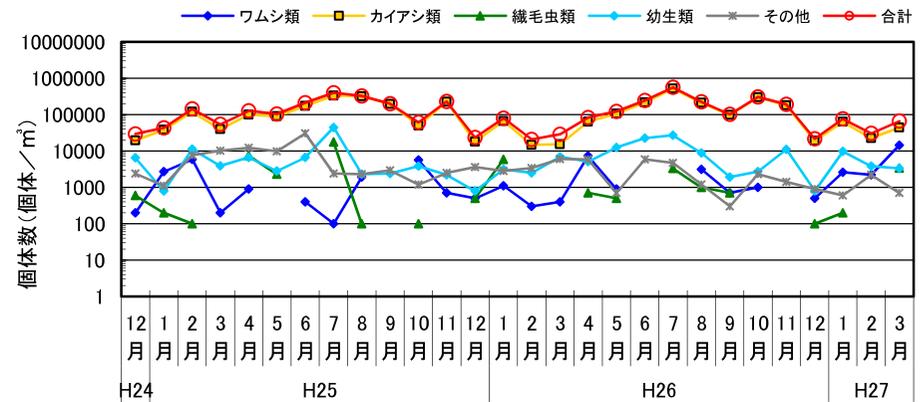
○種数は15～31種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は20,700～556,300個体/m³でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



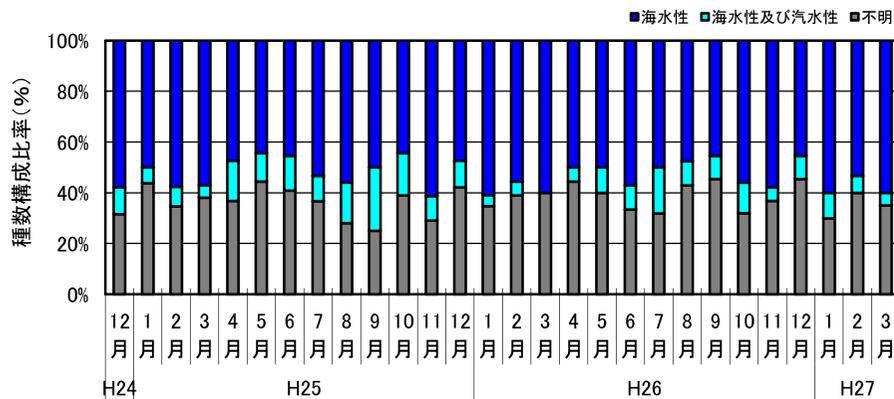
類別種数



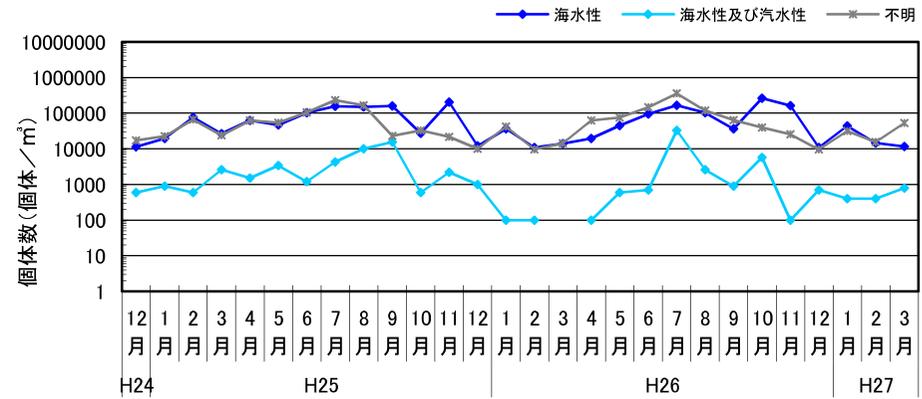
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン
⑨有明海(Stn5)

○主な種は *Oithona* spp.(コペポダイト)、*Microsetella norvegica*、橈脚亜綱(ノープリウス)、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、*Oithona davisae*などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年												
	海	汽	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	<i>Tintinnopsis beroides</i>		○						4.4	○		○	
		海	オオピンガタカラムシ					5.5	○						○
		海	ピンガタカラムシ			○									
	刺胞動物門	海	花クラゲ目								○	○			○
		不	ドロウシ属		6.3	○	○	○		○	○	○		9.3	○
	カイアシ類	不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)		○	○	7.6	○	○	○	○	○		○	○
		海	<i>Paracalanus parvus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○		○	1.3
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	22.0	25.6	5.3	○	○	10.8	3.8	4.7	34.2	6.5	○	1.6
		海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>								○	○	7.0		○
		不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)								○	4.2			○
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	○	○	30.3	○	○					63.8	29.3	84.0
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)										5.9	7.9	
		海	<i>Oithona davisae</i>	○	12.8	7.8	12.5	26.7	23.2	30.0	28.4	7.7	○	○	○
		不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	19.2	11.7	23.2	20.4	27.4	28.1	38.7	42.9	40.7	○	○	2.5
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	16.8	31.0	10.1	9.1	12.8	11.6	5.9	○	4.7	8.5	36.6	4.8
毛類動物門	海	ヤムシ属			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	ワカレオタマボヤ	8.2	○	○	16.9	9.5	8.9	14.2	○	○	○	○	14.7	
原生動物門	海	ワカレオタマボヤ	8.2	○	○	16.9	9.5	8.9	14.2	○	○	○	○	14.7	
	不	二枚貝類(殻頂期幼生)	16.8	○	○	○	○	○	○	10.2	○	○	○	○	
不	多毛類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.6	○	

主な種



Oithona spp.
(コペポダイト)
(カイアシ類・不明)

項目	調査年月		平成26年												平成27年			
	海	汽	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	<i>Tintinnopsis beroides</i>	○			○			○	○						4.6	
		海	オオピンガタカラムシ													○		
		海	ピンガタカラムシ				○						○					7.2
	刺胞動物門	海	花クラゲ目										○					7.2
		不	ドロウシ属	○	○	○	8.9	○			○	○	○		○	○		22.0
	カイアシ類	不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)		○	○	○	9.1	○	○	○	○		○	○			10.4
		海	<i>Paracalanus parvus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			○
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	15.5	11.1	○	○	○	6.3	○	○	○		○	22.4	15.8	19.0	4.6
		海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>							5.8	○	○	1.7					
		不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)							2.4	13.9	5.3	4.7					
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	8.2	9.7	19.0	○	○	8.4	○	36.9	12.5	82.6	79.8	10.7	34.9	○	○
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)			○								4.0				
		海	<i>Oithona davisae</i>	8.2	○	○	13.3	33.3	19.7	26.0	3.6	21.2	○		8.4	○	○	○
		不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	27.9	○	19.4	34.5	27.6	43.6	56.3	20.0	40.4	1.2	○	9.3	7.9	13.4	○
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	20.3	24.6	○	23.0	12.2	○	○	12.8	13.9	5.8	7.6	22.0	15.6	12.4	40.5
毛類動物門	海	ヤムシ属	○	○	9.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海	ワカレオタマボヤ	○	11.1	11.3	7.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
原生動物門	海	ワカレオタマボヤ	○	11.1	11.3	7.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	不	二枚貝類(殻頂期幼生)	○	10.6	16.9	○	7.9	7.9	4.5	○	○	○	2.7	11.3	7.5	○		
不	多毛類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.7	○	○	○		

注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○×性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

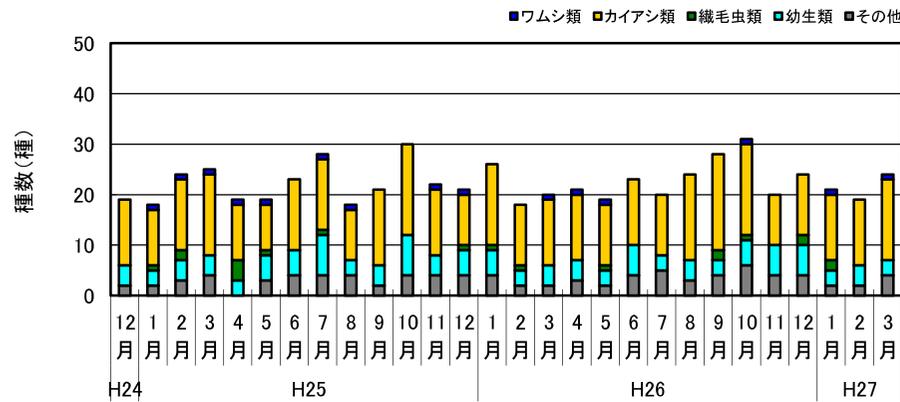
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑩有明海(Stn20)

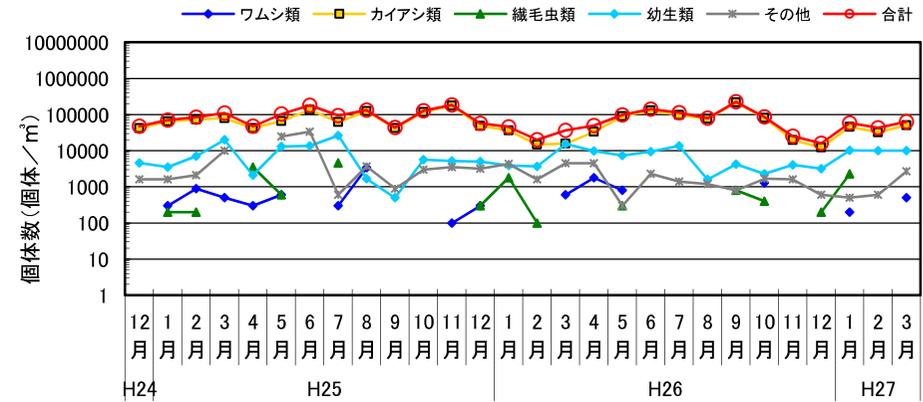
○種数は18～31種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は16,200～224,200個体/m³でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



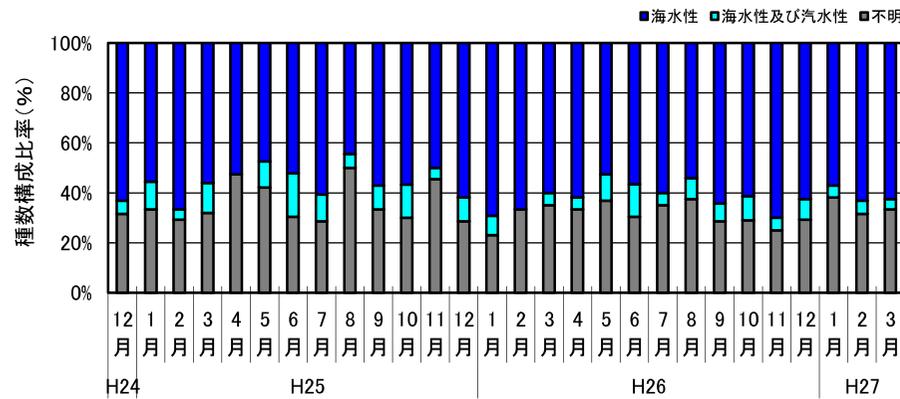
類別種数



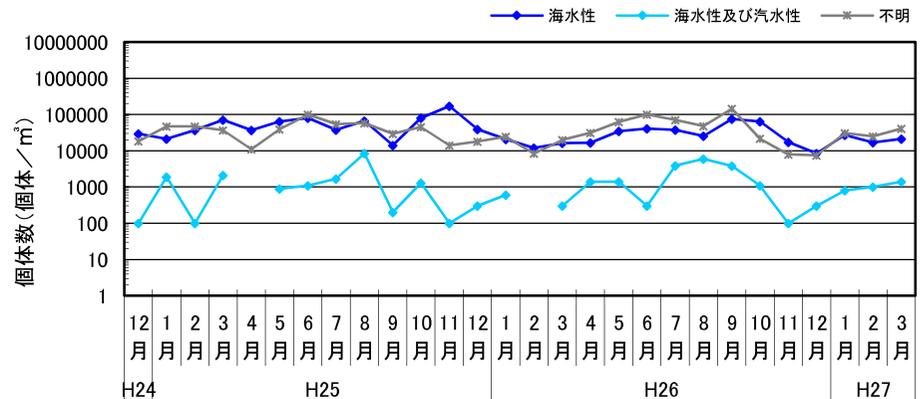
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

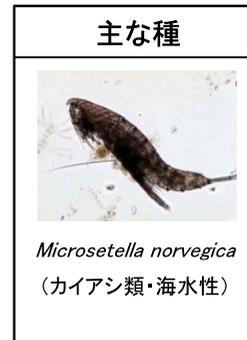
(7)水生生物 2)動物プランクトン
⑩有明海(Stn20)

○主な種は *Microsetella norvegica*、*Oithona* spp.(コペポダイト)、橈脚亜綱(ノープリウス)、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、二枚貝類(殻頂期幼生)などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年													
			12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	ビンガタカラムシ					5.5								
		不	ドロウムシ属													
	カイアシ類	不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)													
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	6.3	6.7	9.4	7.4	15.8	34.6	8.4	12.7	29.4	3.2	2.0	3.1	
		海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>									6.4				
		不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)										3.2			
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	40.6	4.8	17.5	38.9	45.2			8.3	12.7	17.4	44.7	84.8	
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)											7.3	10.4	
		海	<i>Oithona davisae</i>	6.3	13.8	10.2		6.7		14.3						
		不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	27.7	52.6	27.0			7.7	45.0	16.7	20.6			2.1	
		海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)													
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)		9.1	18.3	9.2	10.9	12.8		14.8	16.3	60.7	30.7	2.5	
	原索動物門	海	ワカレオタマゴヤ				6.9		23.5	16.7					1.5	
	幼生類	不	巻貝類(幼生)												5.3	
		不	二枚貝類(殻頂期幼生)	5.4			13.7		9.8	4.1	14.8			2.7	1.5	
不		多毛類(幼生)														



項目	調査年月		平成26年										平成27年					
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	ビンガタカラムシ									1.5						
		不	ドロウムシ属															
	カイアシ類	不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)													6.0		8.0
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	16.9	6.4			9.6							22.8	12.4	10.4	11.5
		海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>								7.4							
		不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)							8.7	17.3	3.6	9.7					
		海	<i>Microsetella norvegica</i>		26.1	19.7	13.2	14.7	16.1			24.9	25.2	66.9	39.9	12.3	23.7	18.3
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)										1.5					
		海	<i>Oithona davisae</i>					8.6	6.7	15.8		5.4						
		不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	17.5	12.8	6.3	16.4	36.2	56.4	31.6	11.6	50.3	5.1				7.7	
		海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)											11.9				
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	27.1	7.9	4.4	21.5	11.9	6.7	9.8	28.3	8.4	6.1	19.0	25.9	23.7	21.1	33.1
	原索動物門	海	ワカレオタマゴヤ	8.0		10.7	8.3											
	幼生類	不	巻貝類(幼生)															
		不	二枚貝類(殻頂期幼生)	6.7	14.8	38.9	15.6		5.3	10.8			1.5	6.7	6.8	15.5	19.0	12.2
不		多毛類(幼生)											4.3	6.8				

注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

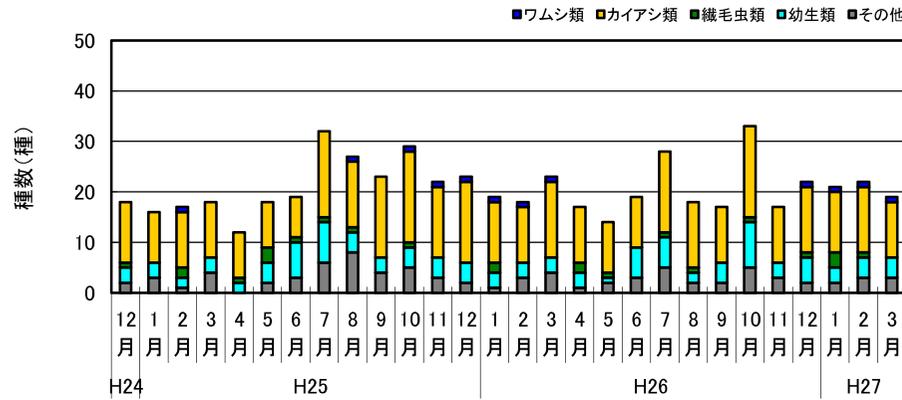
(7)水生生物 2)動物プランクトン

①有明海(Stn22)

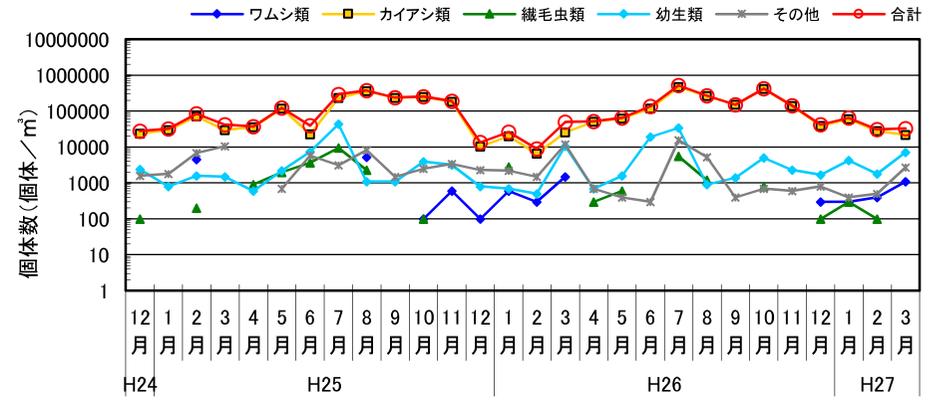
○種数は12～33種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は8,900～528,500個体/m³でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



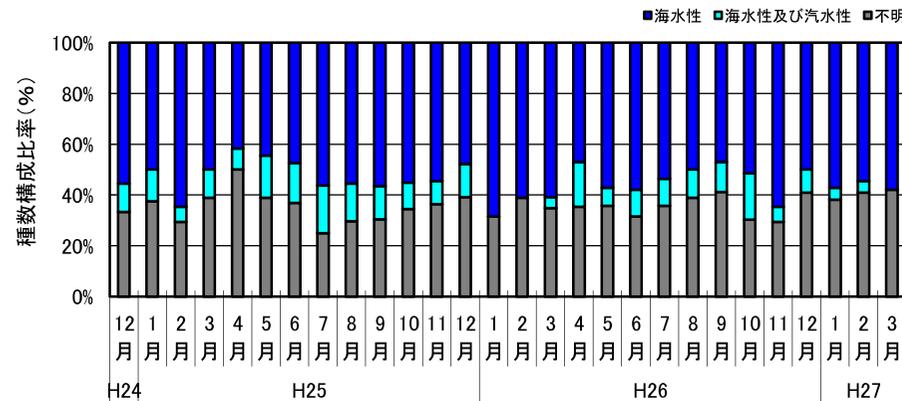
類別種数



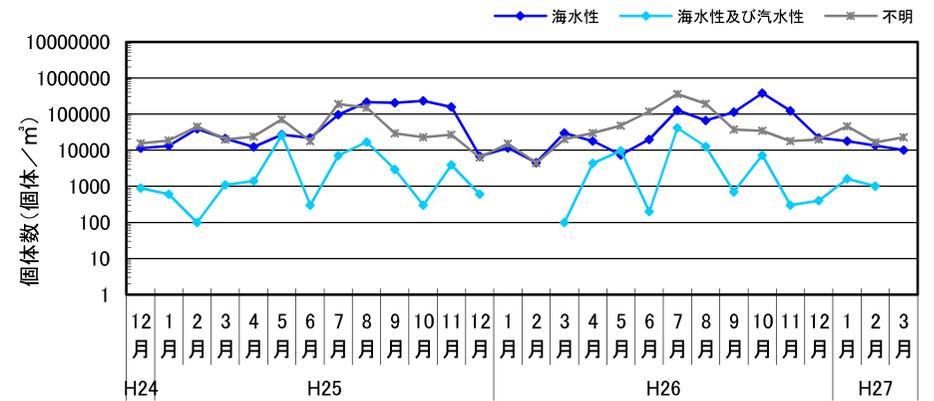
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン

①有明海(Stn22)

○主な種は *Oithona* spp.(コペポダイト)、橈脚亜綱(ノープリウス)、*Microsetella norvegica*、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、*Microsetella* spp.(コペポダイト)、*Oithona davisae*、ワカレオタマボヤなどであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年														
	海	汽	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	<i>Tintinnopsis beroidea</i>						9.3								
		海	ビンガタカラムシ	○				○									
	カイアシ類	海・汽	<i>Acartia omorii</i>	○	○	○	○	3.8	20.7	○	○						
		不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)		6.2		7.4	7.2	15.5	○	○		1.4		○		
		海	<i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	7.4					○			○	○	
		海	<i>Paracalanus parvus</i>		○		○										
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	24.9	19.4	8.0	○	○	○	9.3	16.3	36.1	6.1	○	1.3	18.4	
		海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>									4.4					
		不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)										6.6	○		7.4	
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	○		○	○					9.5	77.5	83.5	77.9	○	○
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)		○								1.5	2.5	○	○	○
		海	<i>Oithona davisae</i>	7.2	13.0	16.1	9.6	27.1	15.0	13.8	7.2						
	海・汽	<i>Oithona nana</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.0	○	
	不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	19.1	22.8	27.6	20.1	40.5	31.6	12.3	33.6	25.2	○	○	10.4	10.3		
	海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2.0	○	○	
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)	27.8	26.2	17.8	15.8	13.4	8.3	16.8	15.8	8.9	4.9	5.1	1.7	14.7		
	毛類動物門	海	ヤムシ属														
	原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	○	○	8.0	21.1	○	○	13.8	○	○	○	1.3	16.2		
	幼生類	不	巻貝類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		不	二枚貝類(殻頂期幼生)	7.2	○	○	○	○	○	11.9	○	○	○	○	○	○	
不		多毛類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

主な種



Oithona spp.
(コペポダイト)
(カイアシ類・不明)

項目	調査年月		平成26年												平成27年			
	海	汽	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	<i>Tintinnopsis beroidea</i>															
		海	ビンガタカラムシ	10.2														
	カイアシ類	海・汽	<i>Acartia omorii</i>			○	7.1	14.7	○									
		不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)		○	○	9.2	18.7		○	○				3.1	20.9	10.4	8.3
		海	<i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.6	9.1	○
		海	<i>Paracalanus parvus</i>			9.0												
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	15.1	○	○	○	○	○		7.2					36.5	13.9	10.1
		海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>									7.7	○	1.3				
		不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)									8.3	26.0	2.9	4.8			
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	○	○	25.6	○	○	○	○	○	9.0	61.9	89.1	2.1	○	○	10.4
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)												83.0			
		海	<i>Oithona davisae</i>	○	6.7	○	30.8	7.4	12.2	14.6	○	11.2	○					
	海・汽	<i>Oithona nana</i>																
	不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	18.1	14.6	9.0	21.6	30.1	54.8	28.8	28.0	13.6	1.9	2.1	8.8	5.8	15.3	○	
	海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.0	○	○	
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)	30.6	21.3	○	25.5	22.1	15.5	24.2	16.5	6.6	0.6	9.0	29.1	36.2	18.6	31.5	
	毛類動物門	海	ヤムシ属			6.4												
	原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	8.3	11.2	16.0	○											
	幼生類	不	巻貝類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.9
		不	二枚貝類(殻頂期幼生)	○	○	12.2	○	○	○	11.4	○	○	○	1.1	○	○	○	8.9
不		多毛類(幼生)	○	○	○	○	○	○	2.2	○	○	○	○	○	○	○	○	

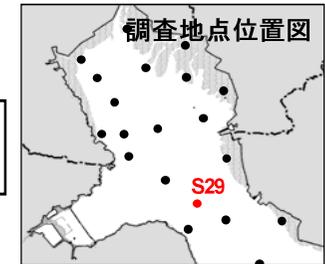
注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○」性及び「○」性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

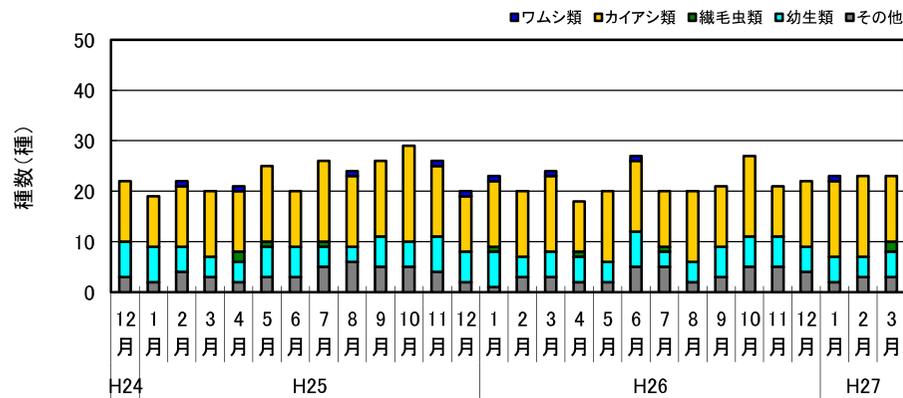
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑫有明海(S29)

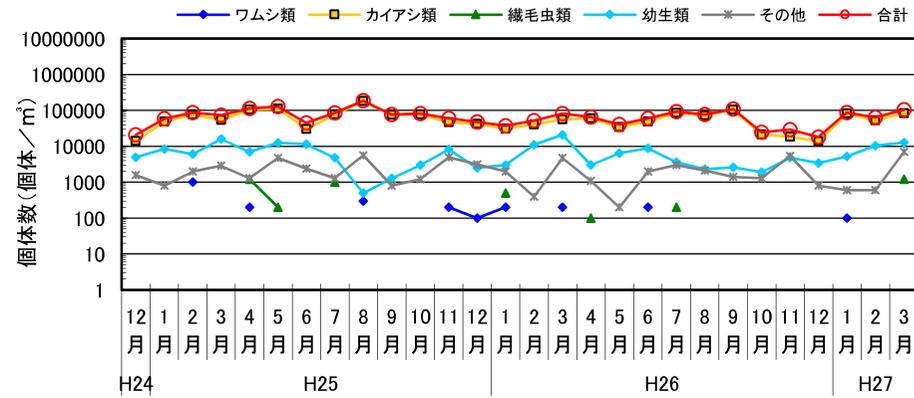
○種数は18～29種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は18,000～187,900個体/m³でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



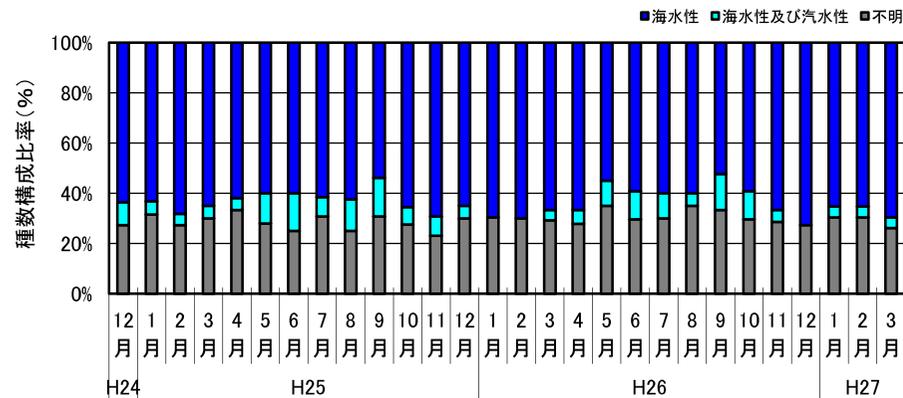
類別種数



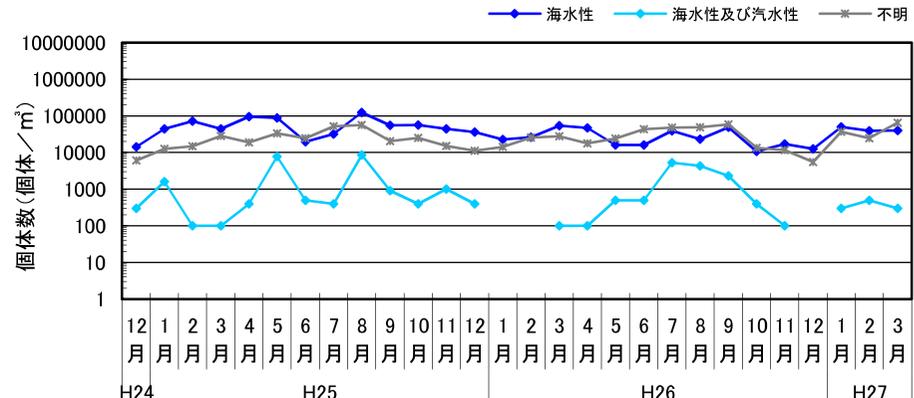
類別個体数



生態別種数



生態別個体数

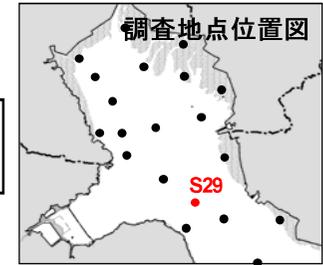


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン
⑫有明海(S29)

○主な種は *Microsetella norvegica*、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、*Oithona* spp.(コペポダイト)、橈脚亜綱(ノープリウス)、*Parvocalanus* spp.(コペポダイト)などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年														
	海	汽	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門 カイアシ類	海	スチコロコケ														
		海・汽	<i>Acartia omorii</i>			○	○		5.8								
		海	<i>Paracalanus parvus</i>	○	○					○	○			○	○	○	
		海	<i>Paracalanus spp.</i> (コペポダイト)	23.2	12.4	5.1	4.7	3.5	5.4	13.7	20.2	39.4	13.0		5.2	11.3	
		海・汽	<i>Paracalanus crassirostris</i>								○	○					
		海・汽	<i>Paracalanus spp.</i> (コペポダイト)								○	○		3.4			
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	18.4	55.9	69.9	44.7	75.5	57.1	14.6	○	8.7		46.2	51.5	47.5	48.1
		海	<i>Microsetella spp.</i> (コペポダイト)			○	○	○	○	○	○	○		10.5	9.1	○	6.7
		海	<i>Oithona davisiae</i>	○	○							7.9	7.9				
		海	<i>Oithona spp.</i> (コペポダイト)	8.7	7.6	3.5	3.3	5.5	5.9	21.6	37.9	18.2					
		海	<i>Corycaeus spp.</i> (コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○			3.2	○	○
		海	橈脚亜綱(ノープリウス)	○	2.8	5.7	15.1	4.5	9.2	8.8	17.9	6.2	18.9	25.3	13.8	13.9	
		海	ヤムシ属		○	○	○				○	○			○	○	
		海	ワカレオタマゴヤ	○	○	○	○	○	○	○	○	○			7.7	5.9	
海	巻貝類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○			
海	二枚貝類(殻頂期幼生)	13.5	7.2	5.7	17.1	2.8		20.7	2.8			1.6	5.5				
海	多毛類(幼生)	○	2.8	○	○	○	○	○	○	○			○	○			
海・汽	蔓脚類(ノープリウス幼生)	○	2.8										○	○			
海	クモヒトデ類(幼生)	5.8	○					○	○	○			○	○			

主な種

Microsetella norvegica
(カイアシ類・海水性)

項目	調査年月		平成26年												平成27年					
	海	汽	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門 カイアシ類	海	スチコロコケ											15.6	○		○			
		海・汽	<i>Acartia omorii</i>			○	○	○	○							○	○	○		
		海	<i>Paracalanus parvus</i>	○	○		○							4.1	○	5.0	3.2	○	○	
		海	<i>Paracalanus spp.</i> (コペポダイト)	29.5	4.4	○	7.0	11.1	4.5	○	○	○		4.1	○	37.2	15.7	7.9	8.4	
		海・汽	<i>Paracalanus crassirostris</i>								5.5	5.6	○							
		海	<i>Paracalanus spp.</i> (コペポダイト)								9.6	30.1	7.3		8.5					
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	17.1	36.7	53.3	58.5	20.9	7.2	24.0	19.3	38.9	28.0	28.1	6.7	33.1	44.3	16.4		
		海	<i>Microsetella spp.</i> (コペポダイト)		○	○				○	○	○		○	○	○				
		海	<i>Oithona davisiae</i>	○	○	○	○				9.6	5.6	3.6							
		海	<i>Oithona spp.</i> (コペポダイト)	○	7.3	3.5	10.4	15.0	38.3	34.3	18.3	20.6	4.1	○	○		7.6	○		
		海	<i>Corycaeus spp.</i> (コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○				5.0	○	○	○	
		海	橈脚亜綱(ノープリウス)	27.1	21.1	4.7	12.8	23.1	21.7		12.7	22.4	34.1	21.9	10.0	32.3	12.6	41.8		
		海	ヤムシ属		○	○	○				○	○			○	○	○	○	6.0	
		海	ワカレオタマゴヤ	5.4		3.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海	巻貝類(幼生)	○	4.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海	二枚貝類(殻頂期幼生)	6.0	16.1	23.3	3.7	12.0	6.9	○	○	○	5.3	12.2	13.3	3.9	13.1	10.3				
海	多毛類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海・汽	蔓脚類(ノープリウス幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
海	クモヒトデ類(幼生)	○																		

注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○×性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

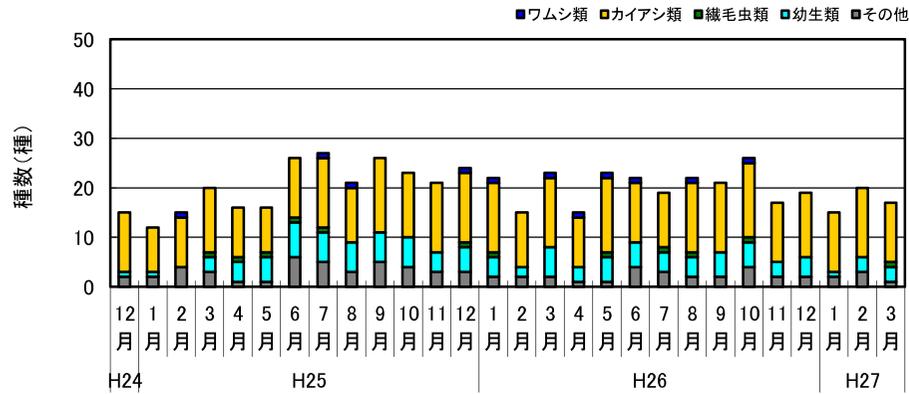
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑬有明海(Stn39)

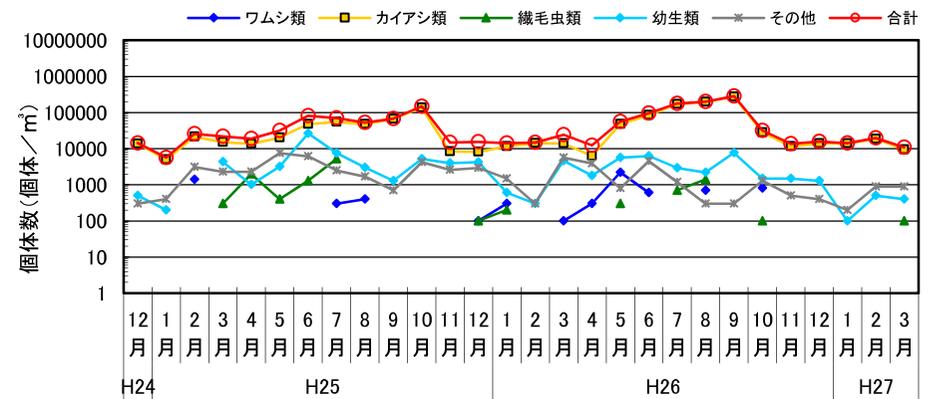
○種数は12~27種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は5,600~281,100個体/m³でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



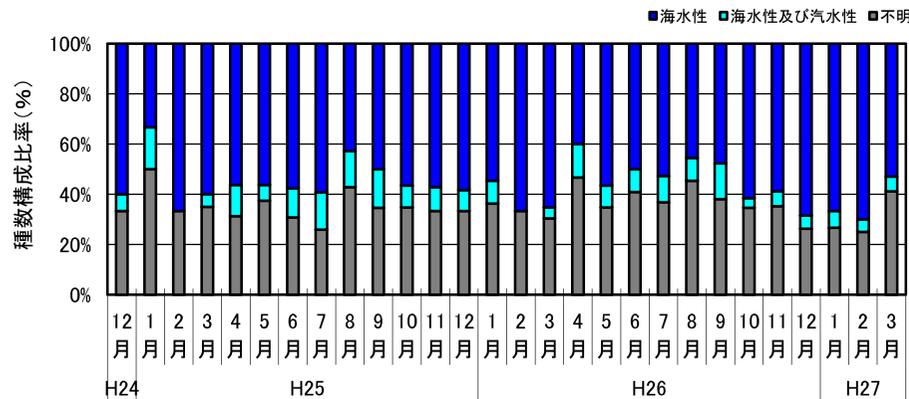
類別種数



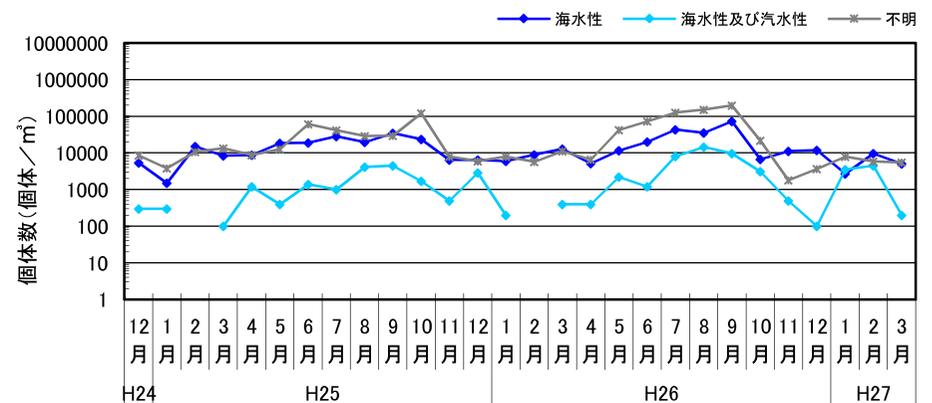
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン
⑬有明海(Stn39)

○主な種は橈脚亜綱(ノープリウス)、*Oithona* spp.(コペポダイト)、*Microsetella norvegica*、ワカレオタマボヤ、*Acartia omorii*、*Acartia* spp.(コペポダイト)、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、*Parvocalanus* spp.(コペポダイト)、*Oithona davisae*、二枚貝類(殻頂期幼生)などであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成25年																
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	オオビンガタカラムシ															
	海	ビンガタカラムシ				○	10.6		○	7.4								
	カイアシ類	海・汽	<i>Acartia omorii</i>				○											
		不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	○	8.9	○		16.0	9.2	○				1.9			○	
		海	<i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)		5.4	○	○											
		海	<i>Paracalanus parvus</i>														8.1	○
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	4.9	12.5	○	7.8	○	25.2	○	14.9	22.2	10.1	○	8.1	11.7		
		海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>									6.1	○					
		不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)									6.1	○					
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	3.5		19.8	7.8	○		○	○			26.1	6.2	○	○	
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)					○		○				11.2	1.9			
		海	<i>Oithona davisae</i>	22.4	5.4	19.8	○	○		6.8	○	○						
	不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	44.8	21.4	14.3	12.3	8.5	○	22.4	14.3	8.3	8.1	○	8.1	5.2			
	海	<i>Corycaeus affinis</i>																
	海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)														3.2		
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)	9.8	28.6	14.3	24.7	19.1	15.9	15.7	35.1	35.3	27.2	77.4	21.5	24.7			
	毛類動物門	海	ヤムシ属															
	原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	○	○	10.9	9.1	12.2	23.9	5.9	○	○		1.9	16.1	17.5		
	幼生類	不	二枚貝類(殻頂期幼生)	3.5	○		13.7	○	6.7	28.4	6.9	○	○		16.1	○		
		不	多毛類(幼生)															
海・汽		橈脚類(ノープリウス幼生)														18.2		

主な種



橈脚亜綱
(ノープリウス)
(カイアシ類・不明)

項目	調査年月	平成26年												平成27年						
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
主な出現種 (%)	繊毛虫類	海	オオビンガタカラムシ																	
	海	ビンガタカラムシ	○																	
	カイアシ類	海・汽	<i>Acartia omorii</i>			○	○	○									24.8	22.6	○	
		不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	3.5	4.1	○	6.6	14.6									40.4	9.5	10.2	
		海	<i>Centropages</i> spp.(コペポダイト)	3.5	○	○											4.3	○	○	
		海	<i>Paracalanus parvus</i>		4.1													8.0	○	
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	18.4	○	○		7.8	3.9	○	○						3.7	25.0	5.0	10.6
		海・汽	<i>Parvocalanus crassirostris</i>																	
		不	<i>Parvocalanus</i> spp.(コペポダイト)								4.1	7.2	○	9.8						
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	○	38.1	14.0					8.7	28.1	16.9	10.4	○					
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)													62.2	27.6	4.3	○	13.0
		海	<i>Oithona davisae</i>	○	12.9	○	○	○		8.7	17.0	10.6	9.0	7.3	○	○				
	不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	12.1	15.0	7.8	9.0	29.0	50.2	51.4	25.7	35.9	39.1								
	海	<i>Corycaeus affinis</i>	○		○	○											4.5	○	○	
	海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○															
	不	橈脚亜綱(ノープリウス)	34.0	17.7	17.3	23.0	19.9	17.2	9.4	19.2	16.6	12.6	3.7	13.5	12.1	14.1	30.6			
	毛類動物門	海	ヤムシ属																	
	原索動物門	海	ワカレオタマボヤ	9.9	○	17.3	32.0	○	3.9	○										
	幼生類	不	二枚貝類(殻頂期幼生)			16.0	11.5	5.9	4.5	○	○	○	○		3.7	5.1	○	○	○	
		不	多毛類(幼生)																	
海・汽		橈脚類(ノープリウス幼生)																		

注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

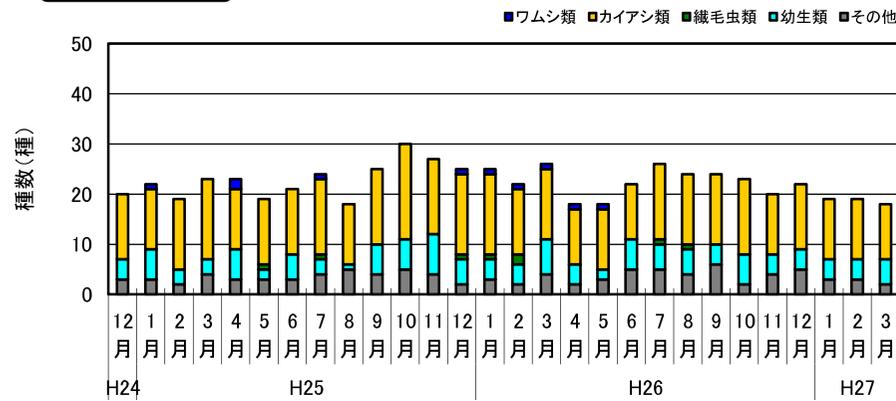
(7)水生生物 2)動物プランクトン

⑭有明海(Stn13)

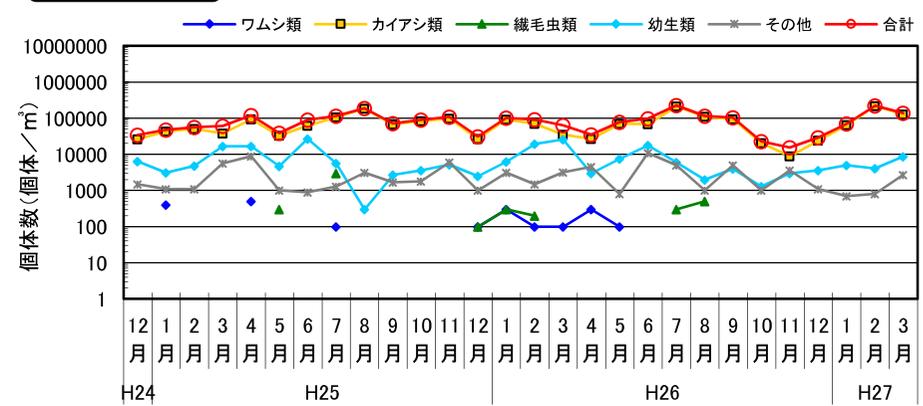
○種数は18～30種でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。
 ○個体数は15,400～226,100個体/m³でカイアシ類が多く、生態別には主に海水性で構成されていた。



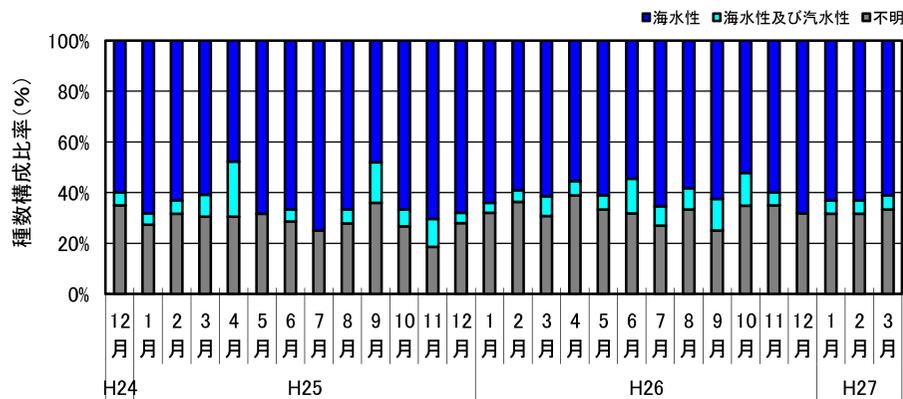
類別種数



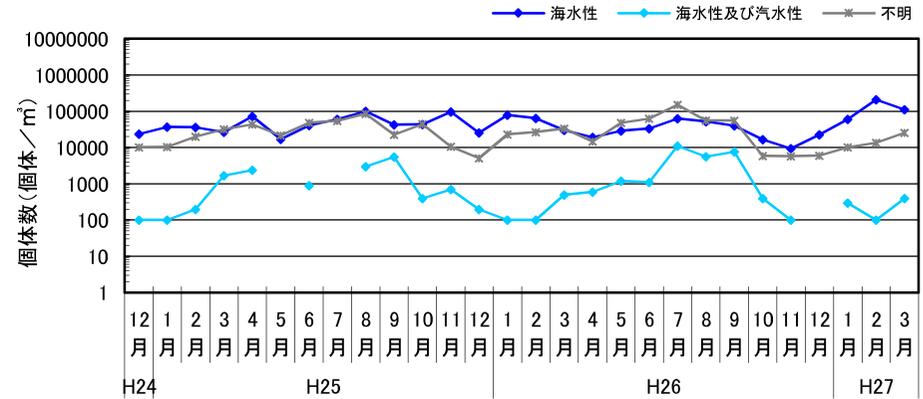
類別個体数



生態別種数



生態別個体数



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 2)動物プランクトン
⑭有明海(Stn13)

○主な種は *Microsetella norvegica*、橈脚亜綱(ノープリウス)、二枚貝類(殻頂期幼生)、*Paracalanus* spp.(コペポダイト)、スチコロンケ、*Oithona* spp.(コペポダイト)などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年													
	調査年月	調査場所	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門 カイアシ類	海	スチコロンケ													
		不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		海	<i>Paracalanus parvus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	5.6	10.9	○	11.4	○	14.4	24.1	30.3	35.1	20.0	2.8	5.9	7.5
		海・汽	<i>Paracalanus crassirostris</i>										6.0			
		不	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)										6.0	5.5		○
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	54.8	53.7	47.6	12.9	49.6	19.3	○	○	○	31.7	39.3	73.6	53.9
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)		4.8	5.5	○	○	○	○	12.1	○	○	2.0	○	9.1
		海	<i>Oithona davisae</i>	2.3	○	○	○	○	○	7.4	○	11.7	○	○	○	○
		不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	9.7	13.8	6.0	○	9.5	11.6	17.7	11.9	26.7	○	2.0	○	○
		海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	○	○	18.8	20.0	12.8	26.0	7.1	30.5	12.1	20.6	44.1	3.6	6.8
		毛顎動物門	海	ヤムシ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		原索動物門	海	ワカレオタマゴヤ	2.3	○	○	○	7.3	○	○	○	○	5.1	○	○
		幼生類	不	巻貝類(幼生)	○	○	6.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○
不	二枚貝類(殻頂期幼生)		15.5	3.6	5.5	20.8	7.3	9.3	26.4	4.0	○	2.4	2.6	4.5		
不	多毛類(幼生)		2.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

主な種



Microsetella norvegica
(カイアシ類・海水性)

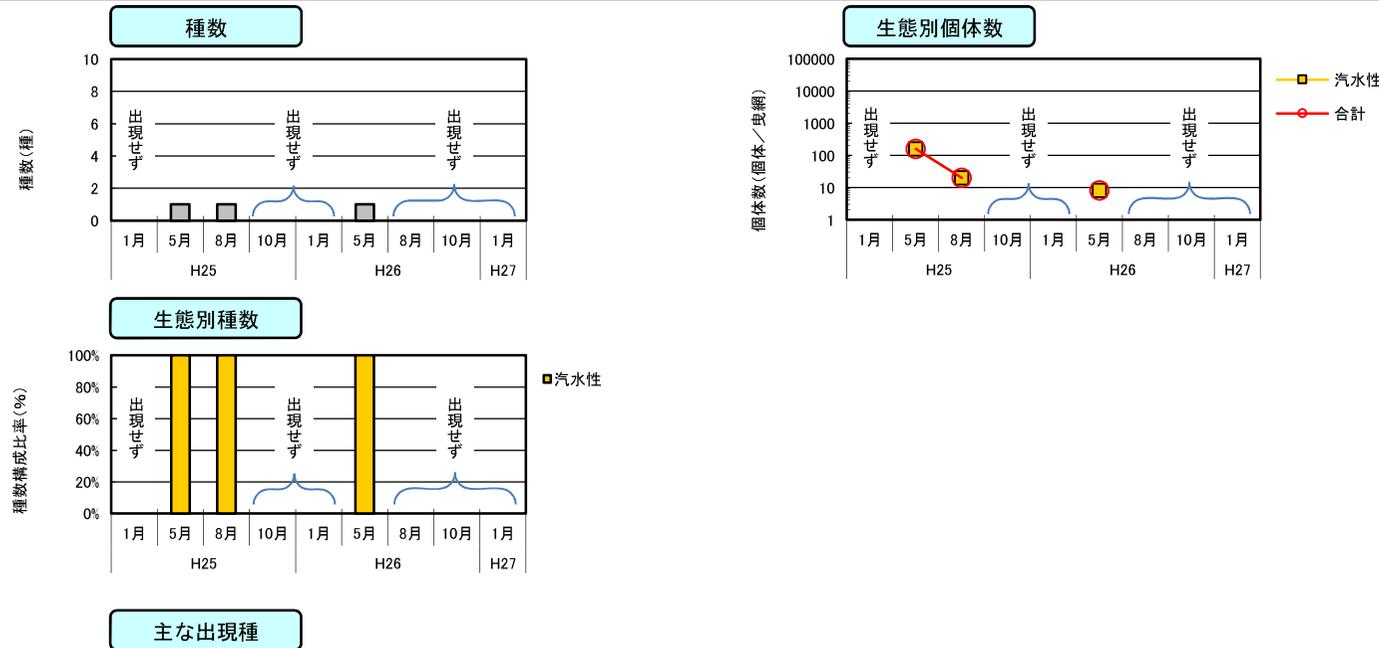
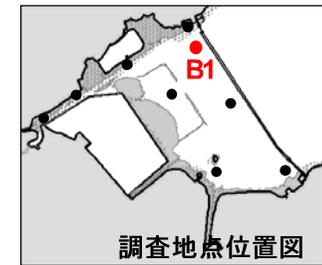
項目	調査年月		平成26年												平成27年				
	調査年月	調査場所	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
主な出現種 (%)	肉質鞭毛虫門 カイアシ類	海	スチコロンケ									3.9	20.1						
		不	<i>Acartia</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	19.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		海	<i>Paracalanus parvus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.9	○	○	○
		海	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)	21.5	4.2	○	14.9	13.1	10.0	○	6.2	○	○	○	26.6	9.8	1.2	3.4	
		海・汽	<i>Paracalanus crassirostris</i>							4.8	○	6.7	○	○					
		不	<i>Paracalanus</i> spp.(コペポダイト)								24.7	14.2	5.7	○					
		海	<i>Microsetella norvegica</i>	47.7	60.6	35.6	21.6	19.1	○	11.9	29.5	25.7	55.0	14.9	24.9	69.6	91.4	73.0	
		海	<i>Microsetella</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	9.8	5.8	○	4.8	6.5	○	○	○	
		海	<i>Oithona davisae</i>	○	○	○	○	○	○	9.8	5.8	○	○	○	○	○	○	○	
		不	<i>Oithona</i> spp.(コペポダイト)	○	2.9	4.8	11.8	○	21.2	53.8	20.3	18.2	○	○	○	2.6	1.8	2.7	
		海	<i>Corycaeus</i> spp.(コペポダイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.6	○	○	○
		不	橈脚亜綱(ノープリウス)	14.0	4.9	6.7	20.1	27.6	21.8	6.4	○	16.9	11.4	13.6	○	4.8	2.3	9.0	
		毛顎動物門	海	ヤムシ属	○	○	○	○	○	7.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		原索動物門	海	ワカレオタマゴヤ	2.2	○	3.3	12.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		幼生類	不	巻貝類(幼生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
不	二枚貝類(殻頂期幼生)		2.5	17.6	35.6	○	9.3	11.5	○	○	○	○	14.9	9.3	5.0	0.9	4.6		
不	多毛類(幼生)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

注1) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注2) 主な出現種表中の数値は各月で上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。○は上位5種以外の出現種を示す。
 注3) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、淡・海:淡水性・海水性、淡・海・汽:淡水性・海水性・汽水性、不:不明
 注4) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

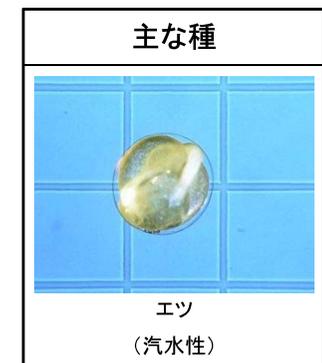
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

①調整池(B1)

- 種数は0~1種で、生態別には汽水性で構成されていた。
- 個体数は0~156個体/曳網で、生態別には汽水性で構成されていた。
- 出現種はエツであった。



項目	調査年月				平成25年				平成26年				平成27年
	1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	汽	エツ	出現せず	100.0	100.0	出現せず	出現せず	100.0	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず

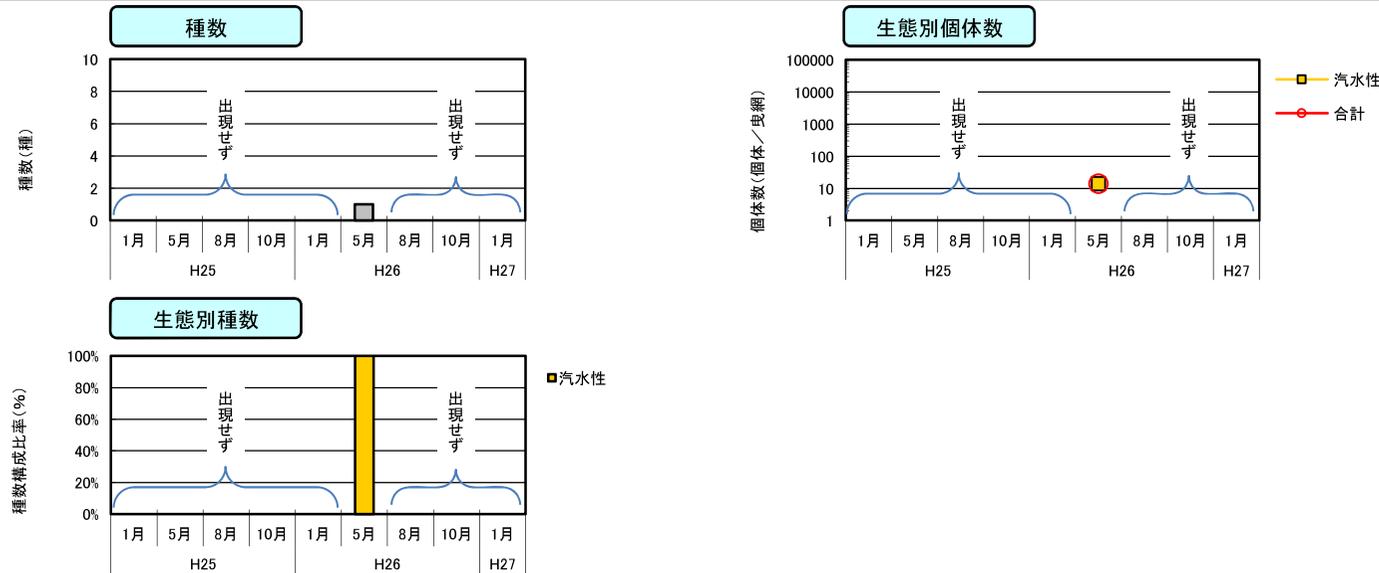
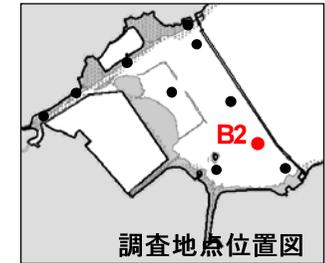


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

②調整池(B2)

- 種数は0～1種で、生態別には汽水性で構成されていた。
- 個体数は0～14個体/曳網で、生態別には汽水性で構成されていた。
- 出現種はエツであった。



主な出現種

項目	調査年月				平成25年				平成26年				平成27年
	1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	汽	エツ		出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	100.0	出現せず	出現せず	出現せず



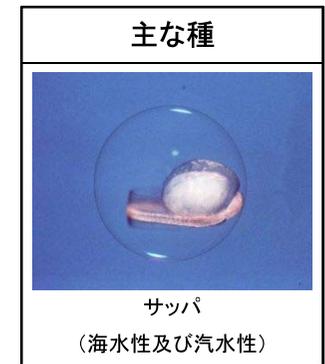
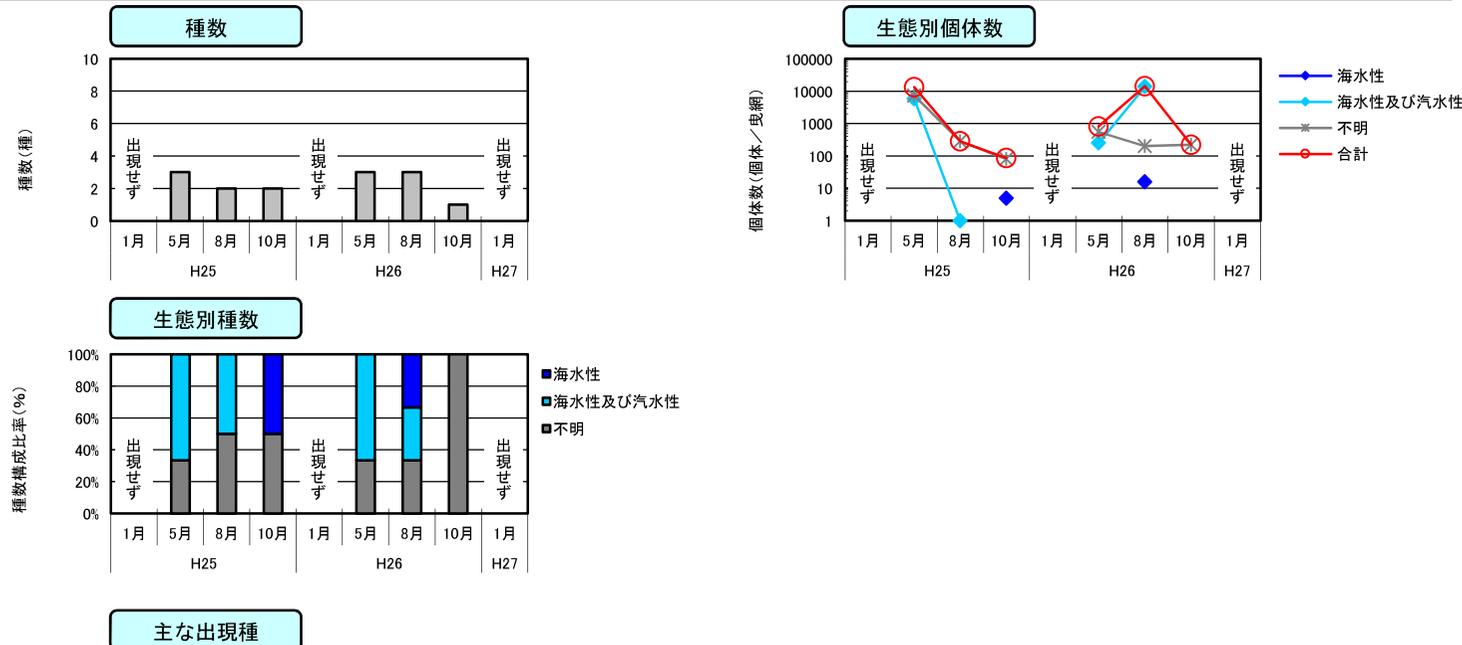
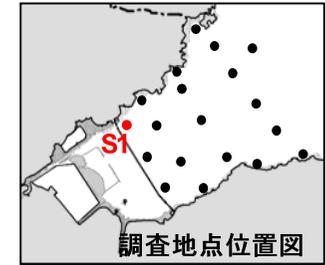
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

③諫早湾(S1)

- 種数は0～3種で、生態別には主に海水性及び汽水性、海水性で構成されていた。
- 個体数は0～14,468個体/曳網で、生態別には主に海水性及び汽水性、海水性で構成されていた。
- 主な種はサツパ、ウシノシタ科、コノシロなどであった。



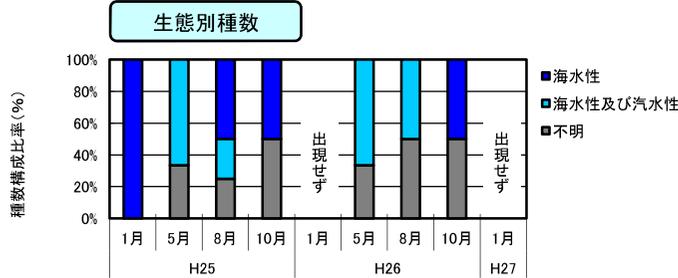
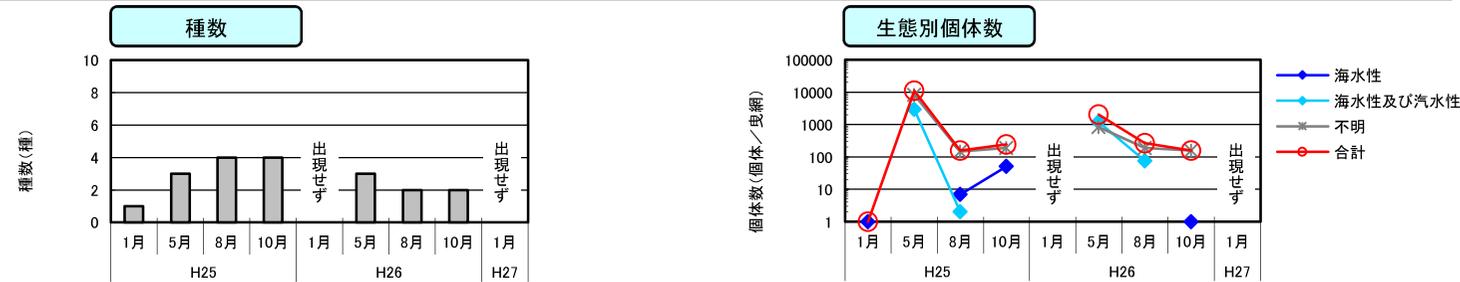
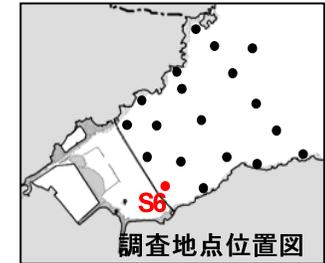
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

④諫早湾(S6)

- 種数は0～4種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0～11,220個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はコノシロ、ウシノシタ科、サツパ、カタクチイワシ、カレイ科などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ	0.1	1.3			19.0	28.9		
		海・汽	コノシロ	26.1				40.2			
	スズキ目	海	カタクチイワシ		2.6	0.4				0.6	
		海	ネズボ科			20.7					
	カレイ目	海	カレイ科	100.0							
		不	ウシノシタ科			77.6					99.4
	フグ目	海	ギマ		1.9						



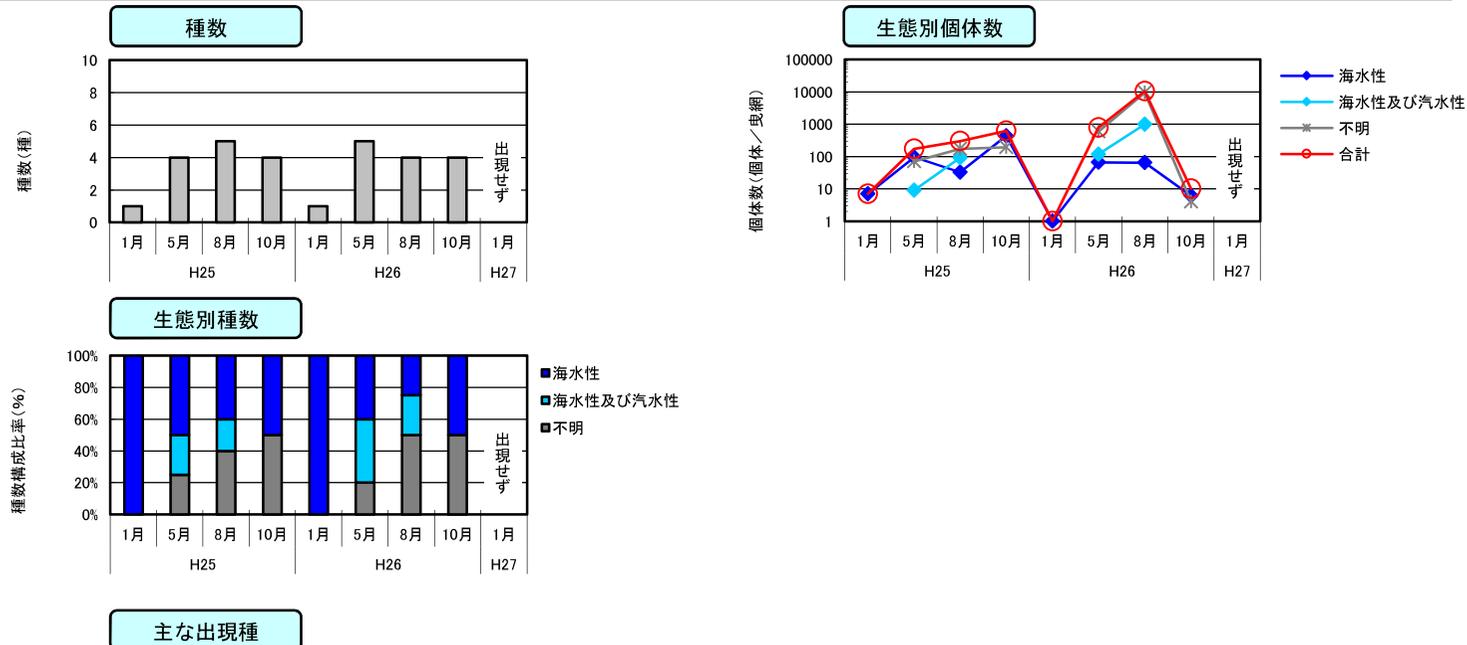
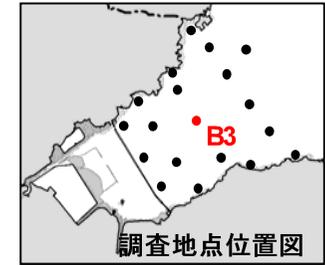
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

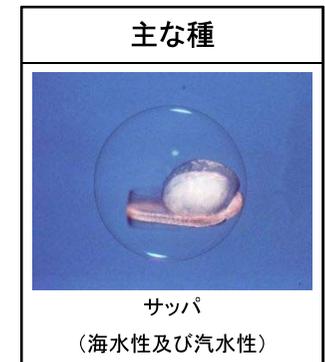
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

⑤諫早湾(B3)

- 種数は0～5種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0～10,439個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はサツパ、カタクチイワシ、カレイ科、コノシロ、ネズッコ科などであった。



項目	調査年月		平成25年				平成26年			平成27年	
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ			30.8		5.5	9.3		出現せず
		海・汽	コノシロ			5.2		9.4			
	スズキ目	海	カタクチイワシ		23.1	3.7	42.9		0.6	40.0	
		海	ネズッコ科			31.2		25.9		20.0	
	カレイ目	海	カレイ科	100.0				100.0			
		海	シマウシノシタ					0.1			
		不	ウシノシタ科			0.7	26.7		0.1	30.0	
	フグ目	海	ギマ			7.1					



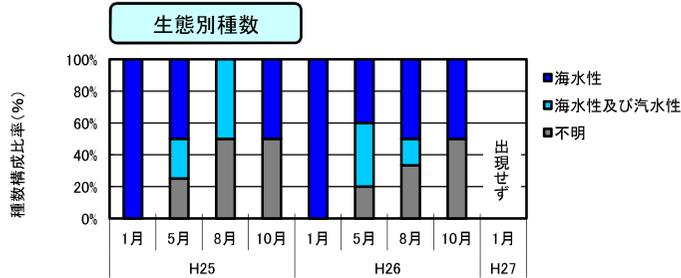
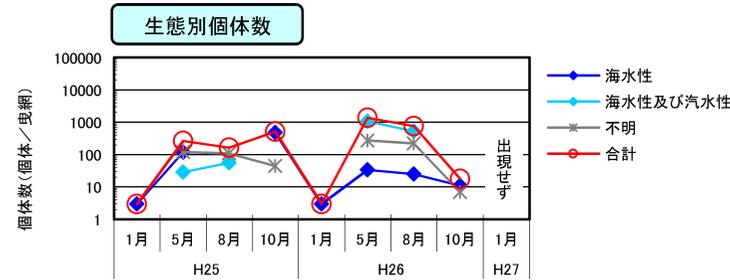
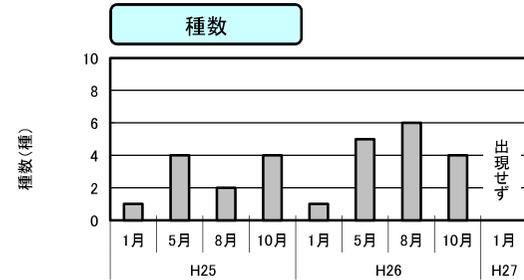
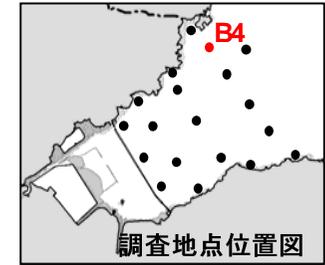
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

⑥諫早湾(B4)

- 種数は0～6種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0～1,377個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はサツパ、カタクチイワシ、カレイ科、コノシロ、ネズツポ科などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年			平成27年	
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海	ヒラ							0.1	
		海・汽	サツパ			34.1		1.5	68.2		
		海・汽	コノシロ		10.9			76.2			
	スズギ目 カレイ目	海	カタクチイワシ		15.4		70.9	0.1	2.3	33.3	
		海	ネズツポ科		29.2		20.6	2.4	0.8	27.8	
		海	カレイ科	100.0				100.0			
		不	ウシノシタ科				2.9		1.8	11.1	

主な種



サツパ
(海水性及び汽水性)

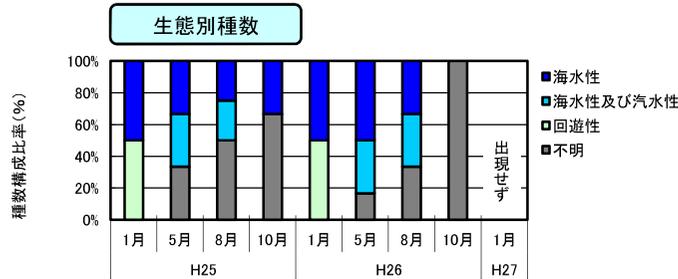
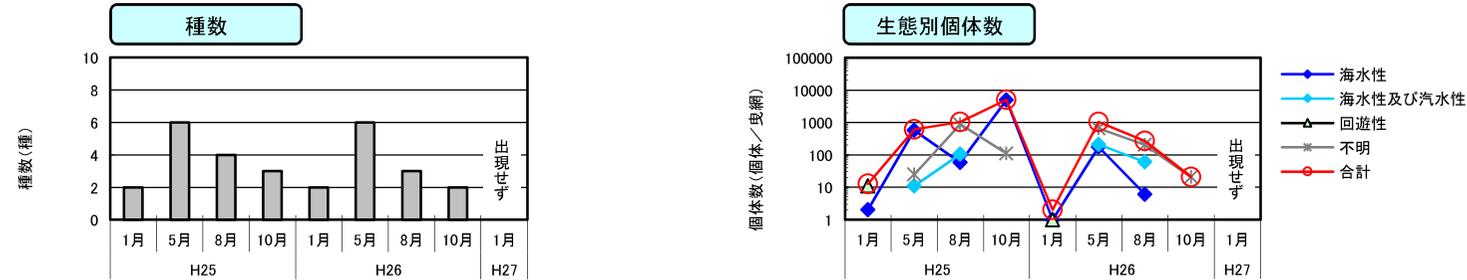
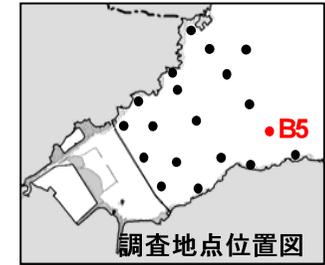
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

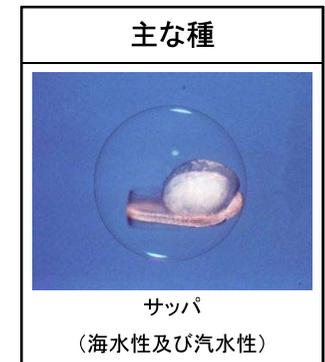
⑦諫早湾(B5)

- 種数は0～6種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 個体数は0～5,056個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 主な種はサツパ、カタクチイワシ、スズキ、コノシロ、カレイ科、ウシノシタ科などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年	
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ		0.2	10.2			1.8	22.4		出現せず
		海・汽	コノシロ		1.6				18.1			
	ボラ目	海	カタクチイワシ		73.0	5.5	97.8		0.5	2.2		
		不	ボラ科		0.2							
	スズキ目	回	スズキ	84.6					50.0			
		海	ネズッコ科		21.2				16.1			
	カレイ目	海	カレイ科	15.4					50.0			
		海	シマウシノシタ						0.3			
		不	ウシノシタ科			0.3	0.3				71.4	

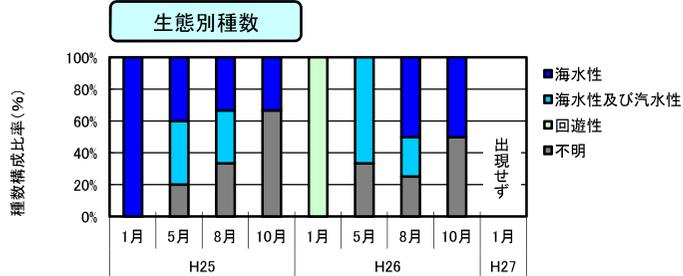
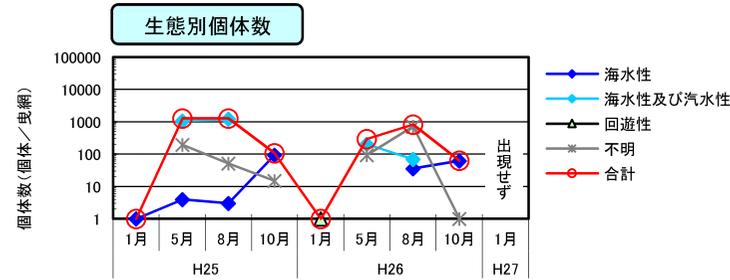
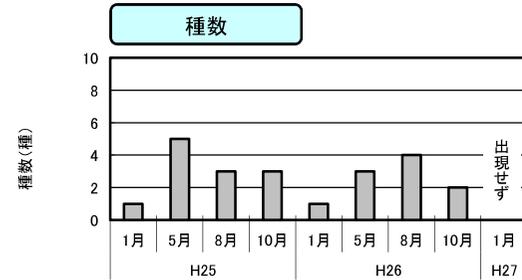


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

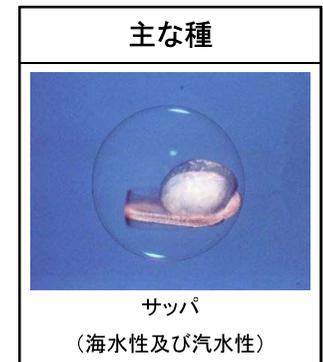
⑧有明海(Stn4)

- 種数は0～5種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 個体数は0～1,263個体/曳網で、生態別には主に海水性及び汽水性、海水性、回遊性で構成されていた。
- 主な種はサツパ、コノシロ、カタクチイワシ、スズキ、カレイ科などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年	
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	
主な出現種 (%)	ニシン目	海	ヒラ			0.2						
		海・汽	サツパ		0.3	95.6		0.3	8.4			
		海・汽	コノシロ		84.1			68.1				
		海	カタクチイワシ		0.2		86.1		4.1	98.4		
	スズキ目	回	スズキ				100.0					
	カレイ目	海	カレイ科	100.0								
		海	シマウシノシタ		0.1							
		不	ウシノシタ科			13.0						
	フグ目	海	ギマ						0.2			

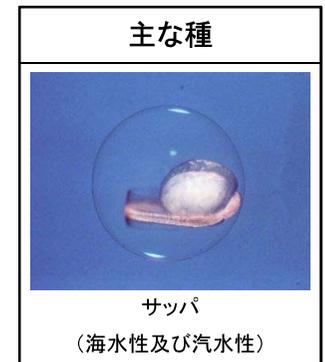
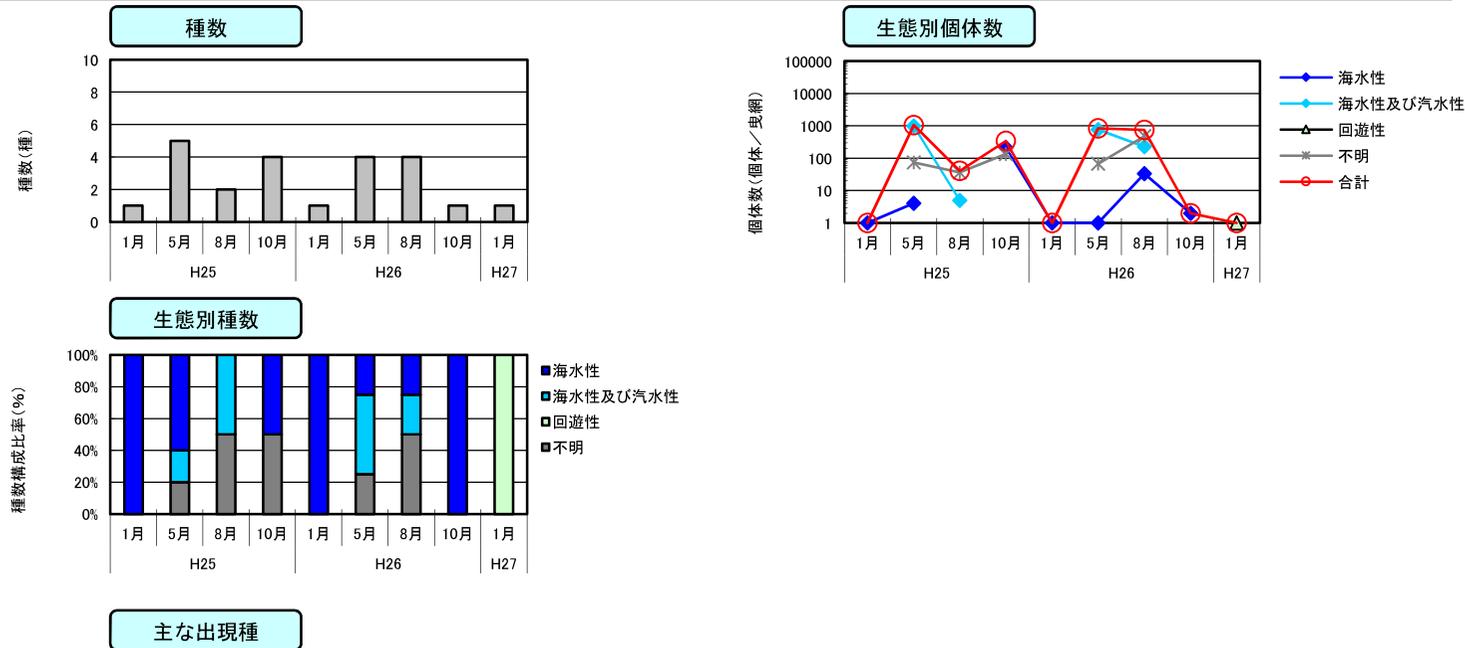


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

⑨有明海(Stn5)

- 種数は1～5種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 個体数は1～1,066個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 主な種はサツパ、コノシロ、カタクチイワシ、カレイ科、スズキなどであった。



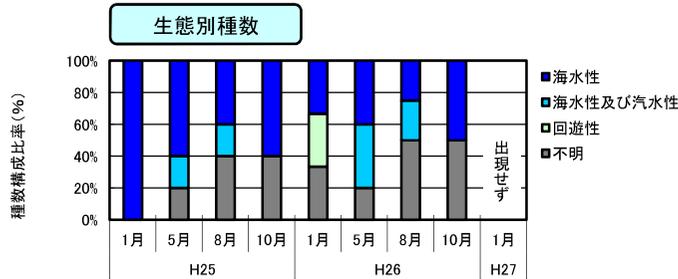
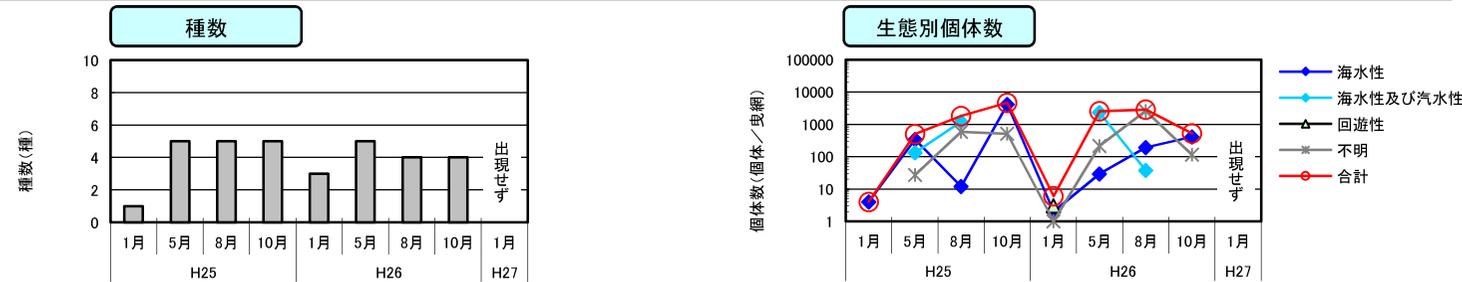
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

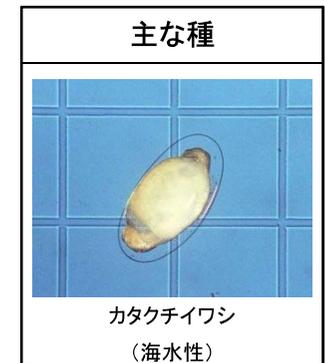
⑩有明海(Stn20)

- 種数は0～5種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 個体数は0～4,613個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 主な種はカタクチイワシ、サツパ、コノシロ、スズキ、カレイ科などであった。



主な出現種 (Main species appearing)

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年	
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ		66.7		0.9	1.3			
		海・汽	コノシロ		26.8		89.5				
		海	カタクチイワシ		51.6	0.4	88.4		6.7	74.6	
	カサゴ目	海	オニオコゼ科		<0.1						
		回	スズキ				50.0				
	スズキ目	海	ネズボ科		15.9	0.5		0.4		3.4	
		海	カレイ科		100.0		33.3				
	カレイ目	海	シマウシノシタ		0.2			0.7			
		不	ウシノシタ科			0.2	0.6		0.5	5.7	
	フグ目	海	ギマ		0.2						



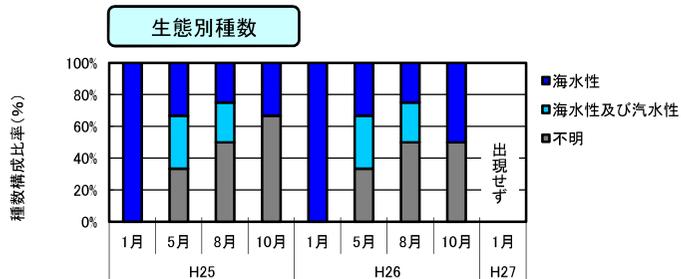
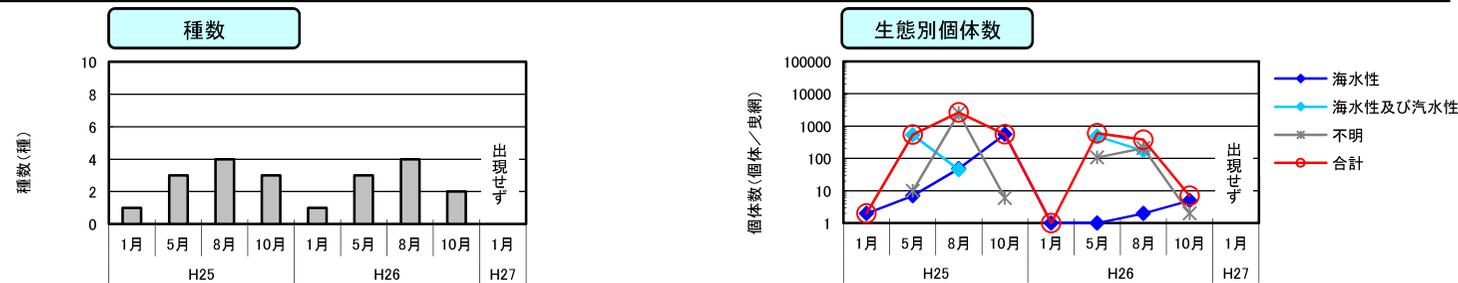
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。なお、<0.1は0.1%未満であることを示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

①有明海(Stn22)

- 種数は0~4種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0~2,667個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はコノシロ、カタクチイワシ、カレイ科、サツパ、ギマなどであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年	
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	5月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ		1.7			45.5			
		海・汽	コノシロ		96.9			81.6			
		海	カタクチイワシ			98.9		0.5	71.4		
	スズギ目	海	ネズボ科				0.2				
		海	カレイ科		100.0		100.0				
	カレイ目	海	シマウシノシタ		1.3						
		不	ウシノシタ科			1.3	0.4		0.3		
		海	ギマ			1.8					

主な種



コノシロ
(海水性及び汽水性)

注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

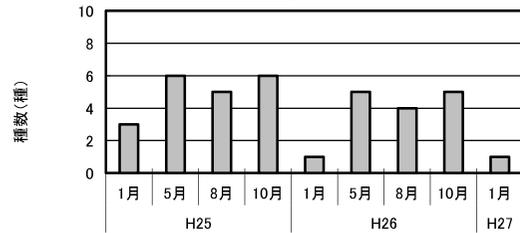
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

⑫有明海(S29)

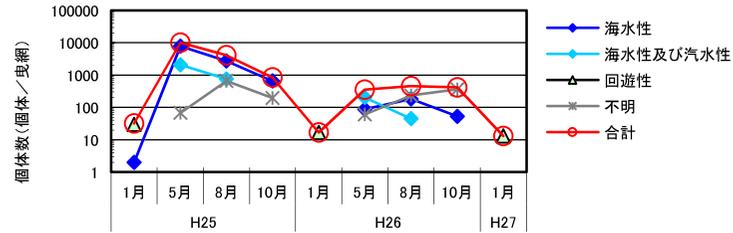
- 種数は1～6種で、生態別には主に海水性、回遊性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は13～10,051個体/曳網で、生態別には主に海水性、回遊性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はカタクチイワシ、スズキ、コノシロ、ウシノシタ科などであった。



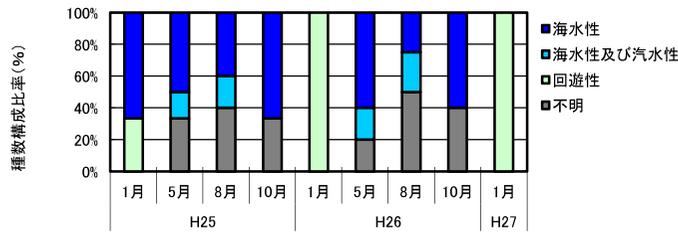
種数



生態別個体数

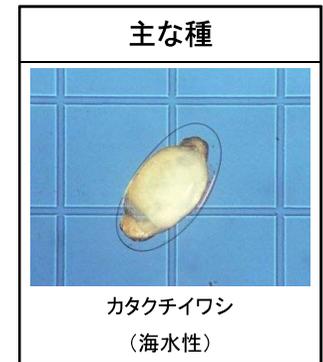


生態別種数



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サッパ		18.3			9.7			
		海・汽	コノシロ	20.6			58.0				
	ヒメ目	海	カタクチイワシ	77.6	65.5	75.6	6.3	39.4	4.6		
		不	エソ科			0.1					
	ボラ目	不	ボラ科	0.1							
	カサゴ目	海	オニオコゼ科			0.4			5.8		
	スズキ目	回	スズキ	93.8			100.0			100.0	
		海	ネズッポ科		1.1	0.9	18.2		2.4		
	カレイ目	海	メイタガレイ属	3.1							
		海	カレイ科	3.1							
		海	セトウシノシタ				0.3				
		海	コウライアカシタピラメ	<0.1							
フグ目	不	ウシノシタ科		0.8	9.6		0.2	14.8			
	海	ギマ		0.5							



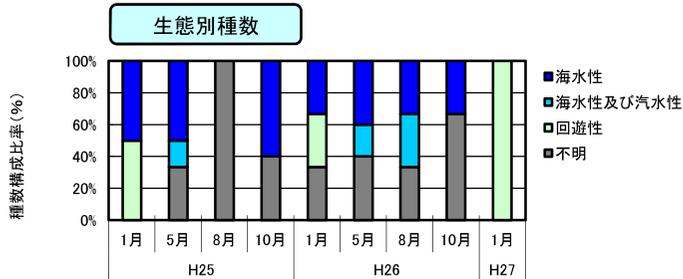
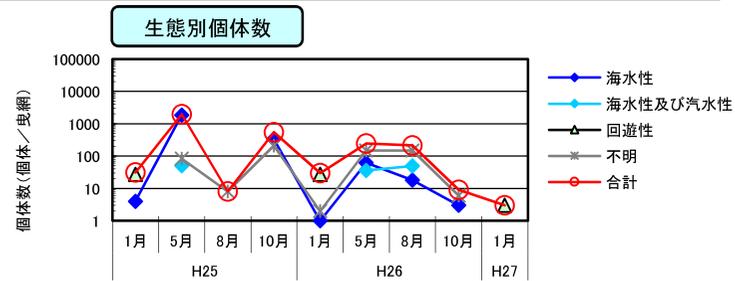
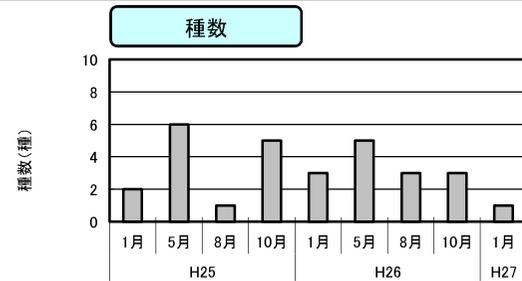
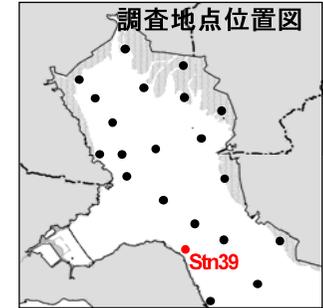
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。なお、<0.1は0.1%未満であることを示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

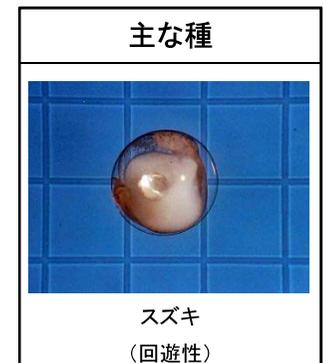
⑬有明海(Stn39)

- 種数は1～6種で、生態別には主に海水性、回遊性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は3～1,965個体/曳網で、生態別には主に海水性、回遊性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はスズキ、カタクチイワシ、サツパ、ネズッコ科、ウシノシタ科などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年			平成27年
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ					22.8		
		海・汽	コノシロ	2.5			14.7			
		海	カタクチイワシ	81.6		48.1	4.1	8.4		
	ボラ目	不	ボラ科	0.2			0.8			
	カサゴ目	海	オニオコゼ科			1.8				
	スズキ目	回	スズキ	87.1			90.0			100.0
		海	ネズッコ科		11.4		11.4	21.2	33.3	
		海	メイタガレイ属	12.9						
	カレイ目	海	カレイ科				3.3			
		海	コウライアサヒ科		0.2					
不		ウシノシタ科				8.1			44.4	

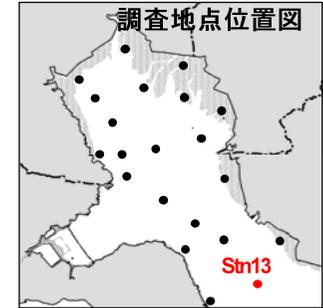


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

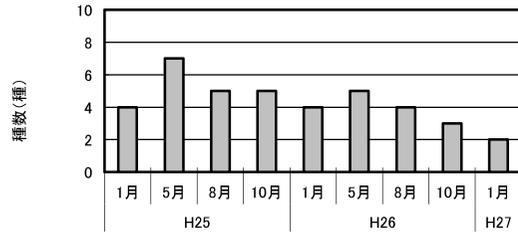
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

⑭有明海(Stn13)

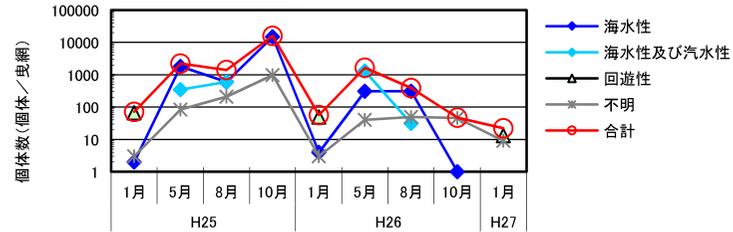
○種数は2~7種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
 ○個体数は22~15,961個体/曳網で、生態別には主に海水性、回遊性、海水性及び汽水性で構成されていた。
 ○主な種はカタクチイワシ、スズキ、サツパ、コノシロ、ウシノシタ科などであった。



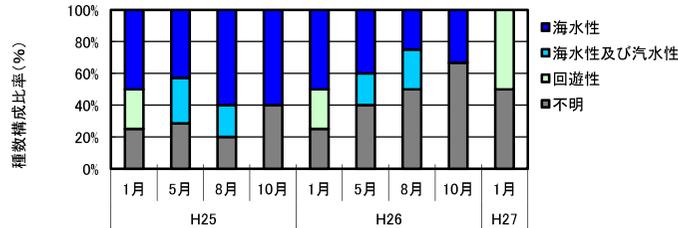
種数



生態別個体数

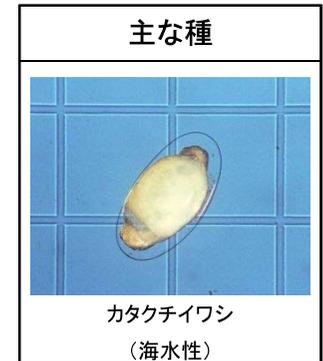


生態別種数



主な出現種

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年		
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月		
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ		○							
		海・汽	コノシロ				15.5			78.8		
		海	カタクチイワシ				80.3	41.9	93.8	18.2	79.6	
	ボラ目	不	ボラ科							0.1		
	カサゴ目	海	オニオコゼ科								2.1	
	スズキ目	回	スズキ				93.1					59.1
		海	ネズッポ科							0.2		0.1
	カレイ目	海	ヒラメ									0.5
		海	メイタガレイ属									5.3
		海	カレイ科									1.8
		海	コウライアカシタヒラメ									0.3
		不	ウシノシタ科									0.6
	フグ目	海	ギマ									0.3

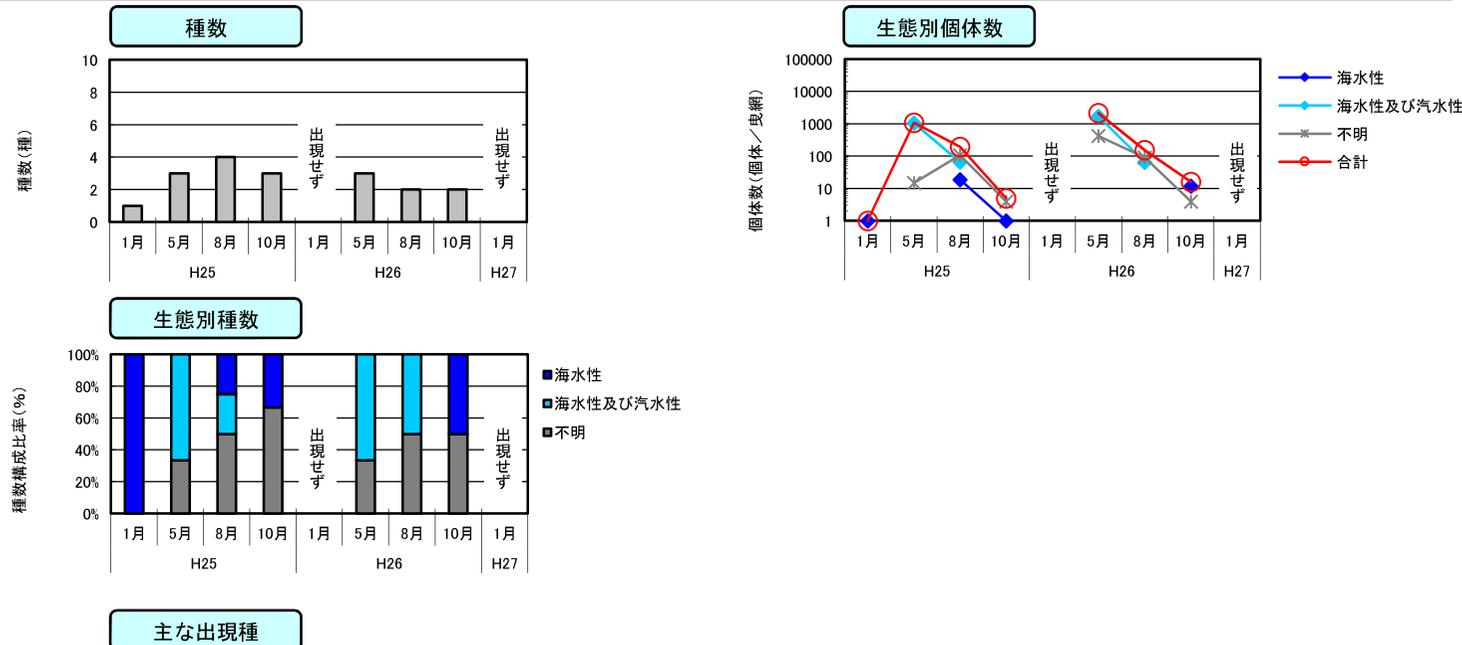


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。なお、<0.1は0.1%未満であることを、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

⑮有明海(有区24号)

- 種数は0~4種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0~2,159個体/曳網で、生態別には主に海水性及び汽水性、海水性で構成されていた。
- 主な種はサツパ、コノシロ、ネズヅポ科、カレイ科、ウシノシタ科などであった。

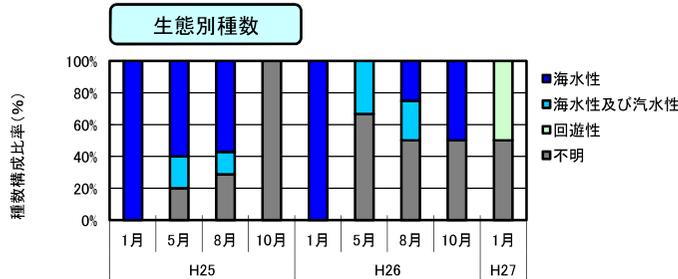
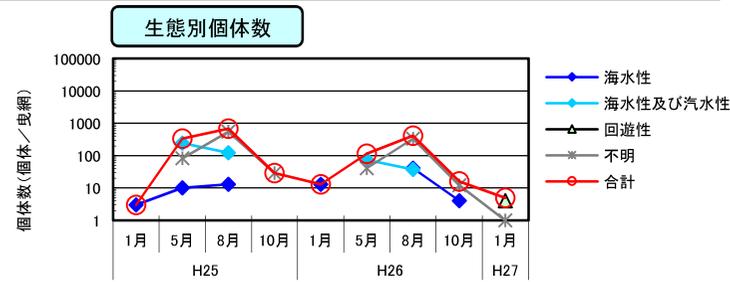
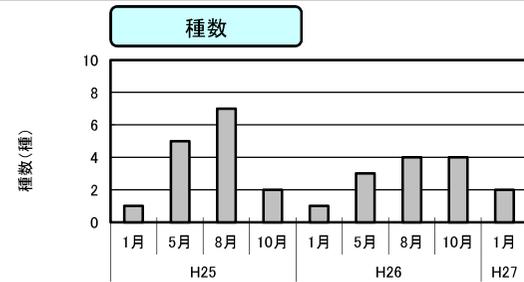
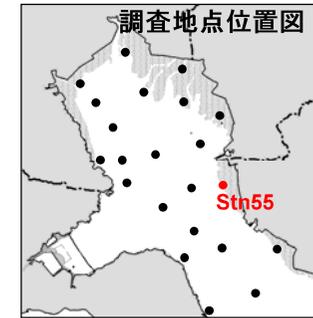


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

⑩有明海(Stn55)

- 種数は1～7種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 個体数は3～686個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 主な種はコノシロ、カレイ科、サツパ、カタクチイワシ、スズキ、ネズッコ科、ウシノシタ科などであった。



主な出現種

項目	平成25年				平成26年				平成27年
	1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海	ヒラ	0.1					
		海・汽	サツパ	17.9			8.9		
		海・汽	コノシロ	72.2			64.3		
		海	カタクチイワシ	1.8	0.7		9.8	6.3	
	ボラ目	不	ボラ科			1.7			
	カサゴ目	海	オニオコゼ科	0.1					
	スズギ目	回	スズキ						80.0
		海	ネズッコ科	0.9				18.8	
	カレイ目	海	カレイ科	100.0		100.0			
		海	シマウシノシタ	0.3					
不		ウシノシタ科		1.7	3.4		3.1	12.5	
フグ目	海	ギマ	0.9						



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

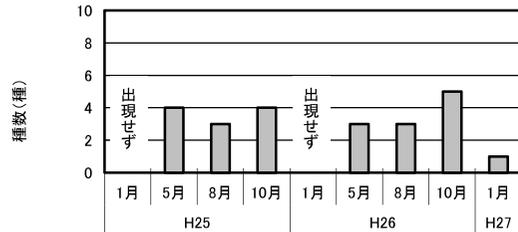
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

①有明海(Stn57)

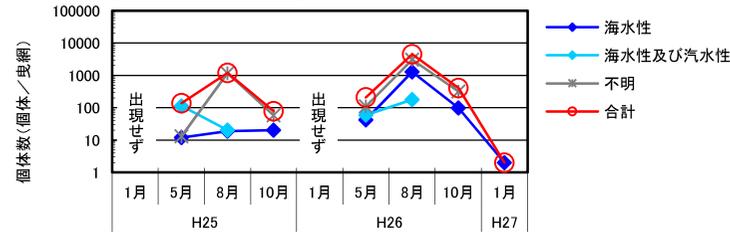
- 種数は0~5種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0~4,472個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はコノシロ、カタクチイワシ、サツパ、カレイ科、ウシノシタ科などであった。



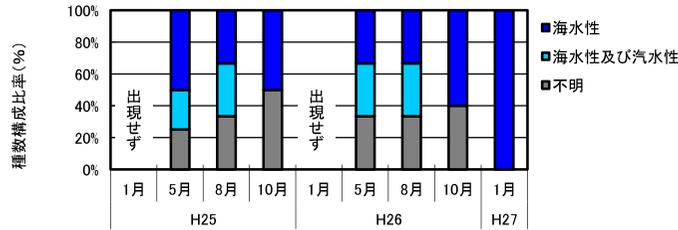
種数



生態別個体数



生態別種数



主な出現種

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年	
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ		1.7			3.9			
		海・汽	コノシロ		81.9			28.0			
	カサゴ目	海	カタクチイワシ		4.3	2.6		28.3	22.5		
		海	オニオコゼ科						0.2		
	スズキ目	海	ネズボ科		4.3	23.1		19.9	1.0		
	カレイ目	海	カレイ科								100.0
		不	ウシノシタ科				56.4			11.7	
	フグ目	海	ギマ			1.6					



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「〇〇性及び〇〇性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海: 海水性、汽: 汽水性、淡: 淡水性、海・汽: 海水性・汽水性、淡・汽: 淡水性・汽水性、回: 回遊性、不: 不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

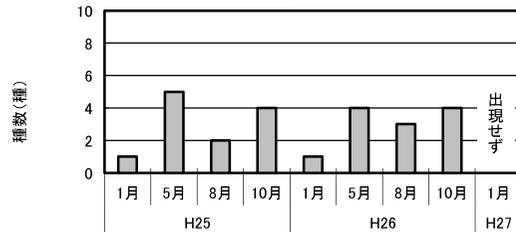
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(魚卵)

⑩有明海(Stn58)

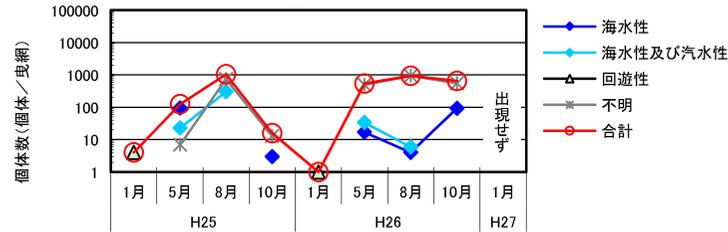
- 種数は0～5種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 個体数は0～1,054個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、回遊性で構成されていた。
- 主な種はサツパ、スズキ、コノシロ、カタクチイワシ、ネズツポ科、ウシノシタ科などであった。



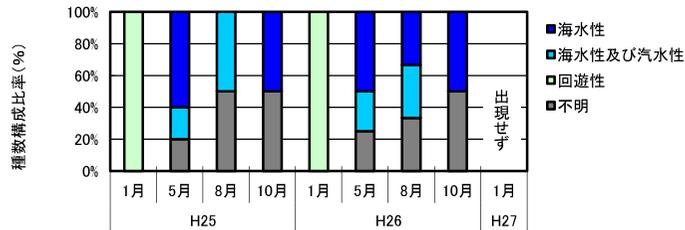
種数



生態別個体数



生態別種数



主な出現種

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ		29.0			0.6		
		海・汽	コノシロ		18.3		6.2			
	スズキ目	海	カタクチイワシ		72.2	12.5	0.4	0.4	5.7	
		回	スズキ	100.0			100.0			
	カレイ目	海	ネズツポ科		2.4	6.3	2.7		8.6	
		海	コウライアカシタピラメ		1.6					
		不	ウシノシタ科			50.0			1.7	

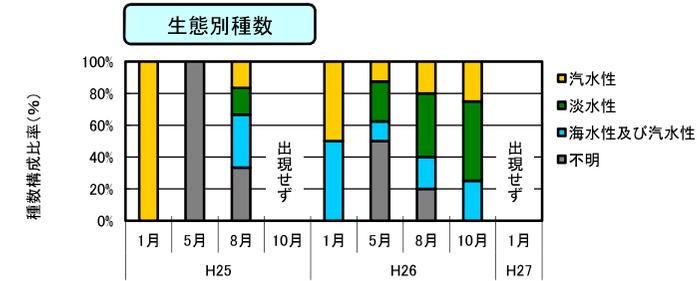
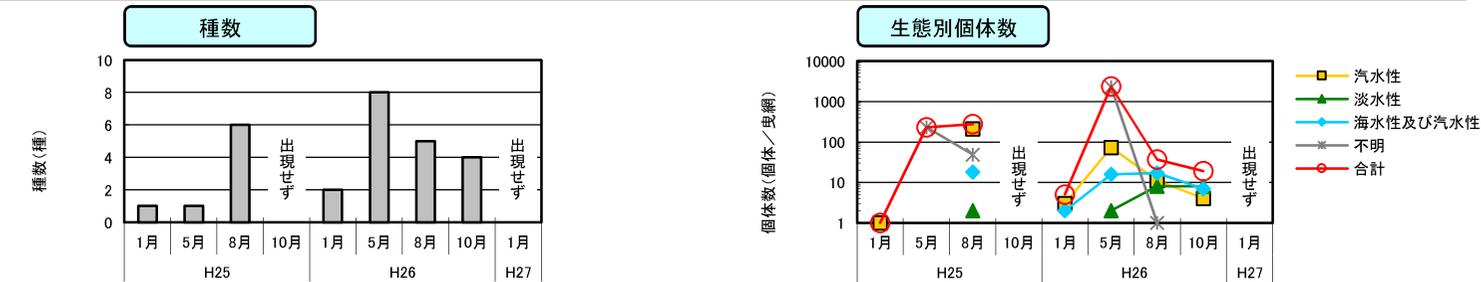
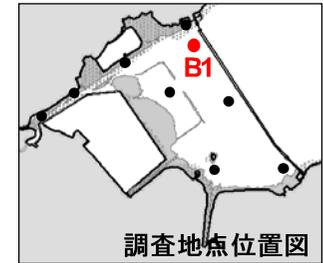


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の不明種を除いた上位5種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 同定不能種は、複数種を含む場合がある。
 注5) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注6) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑱調整池(B1)

- 種数は0～8種で、生態別には主に淡水性、汽水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0～2,373個体/曳網で、生態別には主に汽水性、淡水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はエツ、クルマサヨリ、ハゼ科、モツゴなどであった。



主な出現種 (Main species appearing)

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年		
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月		
主な出現種 (%)	ニシン目	汽	エツ	100.0		75.2			60.0	3.1	29.7	21.1	
		コイ目	淡	ギンブナ							○		5.3
		淡	オイカワ									16.2	
		淡	モツゴ									5.4	36.8
	ダツ目	海・汽	クルマサヨリ			2.2			40.0		45.9	36.8	
	スズキ目	海・汽	ワラスボ			4.3							
		不	ヨシノボリ属								1.5		
		海・汽	シモフリシマハゼ								0.7		
		不	チチブ属				1.4				1.0		
		不	ハゼ科			100.0		16.2			93.7	2.7	



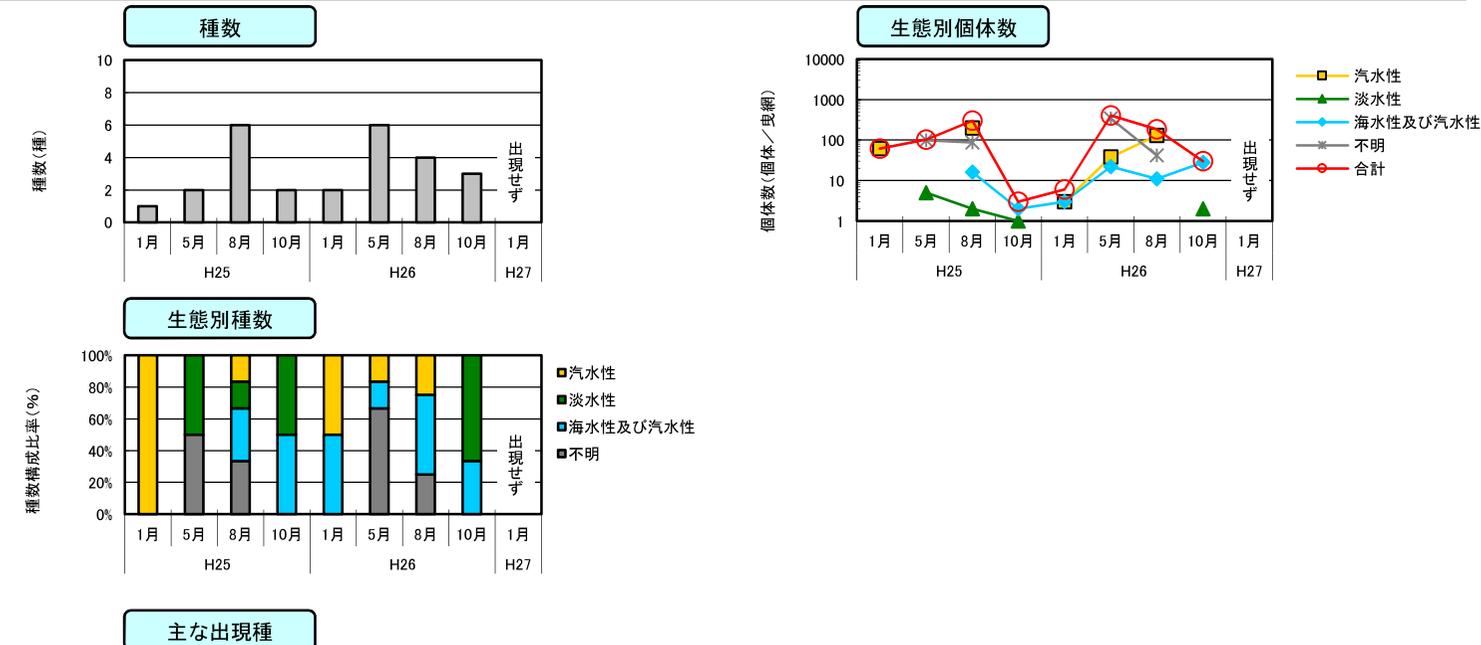
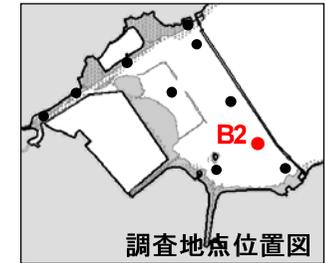
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%)、○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑳調整池(B2)

- 種数は0～6種で、生態別には主に海水性及び汽水性、汽水性、淡水性で構成されていた。
- 個体数は0～406個体/曳網で、生態別には主に汽水性、海水性及び汽水性、淡水性で構成されていた。
- 主な種はエツ、クルマサヨリ、ハゼ科、ワラスボなどであった。



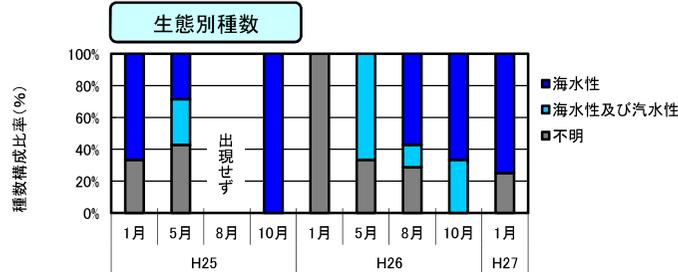
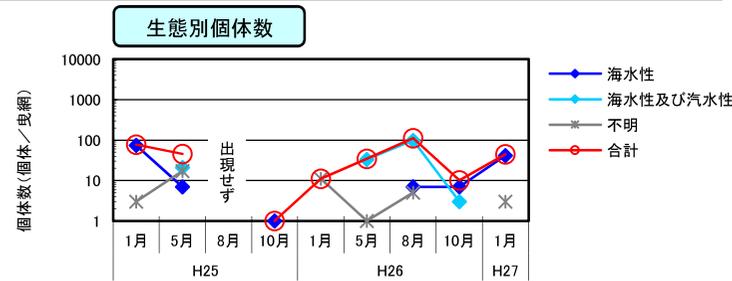
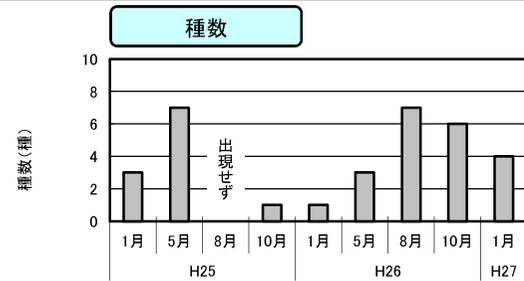
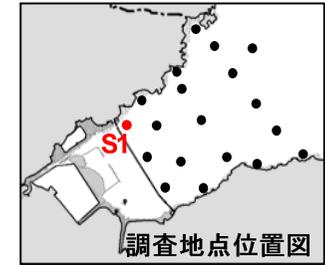
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海: 海水性、汽: 汽水性、淡: 淡水性、海・汽: 海水性・汽水性、淡・汽: 淡水性・汽水性、回: 回遊性、不: 不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

②1 諫早湾(S1)

- 種数は0～7種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0～110個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はコノシロ、サツパ、カタクチイワシ、シロギス、イカナゴ、ニシキギンポ属、ハゼ科などであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年	
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ						89.1	20.0		
		海・汽	コノシロ		42.2			94.1				
	海	カタクチイワシ		13.3				○	40.0			
	トゲウオ目	海・汽	ヨウジウオ					2.9				
	ボラ目	海・汽	メナダ属		4.4							
	トウゴロウイワシ目	海	トウゴロウイワシ					1.8	10.0			
	カサゴ目	海	アイナメ属							2.3		
	スズキ目	海	ヒゲソリダイ							10.0		
		海・汽	キチス							10.0		
		海	シロギス				100.0					
		海	イカナゴ				1.3				86.4	
		海	ニシキギンポ属				94.8					
		海	ナベカ						2.7	10.0		
		不	ウキゴリ属						20.0			
	カレイ目	不	ハゼ科				3.9	15.6		100.0	2.9	2.7
海		ムシガレイ										4.5
不		ウシノシタ科							1.8			



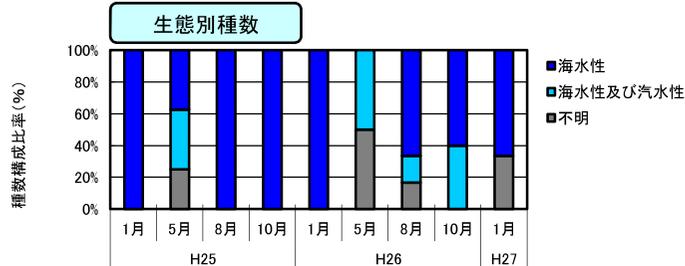
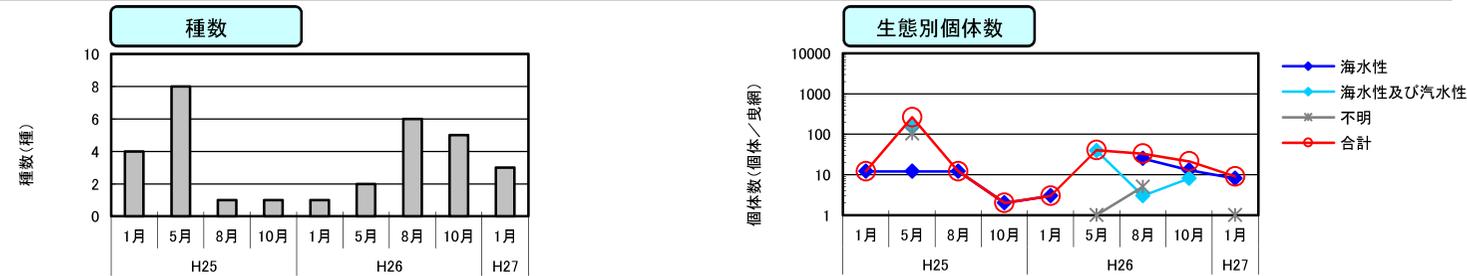
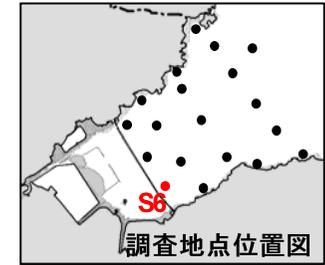
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑫諫早湾(S6)

- 種数は1～8種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は2～259個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はコノシロ、カタクチイワシ、ニシキギンポ属、トウゴロウイワシ、イカナゴ、ナベカ属などであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サッパ					9.1	9.5	
		海・汽	コノシロ	54.8			97.5			
		海	カタクチイワシ	3.1	100.0			○	33.3	
	トゲウオ目	海・汽	ヨウジウオ	0.4						
	ボラ目	海・汽	メナダ属	0.4						
	トウゴロウイワシ目	海	トウゴロウイワシ		100.0			12.1	19.0	
	ダツ目	海	サヨリ	1.2						
	カサゴ目	海	メバル属	25.0						
		海	アイナメ属	8.3						11.1
	スズキ目	海・汽	キチヌ							28.6
		海	シロギス						9.5	
		海	イカナゴ	25.0						77.8
		海	ニシキギンポ属	41.7		100.0				
		海	イソギンポ	0.4						
		海	ナベカ					6.1		
		海	ナベカ属					54.5		
		不	ミミズハゼ属					2.5		
	不	ウキゴリ属	0.4							
不	ハゼ科	39.4					15.2		11.1	



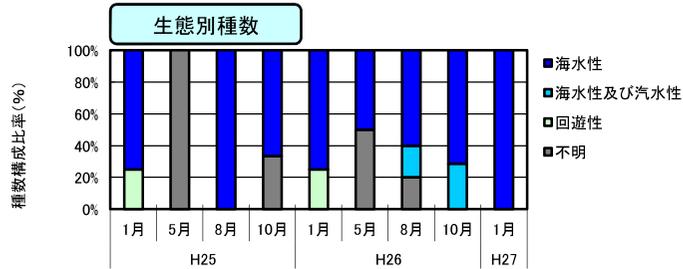
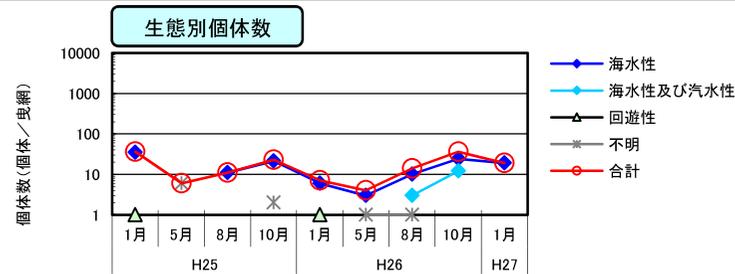
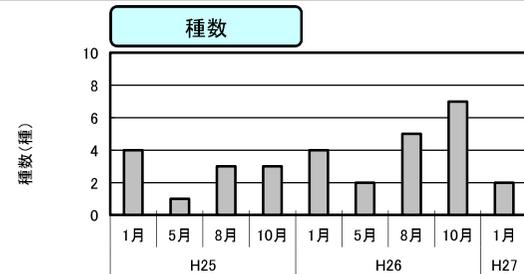
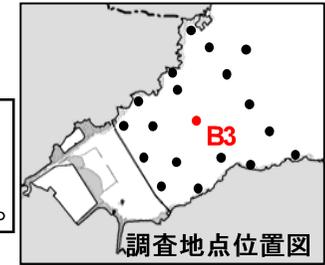
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑳諫早湾(B3)

- 種数は1～7種で、生態別には主に海水性で構成されていた。
- 個体数は4～36個体/曳網で、生態別には主に海水性で構成されていた。
- 主な種はカタクチイワシ、イカナゴ、トウゴロウイワシ、アイナメ属、キチヌ、イソギンポ、ナベカ、ハゼ科などであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツバ					21.4		
		海	カタクチイワシ		82.6			14.3	30.6	
	サケ目	回	アユ			14.3				
	トゲウオ目	海・汽	ヨウジウオ						2.8	
	トウゴロウイワシ目	海	トウゴロウイワシ		81.8			14.3		
	カサゴ目	海	アイナメ属	22.2		42.9			21.1	
	スズキ目	回	スズキ	2.8						
		海・汽	キチヌ						30.6	
			不	ヘダイ亜科				25.0		
		海	シロギス			8.7			27.8	
		海	イカナゴ	69.4			14.3			78.9
		海	ニシキギンポ属				28.6			
		海	イソギンポ					75.0	2.8	
		海	ナベカ			9.1			42.9	2.8
		海	ナベカ属			9.1				
		不	ハゼ科		100.0		8.7		7.1	
	カレイ目	海	ムシガレイ	5.6						
海		アカシタビラメ						2.8		



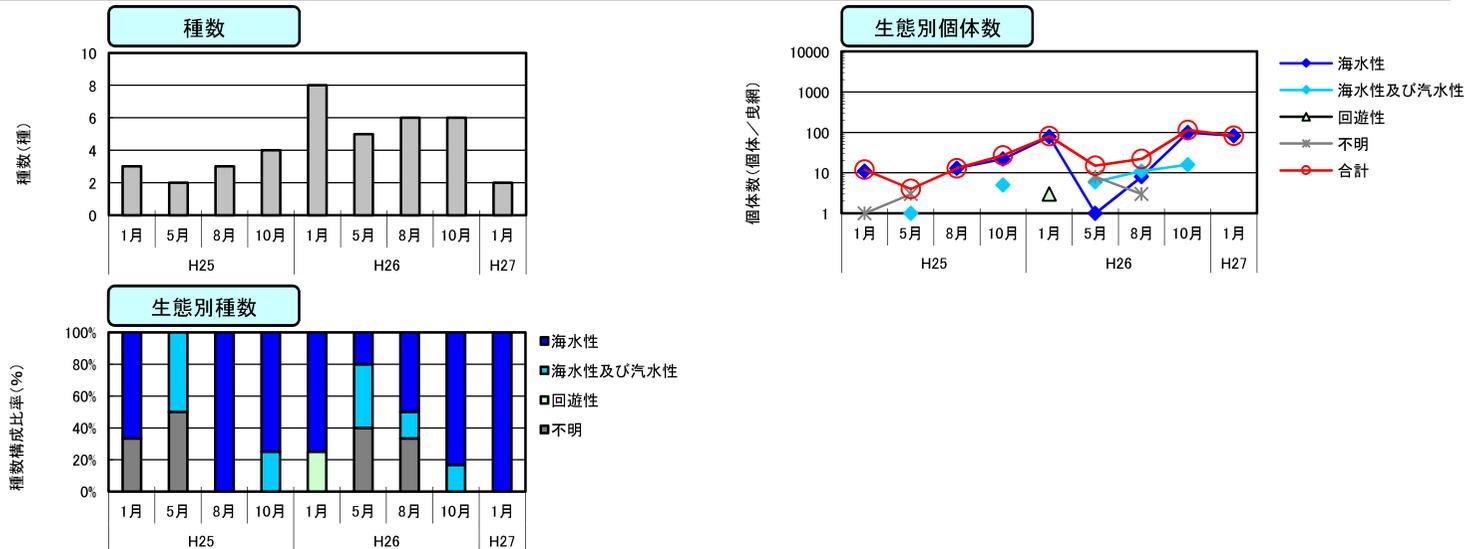
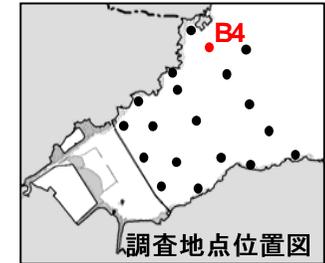
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑭諫早湾(B4)

- 種数は2～8種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は4～115個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はイカナゴ、ハゼ科、サツパ、カタクチイワシ、シロギス、ナベカ属などであった。



項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツパ							
		海・汽	コノシロ	25.0			33.3	50.0		
		海	カタクチイワシ			33.3			74.8	
	トゲウオ目	海・汽	ヨウジウオ				6.7			
		トウゴロウイワシ目	海	トウゴロウイワシ		38.5			13.6	
	ダツ目	海	サヨリ				6.7			
		カサゴ目	海	メバル属				9.9		
	海		アイナメ属	33.3			8.6			26.8
	スズキ目	回	スズキ				2.5			
		海・汽	キチヌ			18.5			13.9	
		不	ヘダイ亜科					13.3		
		海	シロギス			40.7			13.6	6.1
		海	イカナゴ	58.3			72.8			73.2
		海	イソギンボ			7.4				○
		海	ナベカ			15.4			9.1	
		海	ナベカ属			46.2				
		海	ネズボ科							2.6
		不	ハゼ科	8.3	75.0			40.0	9.1	
	カレイ目	海	ムシガレイ				2.5			
		海	アカシタビラメ							1.7

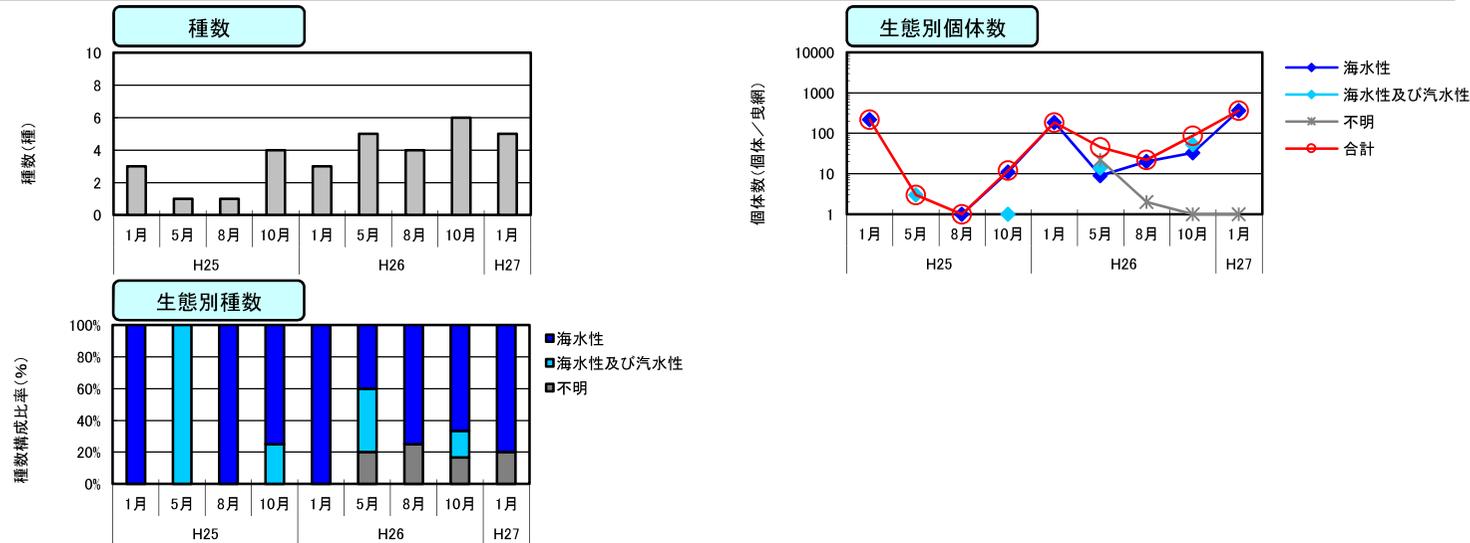
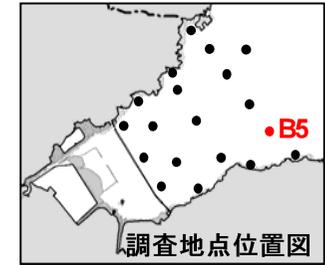


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑫諫早湾(B5)

- 種数は1～6種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は1～366個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はイカナゴ、コノシロ、カタクチイワシ、トウゴロウイワシ、キチヌ、ナベカ、ミミズハゼ属などであった。



主な出現種

項目	調査年月									
	平成25年				平成26年				平成27年	
	1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	
主な出現種 (%)	コシノ目	海・汽	コノシロ				22.2			
		海	カタクチイワシ		75.0					27.6
	トゲウオ目	海	サンゴタウ	0.5						
	ボラ目	海・汽	メナダ属				8.9			
	トウゴロウイワシ目	海	トウゴロウイワシ					45.5		
	タツ目	海	サヨリ				11.1			
	カサゴ目	海	メバル(種不詳)							31.4
		海	メバル属			0.5				
		海	アイナメ属	8.3			1.6			
		海	ヒゲソリダイ							1.1
	スズキ目	海・汽	キチヌ			8.3				60.9
		海	シロギス			8.3				6.9
		海	メジナ属				8.9			
		海	イカナゴ	91.2			97.8			67.5
		海	ナベカ			100.0			27.3	
海		ナベカ属						15.2		
不		ミミズハゼ属					48.9			
カレイ目	不	ハゼ科						9.1	1.1	
	海	ムシガレイ							0.3	
フグ目	海	アカシタビラメ							2.3	
	海	アミメハギ			8.3					



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

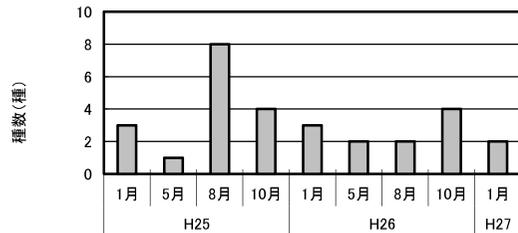
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

②6有明海(Stn4)

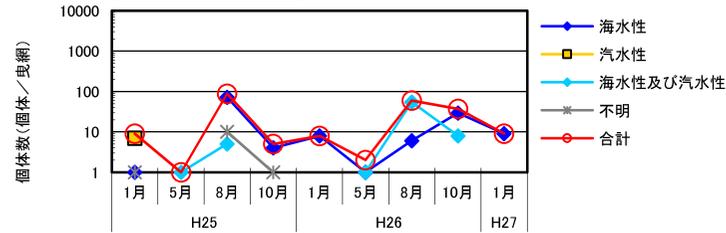
- 種数は1~8種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、汽水性で構成されていた。
- 個体数は1~87個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性、汽水性で構成されていた。
- 主な種はカタクチイワシ、イカナゴ、サツパ、コノシロ、アリアケシラウオ、メナダ属、トウゴロウイワシなどであった。



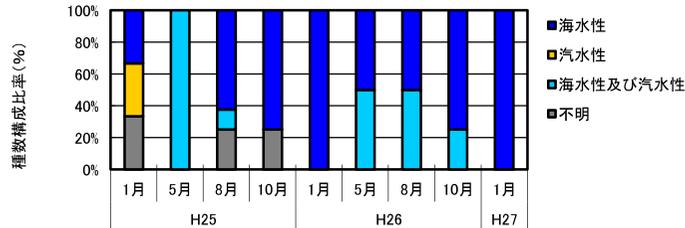
種数



生態別個体数



生態別種数



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽			5.7			90.0			
		海・汽		100.0							
	サケ目	海			40.0		50.0		70.3		
		汽	77.8								
	ボラ目	海・汽					50.0				
	トウゴロウイワシ目	海			64.4						
	カサゴ目	海								11.1	
		海					12.5				
	スズキ目	海・汽									21.6
		海			3.4						
		海			○	20.0				5.4	
		海					50.0				88.9
		海		11.1			37.5				
		海			11.5			10.0			
海					20.0					2.7	
不		11.1		10.3	20.0						

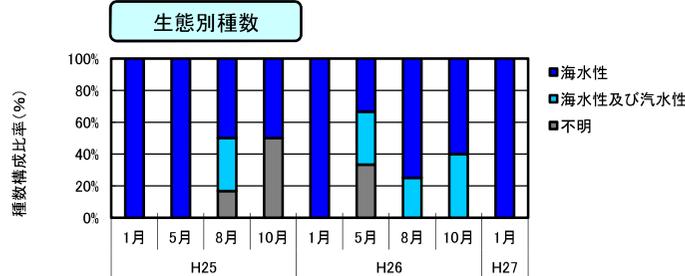
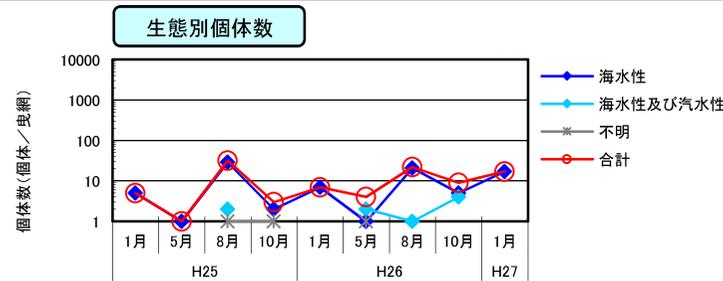
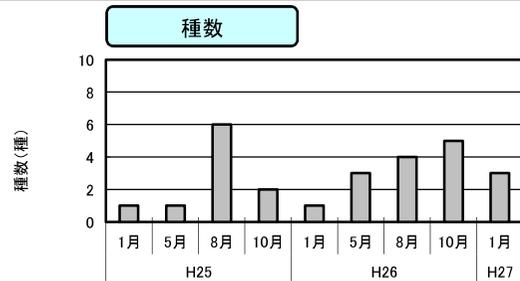


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑰有明海(Stn5)

- 種数は1~6種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は1~32個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はカタクチイワシ、イカナゴ、コノシロ、トウゴロウイワシ、アイナメ属、キチヌ、ナベカなどであった。



主な出現種 (Main species appearing)

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽			3.1			4.5		
		海・汽						50.0		
	海		100.0		66.7			25.0	11.1	
	トゲウオ目	海・汽							11.1	
	トウゴロウイワシ目	海			84.4			31.8		
	カサゴ目	海								5.9
		海								64.7
	スズキ目	海・汽								33.3
		海	100.0				100.0			29.4
		海			3.1				59.1	
		海			3.1				4.5	
		海								22.2
		海・汽			3.1					
		不			3.1			25.0		
カレイ目	海								22.2	
	不				33.3					



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

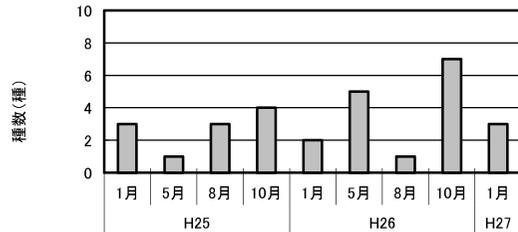
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑳有明海(Stn20)

- 種数は1～7種で、生態別には主に海水性で構成されていた。
- 個体数は1～100個体/曳網で、生態別には主に海水性で構成されていた。
- 主な種はトウゴロウイワシ、イカナゴ、ハゼ科、カタクチイワシ、アイナメ属、キチヌなどであった。



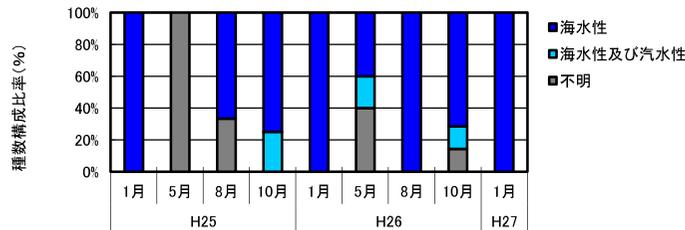
種数



生態別個体数



生態別種数



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年			平成27年
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽					16.7			
		海				88.9			32.4	
	トウゴロウイワシ目	海			63.6		100.0			
	カサゴ目	海								10.0
		海	1.0							
	スズキ目	海	46.0				70.0			30.0
		海・汽				5.6				45.9
		不						16.7		
		海				2.8				5.4
		海	53.0				30.0			60.0
		海				2.8		16.7		○
		海			18.2					
		海						16.7		6.8
	不								○	
ハゼ科		100.0	18.2			33.3				
カレイ目	海								4.1	

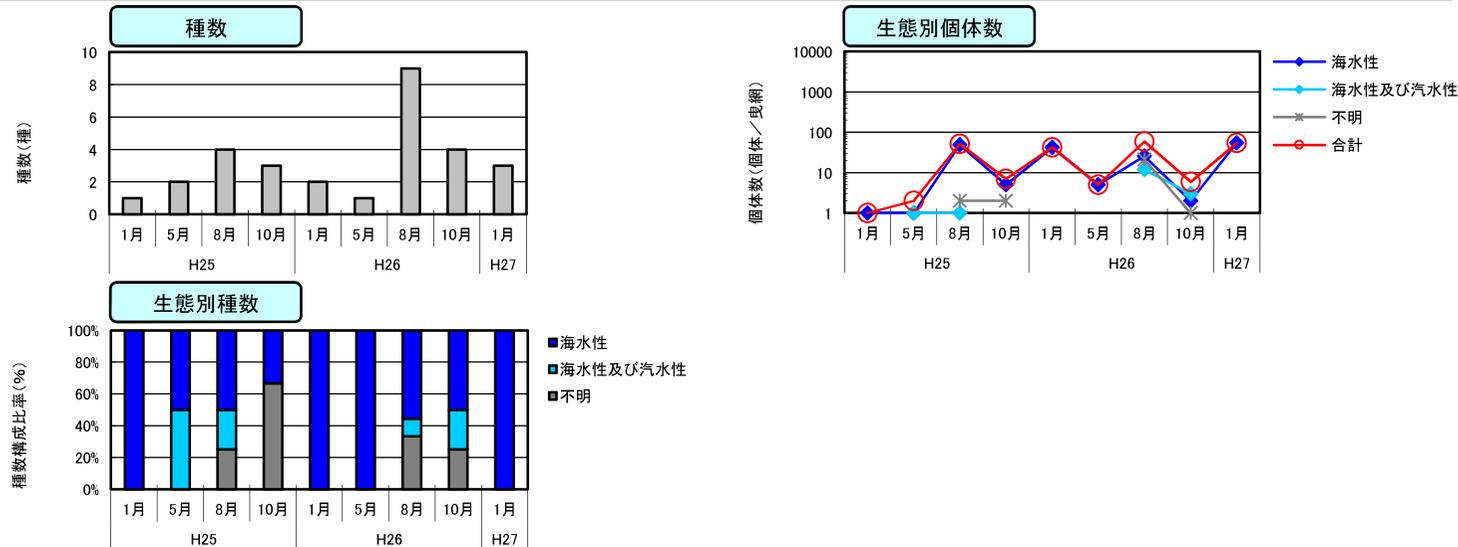


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海: 海水性、汽: 汽水性、淡: 淡水性、海・汽: 海水性・汽水性、淡・汽: 淡水性・汽水性、回: 回遊性、不: 不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

⑳有明海(Stn22)

- 種数は1～9種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は1～59個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はイカナゴ、カタクチイワシ、サヨリ、コノシロ、ヨウジウオ、トウゴロウイワシなどであった。



項目		調査年月		平成25年				平成26年				平成27年
				1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サッパ							20.3		
		海・汽	コノシロ		50.0							
	トゲウオ目	海	カタクチイワシ			71.4				27.1		
		海・汽	ヨウジウオ								50.0	
	トウゴロウイワシ目	海	トウゴロウイワシ			92.3			○			
	ダツ目	海	サヨリ		50.0					100.0		
		海	ムラソイ									1.8
	カサゴ目	海	メバル属							2.4		
		海	アイナメ属									3.6
	スズキ目	不	ヒイラギ属								15.3	
		海	シロギス								8.5	
		海	イカナゴ	100.0						97.6		94.5
		海	イソギンボ									16.7
		海	ナベカ			1.9						
		海・汽	ワラスボ			1.9						
	カレイ目	不	ハゼ科			3.8	14.3			18.6	16.7	
海		アカシタビラメ								16.7		
不		ウシノシタ科				14.3			○			

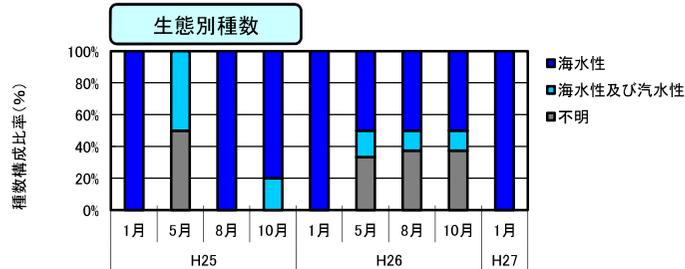
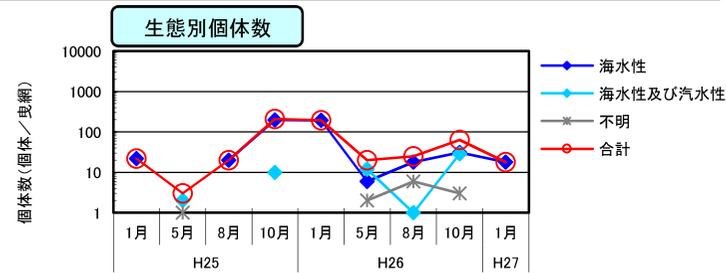
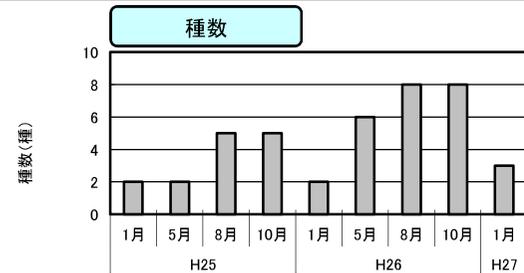


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

③0有明海(S29)

- 種数は2～8種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は3～208個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はイカナゴ、コノシロ、カタクチイワシ、キチヌ、シロギスなどであった。



主な出現種

項目	調査年月	平成25年				平成26年				平成27年
		1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	コノシロ	66.7				60.0		
		海	カタクチイワシ		50.0	93.3		5.0		44.4
	トウゴロウイワシ目	海	トウゴロウイワシ		5.0				16.0	
		海	サヨリ				5.0			
	カサゴ目	海	メバル(種不詳)							5.6
		海	アイナメ属	45.5			1.0			16.7
	スズキ目	海	テンジクダイ		5.0					
		海	マアジ							1.6
		不	ヒイラギ属					8.0		
		海・汽	キチヌ			4.8				46.0
		不	ヘダイ亜科					5.0		
		海	シロギス			35.0	0.5			36.0
		海	イカナゴ	54.5				99.0		77.8
	カレイ目	海	イソギンポ		5.0			20.0		
		海	ナベカ						16.0	
海		ネズボ科				1.0				
海		アカウオ				0.5				
不		ハゼ科		33.3				5.0	12.0	
海		アカシタピラメ							1.6	
不		ウシノシタ科							1.6	



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

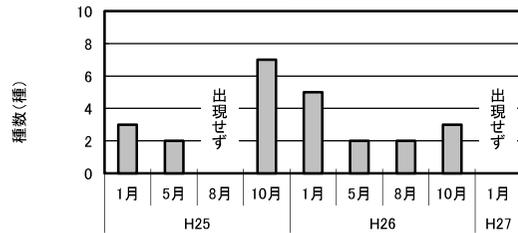
(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

③1有明海(Stn39)

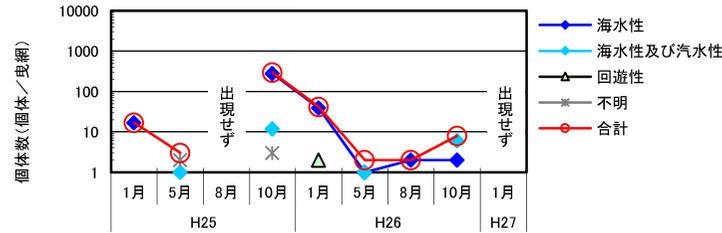
- 種数は0~7種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0~293個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はカタクチイワシ、コノシロ、サンゴタツ、メバル属、キチヌ、イカナゴ、ネズツポ科、ハゼ科などであった。



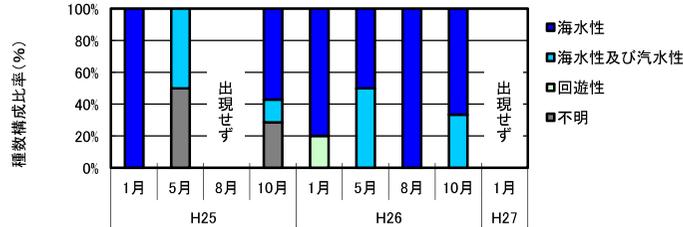
種数



生態別個体数



生態別種数



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年	
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月	
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	コノシロ		33.3				50.0			
		海	カタクチイワシ			87.7			50.0			
	トゲウオ目	海	サンゴタツ						50.0	12.5		
		海	カサゴ		11.8			4.9				
	カサゴ目	海	メバル属		47.1			17.1				
		海	アイナメ属					19.5				
	スズキ目	回	スズキ					4.9				
		海・汽	キチヌ				4.1				75.0	
		海	シロギス				6.1					
		海	イカナゴ		41.2			53.7				
		海	ネズツポ科					0.7	50.0			
		不	ハゼ科			66.7	○					
	カレイ目	海	アカシタビラメ								12.5	
		不	ウシノシタ科				0.7					



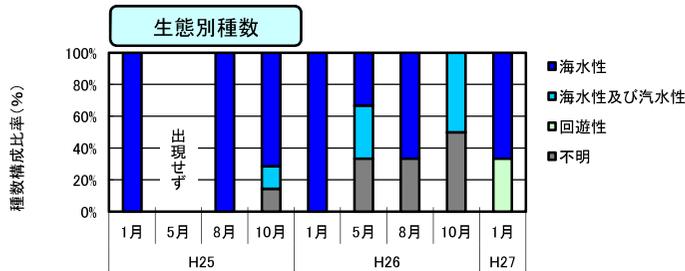
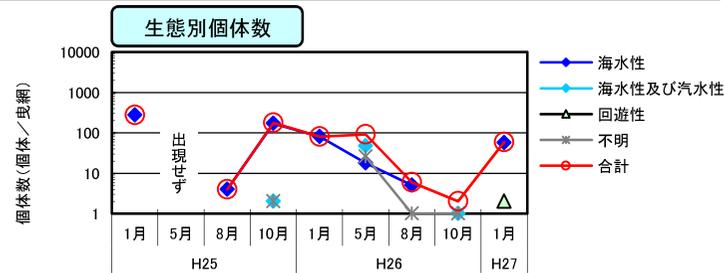
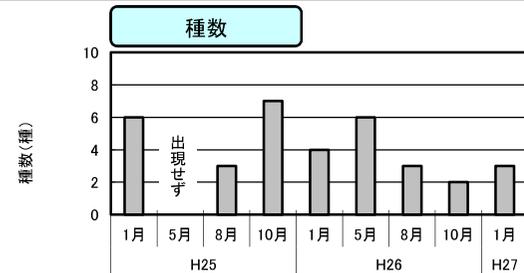
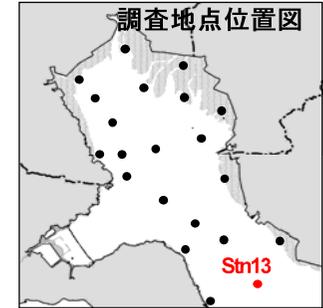
注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

諫早湾干拓事業 《Ⅱ 調査結果の概要》

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

③2有明海(Stn13)

- 種数は0~7種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は0~275個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はイカナゴ、カタクチイワシ、コノシロ、キチヌ、アミメハギなどであった。



項目			調査年月		平成25年				平成26年				平成27年
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月		
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	コノシロ						50.5				
		海	カタクチイワシ			25.0	95.5		15.4	50.0			
	ダツ目	海	ダツ			25.0							
		海	カサゴ	2.9					6.2				
	カサゴ目	海	ムラソイ	0.4									
		海	メバル属	3.6					1.2				
	スズキ目	海	アイナメ属	2.5					8.6				5.1
		回	スズキ										3.4
	海・汽	海	テンジクダイ				0.6						
		海・汽	キチヌ				1.1					50.0	
	不	不	ヘダイ亜科						6.6				
		海	シロギス				0.6			33.3			
	海	海	イカナゴ	90.2				84.0					91.5
		海	イソギンボ				0.6		4.4				
	不	不	ハゼ科				1.1		22.0	16.7			
海		ムシガレイ	0.4										
海	海	トビササウシノシタ				0.6							
	海	アミメハギ			50.0								

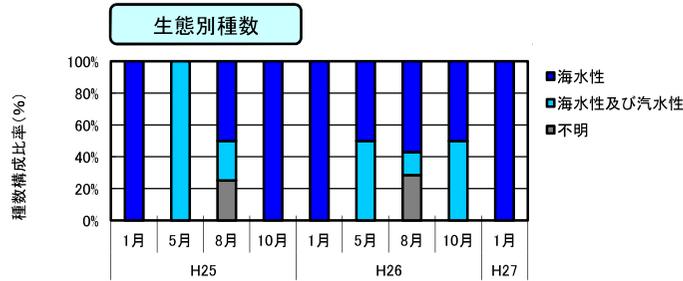
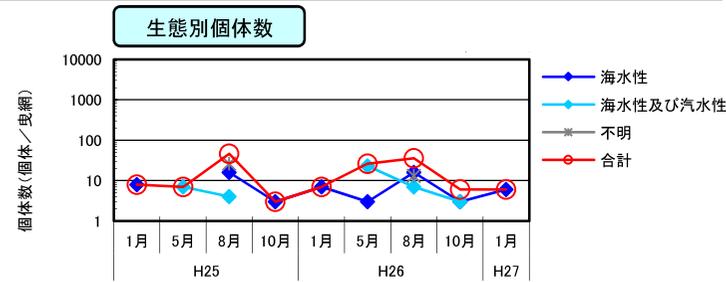
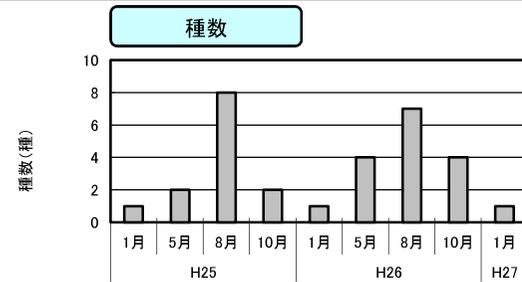


注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%)を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。

(7)水生生物 3)魚卵・稚仔魚(稚仔魚)

③③有明海(有区24号)

- 種数は1~8種で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 個体数は3~46個体/曳網で、生態別には主に海水性、海水性及び汽水性で構成されていた。
- 主な種はイカナゴ、コノシロ、ハゼ科、カタクチイワシ、キチヌ、アカシタビラメなどであった。



主な出現種

項目	調査年月		平成25年				平成26年				平成27年
			1月	5月	8月	10月	1月	5月	8月	10月	1月
主な出現種 (%)	ニシン目	海・汽	サツバ						19.4	16.7	
		海・汽	コノシロ		71.4			65.4			
		海	カタクチイワシ			66.7				16.7	
	ボラ目	海・汽	メナダ属		28.6			23.1			
	トウゴロウイワシ目	海	トウゴロウイワシ			21.7			11.1		
	ダツ目	海	サヨリ					7.7			
	スズキ目	不	ヒイラギ属			6.5					
		海・汽	キチヌ							33.3	
		海	シロギス			8.7			5.6		
		海	イカナゴ	100.0				100.0			100.0
		海	ナベカ			○	33.3		3.8	25.0	
		海・汽	ムツゴロウ			4.3					
		海・汽	ワラスボ			4.3					
		不	ハゼ科			50.0				33.3	
カレイ目	海	アカシタビラメ							33.3		



注1) 個体数のグラフは対数表示のため、出現数が0の場合はプロットされない。
 注2) 生態別集計において複数の水域に生息する可能性のある種を「○○性及び○○性」と表示した。また種レベルの同定が不能な種(同定不能種)、あるいは生息水域が未解明な種を「不明」と表示した。
 注3) 主な出現種表中の数値は各月の上位5種となった種の個体数構成比率(%), ○は上位5種以外の出現種を示す。
 注4) 主な出現種表中の略記は次のとおり 海:海水性、汽:汽水性、淡:淡水性、海・汽:海水性・汽水性、淡・汽:淡水性・汽水性、回:回遊性、不:不明
 注5) 主な種の写真は調整池、諫早湾あるいは有明海のいずれかで採取・確認された個体である。